

## 2023（令和5）年度 看護学部シラバス

## 看護学科（2019年度～2021年度入学生）

基礎科目					
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
19JUN101	看護学セミナー	1	19LAN117	英語Ⅰ	1
19HUM102	Science Basics	1	19LAN118	英語Ⅱ	1
19ART103	人間とアート	1	19LAN119	看護英語	2
19HUM104	文章表現法	1	19LAN120	英語Ⅲ	2
19HUM105	Humanities Basics	1	19LAN121	英語看護論文講読	3
19JUN106	キリスト教学	1	19LAN122	Reading & Writing	1~4
19JUN107	純心平和学	2	19HUM123	社会学概論	1
19JUN108	哲学	2	19HUM124	社会と法律	1
19JUN109	宗教学	2	19HUM125	情報科学	1
19HUM110	倫理学	1	19HUM126	文化人類学	1
19HUM111	論理学	1	19HUM127	家族社会学	1
19HDE112	教育学概論	1	19ART128	合唱音楽	1
19HDE113	心理学概論	1	19ART129	美術療法	3
19HDE114	発達心理学	1	19ART130	音楽療法	3
19HUM115	運動実技・理論Ⅰ	1			
19HUM116	運動実技・理論Ⅱ	2			

看護の基礎					
19NBA201	形態機能学Ⅰ	1	19NBA213	疾病治療論Ⅲ	2
19NBA202	形態機能学Ⅱ	1	19NBA214	疾病治療論Ⅳ	2
19NBA203	形態機能学Ⅲ	1	19NBA215	疾病治療論Ⅴ	2
19NBA204	形態機能学演習	1	19NBA216	看護の関係法規	4
19NBA205	医療概論	1	19NBA217	保健医療福祉システム論	2
19NBA206	病理学	1	19NPR218	ヘルスプロモーション論	1
19NBA207	薬理学	2	19NBA219	人間関係論Ⅰ	1
19NBA208	生化学	1	19NBA220	人間関係論Ⅱ	2
19NBA209	栄養学	1	19NBA221	人間関係論Ⅲ	4
19NBA210	感染予防学	1	19NBA222	看護倫理	2
19NBA211	疾病治療論Ⅰ	1	19NBA223	看護情報学	1
19NBA212	疾病治療論Ⅱ	1	19NBA224	臨床心理学	3

看護の実践					
19NBA301	看護学概論	1	19NPR321	母性看護学Ⅰ	2
19NPR302	看護技術演習Ⅰ	1	19NPR322	母性看護学Ⅱ	2
19NPR303	看護技術演習Ⅱ	1	19NPR323	精神看護学Ⅰ	2
19NPR304	看護技術演習Ⅲ	2	19NPR324	精神看護学Ⅱ	2
19NPR305	看護理論	1	19NPR325	精神看護学Ⅲ	3
19NPR306	看護過程	2	19NBA326	家族看護学	2
19NPR307	フィジカルアセスメント	2	19NPR327	終末期・緩和看護学	3
19NPR308	基礎看護学実習Ⅰ	1	19NPR328	がん看護	3
19NPR309	基礎看護学実習Ⅱ	2	19NPR329	補完代替医療と看護	3

## 2023（令和5）年度 看護学部シラバス

看護の実践					
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
19NPR310	発達看護学Ⅱ（成人）	2	19NPR319	小児看護学Ⅱ	2
19NPR311	成人看護学Ⅰ	2	19NPR320	小児看護学Ⅲ	3
19NPR312	成人看護学Ⅱ	3	19NPR330	成人看護学実習Ⅰ	3
19NPR313	成人看護学Ⅲ	3	19NPR331	成人看護学実習Ⅱ	3
19NPR314	発達看護学Ⅲ（老年）	1	19NPR332	老年看護学実習Ⅰ	2
19NPR315	老年看護学Ⅰ	2	19NPR333	老年看護学実習Ⅱ	3
19NPR316	老年看護学Ⅱ	2	19NPR334	小児看護学実習	3
19NPR317	発達看護学Ⅰ（小児）	2	19NPR335	母性看護学実習	3
19NPR318	小児看護学Ⅰ	2	19NPR336	精神看護学実習	3

看護の発展					
19NAD401	医療安全	3	19NAD410	看護技術フォローアップ演習	4
19NAD402	医療経済論	4	19NPR411	在宅看護学Ⅰ	2
19NAD403	多職種連携論	4	19NPR412	在宅看護学Ⅱ	3
19NAD404	看護管理学	4	19NPR413	在宅看護学実習	3~4
19NAD405	国際看護学	1	19NAD414	統合実習	4
19NAD406	災害看護学	1	19NAD415	看護研究方法	2
19NAD407	看護行政と看護の展望	4	19NAD416	看護研究Ⅰ	2~3
19NAD408	看護論	4	19NAD417	看護研究Ⅱ	4
19NAD409	看護教育論	4			

授業科目名	英語看護論文講読	担当教員名	増田 光			
コード	19LAN121	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	3年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
文献調査において、英文文献の講読は有用である。この科目では、本学の学位授与に関する方針である「多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。」が備わるよう、2年間の英語学習の総仕上げとして英語を学ぶ。具体的には、卒業研究の文献調査で役立つ英文読解を学ぶ。1年次の「英語Ⅰ、Ⅱ」、2年次の「看護英語」を経て、英語の基礎や看護に必要とされる英語表現の知識を活かして、より専門的な文献を読む読み方のコツを学ぶ。読解のテキストは用いず、プリントを配布して授業を進める。最初の4コマは英文法・英語構文などを復習して英文読解の基礎を固める。加えて看護系論文の構成についての理解も深める。次の10コマは、様々な領域の看護系論文を読み進めながらグループ発表を行い、自らの調査や知見を加えて最終レポートにまとめる。なお語彙力強化のため、『看護英語の基本用語と表現』をテキストに用いて毎回、単語テストを実施する。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
				ディプロマ・ポリシー		
				①	②	③
1 基本的な英文法や語彙を復習するため、読解の基礎固めができる。						○
2 看護系英語論文の構成を理解することで、卒業後も学び続けることができる。						○
3 様々な分野の論文を英語で読むことで、専門としない分野の理解も深まる。						○
4 卒業研究のテーマと関連した内容で最終発表を行うので、自らの研究に役立たせることができる。						○ ○
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	Introduction (授業の進め方、読解力テスト、英文読解のコツ)	増田	予習(60分): テキストを購入して全体を通読する。 復習(20分): 読解力テストの内容を復習する。			
2	看護系論文の構成(和文および英文) 単語テスト:「病院施設」	増田	予習(20分): 「病院施設」(pp.62-80)を覚える。 復習(20分): 看護系論文の構成について復習する。			
3	英文法の基礎(品詞と構文) 単語テスト:「医療従事者」	増田	予習(20分): 「医療従事者」(pp.81-91)を覚える。 復習(20分): 英文法の基礎を復習する。			
4	英文読解の基礎(速読、精読、段落読み) 単語テスト:「薬剤」	増田	予習(20分): 「薬剤」(pp.92-98)を覚える。 復習(20分): 英文読解の基礎を復習する。			
5	論文講読(精神領域1) 単語テスト:「患者さんの日常生活」「精神看護」	増田	予習(1時間): 「患者さんの日常」(pp.99-109)、「精神看護」(pp.16-20)を覚える。 精神領域の論文に目を通しておく。 復習(20分): 論文の内容を復習する。			
6	論文講読(精神領域2) 単語テスト:「体の外部・身体の内部」	増田	予習(1時間): 「患者さんの日常」(pp.99-109)、「精神看護」(pp.16-20)を覚える。 精神領域の論文に目を通しておく。 復習(20分): 論文の内容を復習する。			
7	論文講読(母性領域) 単語テスト:「症候と徴候」「母性看護」	増田	予習(1時間): 「症候と徴候」(pp.134-146)、「母性看護」(pp.21-31)を覚える。 母性領域の論文に目を通しておく。 復習(20分): 論文の内容を復習する。			
8	論文講読(小児領域) 単語テスト:「疾患と創傷」「小児看護」	増田	予習(1時間): 「疾患と創傷」(pp.147-154)、「小児看護」(pp.10-15)を覚える。 小児領域の論文に目を通しておく。 復習(20分): 論文の内容を復習する。			
9	論文講読(成人領域1) 単語テスト:「検査」「成人看護」	増田	予習(1時間): 「検査」(pp.155-165)、「成人看護」(pp.2-9)を覚える。成人領域の論文に目を通しておく。 復習(20分): 論文の内容を復習する。			
10	論文講読(成人領域2) 単語テスト:「診察」「基礎看護」	増田	予習(1時間): 「診察」(pp.166-170)、「基礎看護」(pp.50-59)を覚える。成人領域の論文に目を通しておく。 復習(20分): 論文の内容を復習する。			
11	論文講読(高齢者領域1) 単語テスト:「治療と療法」	増田	予習(1時間): 「治療と療法」(pp.171-178)を覚える。高齢者領域の論文に目を通す。 復習(20分): 論文の内容を復習する。			
12	論文講読(高齢者領域2) 単語テスト:「老年看護」	増田	予習(1時間): 「老年看護」(pp.37-44)を覚える。高齢者領域の論文に目を通しておく。 復習(26分): 論文の内容を復習する。			
13	論文講読(在宅領域1) 単語テスト:「在宅看護」、グループ発表準備	増田	予習(1時間): 「在宅看護」(pp.45-49)を覚える。在宅領域の論文に目を通しておく。 復習(20分): 論文の内容を復習する。			
14	論文講読(在宅領域2)、グループ発表準備	増田	予習(20分): 在宅領域の論文に目を通しておく。 復習(20分): 論文の内容を復習する。グループ発表の準備。			
15	グループによる最終発表	増田	課題(2時間以上): 最終レポートをまとめる。			

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		authenticな素材の活用(実際の英語論文を読む。)
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小テストを回収後、解答の解説を行う。</li> <li>● プレゼンテーションのフィードバックは、後日、紙面にて個別に配布する。</li> </ul>		
【成績の評価方法】		
<p>小テスト: 60%、最終発表および最終レポート: 40%</p> <p>1. 小テストはテキストの範囲から出題する。</p> <p>2. 最終発表は、授業内で扱った英語論文、または自らが紹介したい英語論文を熟読し、内容を掘り下げて発表する。評価は、内容4割、伝わりやすさ3割、正確さ3割の総合評価とする。</p> <p>3. 最終レポートは個別に執筆し、発表内容をまとめるとともに、自らが調査した内容も含めること。</p>		
【ルーブリック評価の活用( 無 )】		
【履修申請上の条件】		
選択科目ではあるが、英語選択必修3科目から1単位の履修が卒業要件となっていることから、必要単位が満たされていない学生は必ず履修すること。		
【教科書】		
『看護英語の基本用語と表現』園城寺康子、川越栄子編、MEDICAL VIEW		
【参考書】		
『看護英語読解15のポイント』園城寺康子、川越栄子等編、MEDICAL VIEW		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
特になし。		
【オフィスアワー】		
月曜日3,4時限		
【教員連絡先】		
hmasuda@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
原則として、2年生必修科目である「看護英語」が履修済であること。		

授業科目名	美術療法	担当教員名	藤木 晃宏			
コード	19ART129	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	3年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。 ② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。 ③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。 ④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。 ⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】 一般的に美術療法は、絵画や造形などを含む作業を行わせる心理療法の一つとして位置づけられているが、本科目の授業では、心理療法とは違ったアプローチによる「臨床美術」について学習する。 臨床美術とは1995年に彫刻家の金子健二によって認知症改善を目的にして考案されたもので、1996年より実践展開してきた創作活動自体を重視したアートセラピーのひとつである。臨床美術は、美術創作活動が脳機能を活性化させ、認知症予防に有効ではないかという視点に立ち、東北福祉大学・感性福祉研究所を中心に研究されてきた。現在では、認知症予防や症状改善だけでなく、子どもの感性を豊かに育む教育や企業内でのメンタルヘルスケアとしても取り組まれている。授業では臨床美術の概念を学ぶとともに、制作体験を通して自らの感性と出会い、実践を通して美術を用いた他者の感性との関わりに理解を深めることを目的としている。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
ディプロマ・ポリシー						
① ② ③ ④ ⑤						
1 講義だけでなく絵画制作などの体験学習を組み込むことで、臨床美術の役割や効果について述べるができる。						
2 絵を描くことに対して上手下手の価値観から解放されることで、誰でも自己表現することができる。						
3 作品制作や鑑賞会を通して、他者への受容と共感を意識したポジティブなコミュニケーションができる。						
4						
5						
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	臨床美術・基幹1 臨床美術の歴史、基本的な考えを学ぶ。	藤木	予習(15分):シラバスの内容を一読しておく			
2	臨床美術・基幹2 臨床美術の目的、アートプログラムなどの実践について学ぶ。	藤木	復習(30分):教科書P.12-56を読んでおく			
3	右脳モード演習 脳の活性化のための右脳モードによる描き方の紹介と演習。	藤木	課題(180分):「ゴッホの素描 逆さ絵」の演習 (提出日:授業6回目)			
4	アートプログラム制作体験1 「五感のアナログ画」 見えないものを感じて描くことを体験する。	藤木	課題:「アナログ日記」を描く (提出日:授業10回目) 1枚 約10～15分で、提出までに計20枚程度描く			
5	アートプログラム制作体験2 「りんごの量感画」 五感でりんごを感じながら描くことを体験する。	藤木	復習(20分):表現することの楽しさについての振り返り			
6	「存在論的人間観」 臨床美術の根幹になっている基本的な考え方を学ぶ。	藤木	復習(30分):教科書P.96-120を読んでおく 課題提出:「ゴッホの素描 逆さ絵」			
7	アナログ画の理解を深める クローキア演習を通して、自宅課題の取り組みに反映させる。	藤木	課題:授業内容を参考に、引き続き「アナログ日記」を描く (提出日:授業10回目) 1枚 約10～15分で、提出までに計20枚程度描く			
8	アートプログラム制作体験3 「立体・かぼちゃ」 既成概念にとらわれない自由な表現を体験する。	藤木	復習:(20分) 表現することの楽しさについての振り返り			
9	臨床美術・コミュニケーションⅠ 「私の感性地図」 鑑賞会「りんごの量感画」 臨床美術におけるコミュニケーションの目的を学ぶ。	藤木	予習:(30分) 「私の感性地図」を作成しておく 課題提出:「私の感性地図」※授業で使用			
10	臨床美術・コミュニケーションⅡ 共同制作「2人で描く線と色の抽象画」 作品制作を通して受容と共感について学ぶ。	藤木	課題提出:「アナログ日記」 復習(20分):アート制作によるコミュニケーションについての振り返り			
11	臨床美術のセッションについて 実践現場の映像を視聴しながら、臨床美術士の役割や姿勢を理解する。	藤木	復習(15分):教科書P.122-143を読んでおく 臨床美術士の参加者との関わり方について振り返り			
12	臨床美術アートプログラム研究 アートプログラムの目的を理解する。 アートプログラム制作体験4 「カラフル コンポジション」	藤木	復習(15分):アートプログラムの役割と意味について考える。			
13	アートプログラム制作体験5 「さつまいもの量感画」 制作を通して量感画の理解を深める。	藤木	予習(15分):「さつまいもの量感画」のレジメを読んでおく			
14	アートプログラム制作体験6 「色のアラベスク」 誰もが楽しみながら自己表現できることをあらためて実感する。	藤木	復習(15分):表現することの楽しさについての振り返り			
15	「臨床美術」～子どもへの取り組み 子どもの感性教育としての可能性について学ぶ。	藤木	レポート提出:指定した教科書「臨床美術」に対する感想と意見			
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク		○				
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						

<p><b>【課題のフィードバック】</b></p> <p>課題のフィードバックは、課題提出をした授業内で行う。</p>
<p><b>【成績の評価方法】</b></p> <p>〈評価基準〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真摯に取り組む姿勢(発言など)、積極的に授業時の実技活動に参加したかを「授業参加度」として評価する。</li> <li>・授業での学びを踏まえ、課題の趣旨を理解して取り組んだか、また全課題を提出したかを基準として「課題提出」を総合評価する。</li> <li>・「レポート」は指定した教科書の内容の要約や引用文のみで論じるのではなく、授業での体験学習も交え、自分の観点を盛り込んだ具体性のある内容であるかどうかを評価する。</li> </ul> <p>〈割合〉 授業内での発言等授業参加度30%、課題提出30%、レポート40%で総合評価する。</p>
<p><b>【ルーブリック評価の活用( 無 )】</b></p>
<p><b>【履修申請上の条件】</b></p> <p>受講の前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業および課題で使用する下記の指定画材(3点)を必ず購入すること。※学務課窓口で指定画材と代金引換(授業初日に説明)</li> </ul> <p>脳いきいきオイルパステル、新和紙セット、スケッチブックSM ※指定外の画材は不可</p>
<p><b>【教科書】</b></p> <p>「臨床美術～認知症治療としてのアートセラピー」金子健二 編 日本地域社会研究所</p>
<p><b>【参考書】</b></p> <p>臨床美術—認知症医療と芸術のコラボレーション」宇野 正威/芸術造形研究所(編著) 金剛出版  「こころ輝く世界」金子 健二(著, 編集), 宇野 正威(監修) 遙書房  「決定版 脳の右側で描け」ベティ・エドワーズ(著) 河出書房新社</p>
<p><b>【オープンな教育リソース】</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>【担当教員の実務経験】</b></p> <p>臨床美術士として、臨床美術の現場経験を交えながら講義、実技を行う。</p>
<p><b>【オフィスアワー】</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>【教員連絡先】</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>【備考】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を描くことに苦手意識のある人、自信がない人でも表現する楽しさを実感してほしい。</li> <li>・アートを通じた受容と共感、ポジティブなコミュニケーションのヒントになる。</li> </ul>

授業科目名	音楽療法	担当教員名	鎗木 陽子			
コード	19ART130	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	3年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。 ② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。 ③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。 ④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。 ⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
音楽療法の対象領域は、発達障害、精神疾患、高齢者、ホスピス緩和ケア、ストレスマネジメントなど多岐に及び、その実践の場は医療、福祉、教育、心理の領域にまたがる。何らかの障害や病気、問題を抱えた対象者に対して、音楽によるコミュニケーションを通じて問題の解決・改善を図っていくことが音楽療法の目的である。対象者別に音楽療法の理論を学ぶとともに、ロール・プレイや実習、グループワークも随時取り入れ、実際に「音」を通してのコミュニケーションを体験できるように授業を展開していく予定である。特に児童、高齢者、ホスピス緩和ケアの領域に重点を置き、将来、看護、福祉の領域でケアに携わりたいと考えている学生が学べるように授業を進める。音楽療法の知識を習得すると同時に、各自の人生と音楽とのかかわりについての考察を深めていく。なお授業時間内に2回の小テストを予定している。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
				ディプロマ・ポリシー		
				①	②	③
1 音楽が人の心とからだにもたらす働きを理解し、対象領域ごとに音楽療法の意義と内容を説明できる				○		
2 人間の生活と音楽との結びつきを考察し、自らの生き方を見つめなおし、音楽はどのような存在であるかを自分の言葉で表現できる				○		
3 将来就く仕事の中で音楽をどのように生かし得るかを考察し、具体的に構想し、音楽プログラムを計画し、行なうことができる				○		○
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	音楽療法の歴史と概念、定義、音楽の機能について	鎗木	配付資料を読み、疑問点、関心があることをまとめとくこと			
2	自分と音楽との関係を知る ―好きな曲をカテゴリ化してみよう―	鎗木	自分の好きな音楽を最低20曲、予めリストアップしておくこと			
3	サウンド・マップを作成する	鎗木	裏山を歩くので歩きやすい靴を用意すること			
4	癒しの楽器としてのパイプオルガン①	鎗木	色鉛筆を各自持参すること。授業中に取り組んだ課題を仕上げる。オルガンで弾きたい楽譜を用意すること			
5	替え歌のワーク ―《翼をください》―	鎗木	出来上がった替え歌を清書し、歌として整えること			
6	児童領域の音楽療法― ノードフ・ロビンズ音楽療法に学ぶ	鎗木	視聴したビデオの内容をまとめておく			
7	小テスト①/身近な素材で楽器を作ろう	鎗木	楽器に使える素材を集めておく			
8	癒しの楽器としてのパイプオルガン②	鎗木	色鉛筆を各自持参すること。授業中に取り組んだ課題を仕上げる。オルガンで弾きたい楽譜を用意すること			
9	人生の先輩へのインタビュー(発表)	鎗木	期日までにインタビューを完了して、内容をまとめておくこと			
10	高齢者領域の音楽療法	鎗木	指定した曲を予めYouTubeで聴いておくこと			
11	ワーク「友の語りを聴く、自分自身を語る」	鎗木	自分の好きな色と音楽について語れるように準備する			
12	小テスト②/ホスピス緩和ケアの音楽療法①	鎗木	配付資料を読み、疑問点、関心があることをまとめとくこと			
13	ホスピス緩和ケアの音楽療法②	鎗木	ロールプレイを予定しているので、資料を読んでおくこと			
14	音楽による自分史づくり	鎗木	年表を完成させる			
15	自分だけのオリジナルCD製作構想	鎗木	自分が余命3ヶ月と想定し、自分の大切な曲をリストアップしておく			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート			○			
④:グループワーク			○			
⑤:プレゼンテーション			○			
⑥:実習・フィールドワーク						

<p><b>【課題のフィードバック】</b></p> <p>小テスト、リアクションペーパー、課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行なう。</p>
<p><b>【成績の評価方法】</b></p> <p>レポート50%、小テスト(2回)20%、毎回のリアクションペーパー20%、平常点(授業への取り組み、授業中の質問・発言等)10%。合計:100%          レポートの採点基準は「参考文献を適切に用い、既存の学説等を踏まえたうえで自分の意見を述べているか」ということである。なお、レポート提出の際は参考文献・資料を必ず明記すること。明記しない場合は減点の対象とする。明らかにネット情報からの「コピペ」とであると判断されるレポート記述は採点対象から除外する。</p>
<p><b>【ルーブリック評価の活用(無)】</b></p>
<p><b>【履修申請上の条件】</b></p> <p>「音」および「音楽」を扱う授業であるので、静寂な教室環境を保持するよう各自留意すること。他者に悪影響を及ぼす行為、特に私語は慎むこと。授業進行に支障をきたすため、発表担当日の無断欠席は厳禁とする。          発表を無断欠席をした場合は、どんなにレポートが優れていても学期末評価は一段階低くなるので、各自責任を持って授業に出席すること。</p>
<p><b>【教科書】</b></p> <p>特に定めない。必要に応じて資料を配布する。</p>
<p><b>【参考書】</b></p> <p>宮本啓子・二俣泉編著『音楽療法を知る—その理論と技法—』杏林書院</p>
<p><b>【オープンな教育リソース】</b></p> <p>日本音楽療法学会 <a href="https://www.jmta.jp/">https://www.jmta.jp/</a>          日本サウンドスケープ協会 <a href="http://www.soundscape-j.org/soundscape.html">http://www.soundscape-j.org/soundscape.html</a></p>
<p><b>【担当教員の実務経験】</b></p> <p>ホスピス緩和ケア領域の音楽療法士として、1998年よりホスピスの臨床で実践を続けている。現場での経験を踏まえて、音楽療法の理論と実践に関する指導を行う。</p>
<p><b>【オフィスアワー】</b></p> <p>金曜日3限(前もって連絡を入れること)</p>
<p><b>【教員連絡先】</b></p> <p>ykaburagi@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p><b>【備考】</b></p> <p>小テスト実施の前週(第4回、第10回)には、重要ポイントについて解説を行ない、試験範囲の内容に関する質問の時間を設ける。</p>



授業科目名	看護の関係法規	担当教員名	青木 浩文					
コード	19NBA216	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	4年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
この科目では、看護関係法規に関する基礎知識の習得を目指すとともに、看護実務に就いた後に必要となる、看護師の法的責任(民事上の責任、刑事上の責任、行政上の責任)についての知識、並びに「インフォームドコンセント」「ヒヤリハット」「看護記録の重要性」といった医療安全に関する基本的な知識を習得することを目的としている。看護師国家試験合格のために看護関係法規の知識を習得することは当然であるが、患者の権利を保護しつつ、看護業務を適切かつ安全に遂行する上で、看護師の法的責任及び医療安全に関する知識も必要不可欠といえるものであり、看護師を目指す者としてその習得は必須と考えられる。原則として講義形式の授業であるが、自ら考え、他者に理解できるよう自身の言葉で意見を述べる能力を養成するため、講義中も積極的に学生の発言を求める予定である。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 保健師助産師看護師法、医療法、医師法などをはじめとする看護関係法規の趣旨、目的、制度枠組みなどを把握すること。				○			○	
2 上記1で把握した知識ないし情報を応用して、看護師国家試験に合格することのできる力を養うこと。				○			○	
3 看護実務に就いた後に必要となる、看護師の法的責任(民事、刑事、行政上の責任)について理解すること。				○			○	
4 インフォームドコンセント、ヒヤリハット及び看護記録の重要性など、医療安全に関する基本的知識を習得すること。				○			○	
5 将来、上記3及び4にて修得した法的な観点を意識し、念頭に置きながら適切かつ安全に看護業務を遂行できるようになること。				○			○	
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	看護の関係法規Ⅰ ・看護師の法的義務や業務範囲を定める保健師助産師看護師法についての解説。	青木	予習(30分):各自が使用するテキストの該当箇所を通読しておく。 復習(30分):講義で配布したスライド資料及び講義中に取ったメモを再読する。					
2	看護の関係法規Ⅱ ・保健師助産師看護師法の解説。 ・医療法、医師法の解説。	青木	同上。					
3	看護の関係法規Ⅲ ・臨床看護に従事する看護師の法的責任(民法上の責任)の解説。	青木	予習(0分):特になし。 復習(60分):講義で配布したスライド資料及び講義中に取ったメモを再読する。					
4	看護の関係法規Ⅳ ・臨床看護に従事する看護師の法的責任(民法上、刑事上、行政上の責任)の解説。	青木	予習(0分):特になし。 復習(60分):講義で配布したスライド資料及び講義中に取ったメモを再読する。					
5	看護の関係法規Ⅴ ・看護事故の実際(著名な看護事故裁判例を素材として)	青木	予習(0分):特になし。 復習(60分):講義で配布したスライド資料及び講義中に取ったメモを再読する。					
6	看護の関係法規Ⅵ ・ヒヤリハットの解説及び具体的な事例の検討 ・インフォームドコンセントの意義についての解説。 ・看護記録の重要性の理解。	青木	予習(0分):特になし。 復習(60分):講義で配布したスライド資料及び講義中に取ったメモを再読する。					
7	随時試験	青木	予習:これまでの授業内容を総復習する。					
8	随時試験の解説・講評	青木	復習:定期試験の問題を総復習する。					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)								
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)								
③:ディスカッション・ディベート			○					
④:グループワーク								
⑤:プレゼンテーション								
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
定期試験の実施、回収後、解答についての解説を行う。								
【成績の評価方法】								
定期試験の成績(100点満点)で評価する。								
【ルーブリック評価の活用(無)】								
【履修申請上の条件】								
特になし。								

<b>【教科書】</b> 特になし。自作のスライド教材に沿って講義を進める。
<b>【参考書】</b> 特になし。自作のスライド教材に沿って講義を進める。
<b>【オープンな教育リソース】</b> 特になし。
<b>【担当教員の実務経験】</b> 医療機関側の代理人弁護士として実際に医療事件の処理を行ってきた経験を踏まえた講義を行う。
<b>【オフィスアワー】</b> 特になし
<b>【教員連絡先】</b> 下記メールアドレスまで御連絡ください。 aoki@hiroaoki-law.com
<b>【備考】</b> 講義中、学生の皆さんに発言を求めることがありますので、その際は、自分自身の考えを積極的に述べることを期待しています。

授業科目名	人間関係論Ⅲ	担当教員名	福永ひとみ			
コード	19NBA221	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	4年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
看護場面についてのロールプレイや文献学習などのグループ学習を通して、患者－看護師関係について深く考察し、治療的関係の成立を目指した支援について学修する。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
ディプロマ・ポリシー						
① ② ③ ④ ⑤						
1	患者-看護師関係に関する原著や総説論文等を要約し、意見交換できる。	○				
2	看護場面のロールプレイングにおいて、選定の理由、患者の紹介、場面の特徴などについて意見交換できる。	○				
3	体験した看護場面をプロセスレコードを用いて、分析の視点に基づいて意見交換できる。		○			
4	演習場面の患者の状態や患者-看護師関係の段階に応じた適切なコミュニケーションのあり方について、根拠を元に意見を述べるができる。		○			
5	根拠を元に、発表者の考えを支持したり、自己の意見を明確に述べるができる。		○			
6	選定した自己の看護場面について、患者-看護師関係に関するサブテーマを設定し、論文形式でまとめることができる。					○
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	イントロダクション 看護場面の再構成、プロセスレコードの分析の視点について 【演習】場面の選定	福永	予習(60分): 人間関係論(対人支援論) I II で学んだ内容について復習。既習の看護学実習で体験した看護場面の中から、患者－看護師関係の視点で振り返りたい場面を考えてくる。 復習(30分): 配布資料を見直し、授業ノートの整理、選定場面の精選			
2	人間関係に関する文献検討① 【演習】	福永	予習(60分): 文献検索方法について復習 課題1「文献検索、文献要約」文献と要約 A4 1枚程度 復習(30分): 配布資料を見直し、授業ノートの整理、課題の不足分の補足			
3	人間関係に関する文献検討② 【演習】 文献検討会	福永	予習(60分): 文献要約を見直し、プレゼンテーションの準備 復習(30分): 配布資料を見直し、授業ノートの整理、課題の不足分の補足			
4	人間関係に関する文献検討③ 【演習】 文献検討会	福永	予習(60分): 文献要約を見直し、プレゼンテーションの準備 復習(30分): 配布資料を見直し、授業ノートの整理、課題の不足分の補足			
5	看護場面の再構成、ロールプレイング 【演習】 プロセスレコード検討会	福永	予習(60分): プロセスレコードの分析視点の確認、異和感の対自化・コミュニケーション技法 課題2「看護場面のプロセスレコード」 復習(30分): 授業ノートの整理、プロセスレコード分析の不足点を補足する			
6	看護場面の再構成、ロールプレイング 【演習】 プロセスレコード検討会	福永	予習(60分): プロセスレコードの分析視点の確認、異和感の対自化・コミュニケーション技法 課題2「看護場面のプロセスレコード」 復習(30分): 授業ノートの整理、プロセスレコード分析の不足点を補足する			
7	最終課題の記載	福永	予習(60分): プロセスレコードの検討会で気づいたことを整理する 課題3「再分析し追記・訂正したプロセスレコード」 復習(60分): 最終課題に取り組む			
8	まとめ 【学習成果発表会】	福永	予習(60分): 最終課題の内容を見直し、プレゼンテーションの準備 最終課題「患者-看護師関係に関するサブテーマを設定し、取り上げた看護場面をまとめる」論文形式A4 枚数制限なし			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①: PBL (課題解決型学習)				特になし		
②: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③: ディスカッション・ディベート			○			
④: グループワーク			○			
⑤: プレゼンテーション			○			
⑥: 実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
提出課題等は、次回講義時に全体にフィードバックする。個別にも対応する。 演習レポートおよびプロセスレコードは、指定の様式(配布予定)に手書きか、wordで作成して記録可。 最終課題レポートは、wordで作成し、フォント10.5～11, 体裁40字×40行、余白基準とする。レポート用紙の上段に「課題名・学生番号・氏名・提出月日」を記入し、後尾に教科書以外の引用及び参考文献名を記述する。 各課題の提出期限は、講義時に提示する。欠席時は、後日、本人が提出(代理提出不可)。						
【成績の評価方法】						
1 課題1(20%)、課題2、3(30%)、最終課題(50%) 合計100% 2 評価基準 課題1～3は、1)提出期限と体裁、2)記載方法の理解 3)課題に応じた内容の記載 最終課題は、1)提出期限と体裁 2)文章表現力 3)自己意見 4)具体性 5)文献引用明記						
【ルーブリック評価の活用(有)】						
【履修申請上の条件】						
1 対人支援論 I、II を履修していること 2 受け持ち患者をもつ実習科目を履修していることが望ましい						
【教科書】						
特になし						
【参考書】						
必要時紹介する						

<b>【オープンな教育リソース】</b> 特になし
<b>【担当教員の実務経験】</b> 看護師資格を持ち、臨床看護の実務経験を有す
<b>【オフィスアワー】</b> 火、水、木曜日昼休み時間(12:10～13:00)
<b>【教員連絡先】</b> 福永研究室 3号館 3階 3417号室 hfukunaga@g.t-junshin.ac.jp
<b>【備考】</b> 講義日程は不定期

授業科目名	臨床心理学	担当教員名	河田 幸子				
コード	19NBA224	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	3年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。 ② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。 ③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。 ④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。 ⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
人をケアする仕事は、自分を理解し、自分を大切にできないと本当の意味で相手をケアできない。 この科目では、臨床心理学の基礎及び、心理療法の基本から心理学的援助の視点(特に聴くことの意味・聴き方)を学び、自己理解から他者理解を深め、対象者の立場に立って考える力をつける。 さらに、メンタルヘルスの不調(精神疾患)の事例を通してその特徴の理解を深め、具体的な心理学的援助の実際を学び、看護に活かせる力を身につける。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1 臨床心理学の概念について説明できる。			○				
2 心理療法の基本的な理論・実際について説明できる。			○	○			
3 心理学的援助の基本的態度について説明できる。				○			
4 自己理解から他者理解を深め、対象者の問題の背景を考慮することができる。				○	○		
5 メンタルヘルスの不調についてその特徴を理解し、それぞれに適した対応の方法、注意点を説明できる。				○	○		
授業計画		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	臨床心理学とは 1. 定義 2. 歴史 (授業資料はパワーポイントで作成したものを活用します。)	河田	予習(30分):シラバスに目を通し、臨床心理学のイメージをもつ。臨床心理学について調べる。 復習(10分):授業資料を見て復習する。イメージと実際の違いについて考える。				
2	心をどう捉えるか 1. 感情・行動・症状の意味を理解する。 2. パーソナリティの理解【自分を理解するワーク】 (授業資料はパワーポイントで作成したものを活用します。)	河田	予習(10分):前回の授業内容を確認する。 復習(30分)授業資料を見て復習する。自己理解を深め、自分の感情や行動を意識する。				
3	心をどう捉えるか(心理検査について) 3. アセスメント【正しく捉えるワーク】【心理検査の体験ワーク】 (授業資料はパワーポイントで作成したものを活用します。)	河田	予習(10分):前回の授業内容を確認する。 復習(30分):授業資料を見て復習する。正しく対象者を理解する方法について考える。				
4	心をどのように理解するか 1. 自分自身「どのように自分とうまく付き合うか」 (授業資料はパワーポイントで作成したものを、配布資料を活用します。)	河田	予習(10分):前回の授業内容を確認する。 復習(30分):授業資料を見て復習する。自己肯定感について考える。				
5	心をどのように理解するか 2. 対人関係のこと「どのように他者とうまく付き合うか」 (授業資料はパワーポイントで作成したものを、配布資料を活用します。)	河田	予習(10分):前回の授業内容を確認する。 復習(30分):授業資料を見て復習する。自分の対人関係の持ち方のくせを調べる。				
6	どのように心の問題を解決していくか 1. 受容と共感【共感のワーク】 (授業資料はパワーポイントで作成したものを活用します。)	河田	予習(10分):前回の授業内容を確認する。 復習(30分)授業資料を見て復習する。日常の中で起こっている共感と受容の関係について考える。				
7	どのように心の問題を解決していくか 2. 人の悩みを聴く基本的構え「語り」を聴くということ【傾聴のワーク】 (授業資料はパワーポイントで作成したものを、配布資料を活用します。)	河田	予習(10分):前回の授業内容を確認する。 復習(30分):授業資料を見て復習する。さらに興味がある部分を図書館で調べる。				
8	どのように心の問題を解決していくか(代表的な心理療法を学ぶ) 3. 臨床に役立つ基礎心理学【心理療法の体験ワーク】 (授業資料はパワーポイントで作成したものを、配布資料を活用します。)	河田	予習(10分):前回の授業内容を確認する。 復習(60分):授業内容を確認し、基礎心理学についてさらに興味がある場合は図書館で調べる。				
9	どのように心の問題を解決していくか(代表的な心理療法を学ぶ) 4. 代表的な心理療法【心理療法の体験ワーク】 (授業資料はパワーポイントで作成したものを活用します。)	河田	予習(60分):前回の授業内容を確認し、心理療法について調べてくる。 復習(30分):資料を確認し、さらに興味がある場合は図書館で調べる。				
10	事例を通じた疾患理解と心理学的援助1:子どもの発達障害 【アセスメントワーク】(配布資料を配ります。)	河田	予習(60分):前回の授業内容を確認し、発達障害について調べてくる。 復習(30分):資料を確認し、さらに興味がある場合は図書館で調べる。 課題レポート(1500字程度)について授業でお伝えします。				
11	事例を通じた疾患理解と心理学的援助2:不登校・引きこもり(保護者の面接) 【アセスメントワーク】(配布資料を配ります。)	河田	予習(60分):前回の授業内容を確認し、不登校や引きこもりについて調べてくる。 復習(30分):資料を確認し、さらに興味がある場合は図書館で調べる。				
12	事例を通じた疾患理解と心理学的援助3:心的外傷性ストレス障害(PTSD) 【アセスメントワーク】(配布資料を配ります。)	河田	予習(60分):前回の授業内容を確認し、心的外傷性ストレス障害について調べてくる。 復習(30分):資料を確認し、さらに興味がある場合は図書館で調べる。				

13	事例を通した疾患理解と心理学的援助4:癌の人のメンタルヘルス(うつ状態・うつ病) 【アセスメントワーク】(配布資料を配ります。)	河田	予習(60分):前回の授業内容を確認し、癌など身体疾患のメンタルヘルス、うつ病について調べてくる。 復習(30分):資料を確認し、さらに興味がある場合は図書館で調べる。
14	事例を通した疾患理解と心理学的援助5:大事な人を失くす(悲嘆カウンセリング) 【アセスメントワーク】(配布資料を配ります。)	河田	予習(30分):前回の授業内容を確認し、悲嘆カウンセリングについて調べてくる。 復習(30分):資料を確認し、さらに興味がある場合は図書館で調べる。
15	臨床心理学を援助に生かすために 1.心理学的ケアの力を知る、活かす。 2.自分を大切にすること (授業資料はパワーポイントで作成したものを活用します。)	河田	予習(30分):今までの授業内容を確認し、心理学的援助の知識を看護に役立てられる部分について考える。 復習(30分):授業資料を見て復習する。自分が取り入れられることを考える。
<b>【アクティブラーニング】</b>		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>•授業の始まりに心理療法内で活用されている技法の一つであるマインドフルネス体験やリラクゼーション法の体験をする。</li> <li>•授業内容のワークを沢山行い、体験を通して学ぶ機会を多く持つ。次の授業でフィードバックし、学びを深める。</li> </ul>
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク			
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
<b>【課題のフィードバック】</b>			
授業の小レポートや小テストは次の授業でフィードバックをする。課題レポートは、指定期日までに提出 返却時にフィードバック。			
<b>【成績の評価方法】</b>			
課題:100% 小テスト・小レポート:60%・・・毎授業ごとに、小レポートか小テストを行い、提出。 課題レポート(小論文):40%  合計:100% <b>【ルーブリック評価の活用(無)】</b>			
<b>【履修申請上の条件】</b>			
特になし			
<b>【教科書】</b>			
講義のパワーポイントを共有する。			
<b>【参考書】</b>			
榎村通子著『こころを大切に作る看護 燃え尽きを防ぐための臨床心理学』(日本評論社)2015 伊藤良子編著『臨床心理学ー全体的存在として人間を理解するー』(ミネルバ書房)2009			
<b>【オープンな教育リソース】</b>			
使用しません。			
<b>【担当教員の実務経験】</b>			
臨床心理士の経験をもとに、心理検査やカウンセリングに関する授業を行う。			
<b>【オフィスアワー】</b>			
授業内容についての質問やコメントは講義開始前もしくは終了後、教室で行う。			
<b>【教員連絡先】</b>			
skawada@g.tjunshin.ac.jp			
<b>【備考】</b>			
対人援助の仕事は燃え尽きやすい感情労働と言われています。自分を大切にしながら、相手がどのような体験をしているのか、その想像力をつけていくことが、心のケアに欠かせません。そのために臨床心理学の基礎を学び、自己理解を通して他者理解を深めていく入口になればと思います。			

授業科目名	精神看護学Ⅲ	担当教員名	福永 ひとみ 外部講師: 尾山 篤史, 佐藤 功, 都築 歩美				
コード	19NPR325	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	3年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
代表的な精神障害および主要な症状のある患者とその家族を援助するための基本的な看護の方法について学修する。演習では、ロールプレイによりコミュニケーションスキルを活用し対象とのかわりを学び、対人支援力を養う。看護過程の演習では、主体的に学習課題を発見し、調べ、推察し、グループワークでディスカッションし、学びを共有する。また、司法精神医療と看護、地域で生活する精神障害者を支援するために必要な法律と社会資源、多職種連携・協働、および精神科訪問看護の役割について学修する。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1	代表的な精神疾患の回復過程に応じた看護について説明できる。			○			
2	紙上事例の精神病理の特性、治療特性、個人特性(成長発達段階・社会経済面)、ストレングスなど多面的にアセスメントできる。			○			
3	ロールプレイで紙上事例のストレングスを述べ記述できる。				○		
4	紙上事例の看護上の問題を抽出し、看護計画を立案できる。			○			
5	紙上事例とロールプレイで精神障害をもつ人への対応について実施できる。			○			
6	地域で生活する精神障害をもつ人の理解と社会資源について説明できる。				○		
7	司法精神医療と看護について説明できる。				○		
8	精神科訪問看護の機能と役割について説明できる。					○	
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	看護過程演習 事例 統合失調症患者の看護 ① 【演習】事例紹介 基本情報の整理 個人ワーク	福永	予習(30分):教科書2第6章p228-229、精神看護学Ⅱ 統合失調症を持つ人への看護の授業資料、ノートを復習 課題①「基本情報の整理」 復習(60分):配布資料の見直し、課題の不足分を補足				
2	看護過程演習 事例 統合失調症患者の看護 ② 【演習】一次アセスメント(1) 個人ワーク	福永	予習(30分):前回の授業を基に課題を仕上げて授業に臨む 課題②「一次アセスメント(1)」 復習(60分):配布資料の見直し、課題の不足分を補足				
3	看護過程演習 事例 統合失調症患者の看護 ③ 【演習】一次アセスメント(2)仮の問題リスト 個人ワーク	福永	予習(30分):前回の授業を基に課題を仕上げて授業に臨む 課題③「一次アセスメント(2)」「仮の問題リスト」 復習(60分):配布資料の見直し、課題の不足分を補足				
4	看護過程演習 事例 統合失調症患者の看護 ④ 【演習】ストレングスと夢・希望、強みに着目し患者の目標設定 2人組でロールプレイ、二次アセスメント(1) 個人ワーク	福永	予習(30分):精神看護学Ⅰ 13回目の授業、前回の授業を基に課題を仕上げて授業に臨む 課題④「ストレングスと夢・希望、強みに着目し患者の目標設定」 復習(60分):配布資料の見直し、課題の不足分を補足				
5	看護過程演習 事例 統合失調症患者の看護 ⑤ 【演習】二次アセスメント(2) 個人ワーク	福永	予習(30分):前回の授業を基に課題を仕上げて授業に臨む 課題⑤「二次アセスメント」 復習(60分):配布資料の見直し、課題の不足分を補足				
6	看護過程演習 事例 統合失調症患者の看護 ⑥ 【演習】目標設定・初期計画 個人ワーク	福永	予習(30分):前回の授業を基に課題を仕上げて授業に臨む 課題⑥「目標設定・初期計画」 復習(60分):配布資料の見直し、課題の不足分を補足				
7	看護過程演習 事例 うつ病患者の看護 ① 【演習】一次アセスメント 個人ワーク	福永	予習(30分):事例、情報の整理を読む 課題⑦「一次アセスメント、仮の問題リスト」 復習(60分):配布資料の見直し、課題の不足分を補足				
8	看護過程演習 事例 うつ病患者の看護 ② 【演習】二次アセスメント 個人ワーク	福永	予習(30分):前回の授業を基に課題を仕上げて授業に臨む 課題⑧「二次アセスメント」 復習(60分):配布資料の見直し、課題の不足分を補足				
9	看護過程演習 事例 うつ病患者の看護 ③ 【演習】二次アセスメント修正、目標設定・初期計画 個人ワーク	福永	予習(30分) 前回の授業を基に課題を仕上げて授業に臨む 課題⑨「二次アセスメントの修正、目標設定・初期計画」 復習(60分):配布資料の見直し、課題の不足分を補足				
10	看護過程演習 事例 うつ病患者の看護 ④自殺予防リスクマネジメント 【グループ演習】TALKの原則(Tell,Ask,Listen,Keep safe)、2～3人組でロールプレイ	福永	予習(30分):教科書2第7章p257-260、296-300 課題⑩「振り返りシート」 復習(60分):配布資料の見直し、課題の不足分を補足				
11	【演習】 精神障害をもつ当事者の理解と社会資源の活用 ①当事者の体験:語りを聴く (ゲストスピーカー:当事者派遣活動「目が覚めたら夜だった」) 語りを聴き、グループワーク	尾山 【外部講師】 福永	予習(30分):教科書2第7章p257-260、296-300 復習(60分):配布資料の見直し、ノートの整理				

12	【演習】 精神障害をもつ当事者の理解と社会資源の活用 ②当事者が活用している社会資源の内容と効果 (ゲストスピーカー: 当事者派遣活動「目が覚めたら夜だった」) 語りを聴き、グループワーク	尾山 【外部講師】 福永	予習(30分): 教科書2第7章p257-260、296-300 課題⑩「語りやグループワークを通して学んだこと、疑問点」 復習(60分): 配布資料の見直し、ノートの整理	
13	司法精神看護 医療観察法の背景・概要、司法精神医療の特徴、多職種チームアプローチと看護師の役割、地域関係機関との連携、司法精神医療における看護チームによる評価、司法精神看護の課題と展望	佐藤 【外部講師】	予習(30分): 教科書1序章p24-25、教科書2第9章p439-458を読む 課題⑫「司法精神看護について学んだこと、疑問点」 復習(60分): 配布資料の見直し、ノートの整理	
14	地域における精神看護 ・社会的背景と精神科訪問看護の目的・意義、役割、機能、対象 ・精神科訪問看護の特徴・リハビリ、ストレングス ・展開方法、WRAP、クライシスプラン、セルフマネジメント支援、コミュニケーション、モニタリング機能、家族支援、病院の退院支援からの移行、社会資源の活用、地域における連携・協働のネットワーク	都築 【外部講師】	予習(30分): 教科書2第8章p351-399を読む 課題⑬「地域における精神看護について学んだこと、疑問点」 復習(60分): 配布資料の見直し、ノートの整理	
15	地域における精神看護 ・精神科訪問看護の実際 ・円グループの紹介 後期の実習オリエンテーション 最終課題の提示	都築 【外部講師】	予習(30分): 教科書2第8章p351-399を読む 最終課題「看護過程演習課題①～⑩の修正版」 復習(60分): 配布資料の見直し、ノートの整理	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)				当事者参加授業
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)				
③:ディスカッション・ディベート			○	
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション			○	
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
授業終了時、次回の予習課題を確認する。提出された課題に対するフィードバックは、講義内で行う。 欠席した場合は、担当教員の研究室を訪ね、必要な資料を受け取る。				
【成績の評価方法】				
1 課題(80%)、最終課題(20%) 合計(100%) 2 評価基準 1)提出期限と体裁、2)記載方法の理解 3)課題に応じた内容の記載				
【ルーブリック評価の活用(有)】				
【履修申請上の条件】				
精神看護学Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましい				
【教科書】				
1 岩崎弥生編:新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論/精神保健 第5版 メヂカルフレンド社 2019 (精神看護学Ⅰで使用した教科書) 2 岩崎弥生編:新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社 2019 (精神看護学Ⅰで使用した教科書)				
【参考書】				
1 萱間真美編:パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 第2版 照林社 2015 2 ドナルドW.ブラック,ナンシーC.アンドリアセン,澤 明監訳:DSM-5を使いこなすための臨床精神医学テキスト 医学書院 2015				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【担当教員の実務経験】				
看護師資格を持ち、精神科病棟での実務経験を有す 当事者活動を担当するゲストスピーカーは、自身が当事者であり、神奈川県内で当事者活動(ピア活動)の実践経験を有す 司法精神看護を担当するゲストスピーカーは、看護師資格を持ち司法精神看護の実務経験を有す 地域における精神看護を担当するゲストスピーカーは、円グループにおいて精神科訪問看護の実践経験を有す				
【オフィスアワー】				
火、水、木曜日 昼休み時間(12:10～13:00)				
【教員連絡先】				
福永研究室 3号館 3階 3417号室 hfukunaga@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
特になし				



授業科目名	終末期・緩和看護学	担当教員名	宗定水奈子					
コード	19NPR327	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	3年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】 緩和ケアには基本的緩和ケアと専門的緩和ケアがある。ここでは、基本的緩和ケアについて、苦痛の緩和、意思決定支援、多職種連携について学ぶ。治療の術は薬物療法のみではなく、心理社会的サポートやスピリチュアルケアなど、包括的な視点で多面的なアプローチが展開される。そのために必要な、ケアの対象である患者を「ひとりの人」として捉え、個性をもって全人的にアセスメントし、ケアする方法について習得し、3年次後期の領域実習に備える。 さらに、終末期(エンド・オブ・ライフ期)にある患者と支援者の身体的、精神的な苦痛とそれを支える看護について学び、ワークを通して疑似体験の機会を持つ。また、看護師自身がこころを整えることの意味を考える。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 終末期・緩和ケアの基本的な考え方や必要性、現在の課題について説明できる						○		
2 苦痛の緩和に必要なアセスメント項目、薬物療法、ケアについて具体的に説明できる					○			
3 チーム連携の必要性と基本的緩和ケアの役割について説明できる							○	
4 意思決定を支援するために必要な良好なコミュニケーションについて説明できる						○		
5 大切な人を失う支援者(医療者を含む)の心情、ケアの必要性について説明できる						○		
6 臨死期の身体的徴候やケア、看護師の役割について説明できる					○			
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	コースガイダンス I 終末期・緩和ケアの基礎知識 ・定義、歴史、法律 ・基本的緩和ケアと専門的緩和ケア ・基本的緩和ケアの3本柱(苦痛の緩和、意思決定支援、連携・橋渡し) ・全人的苦痛の考え方やアセスメントの視点 ・多職種連携の必要性とリソース	宗定	予習(90分):教科書を自己学習しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。					
2	II 苦痛の緩和と多職種連携(1)症状マネジメントと緩和ケアチームとの連携 ①疼痛 ・アセスメント(疼痛の種類、NRS) ・治療と看護(WHOラダー、NSAIDsとオピオイド、ゲートコントロール) ②呼吸困難 ・アセスメント(呼吸困難と呼吸不全の違い) ・治療と看護	宗定	予習(90分):教科書を自己学習しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。					
3	II 苦痛の緩和と多職種連携(2)症状マネジメントとリエゾンチームとの連携 ①身体的苦痛(食欲不振・嘔気嘔吐・便秘・全身倦怠感・浮腫) ・アセスメント ・治療と看護 ②精神的苦痛(不安・抑うつ・せん妄) ・アセスメント ・治療と看護	宗定	予習(90分):教科書を自己学習しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。					
4	III 意思決定支援におけるコミュニケーション ①インフォームド・コンセントの基本的な考え方や意思決定支援 ②コミュニケーション ・影響を及ぼす因子 ・基本的なコミュニケーションとコミュニケーションツールNURSE	宗定	予習(90分):教科書を自己学習しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。					
5	【Aグループ】IV 終末期のケア(1)スピリチュアルペインと家族(支援者)のケア ①存在意義とスピリチュアルペイン ②大切な人を失う家族(支援者)の心情 ・予期悲嘆、悲嘆のアセスメントとケア ・グリーフケア  【Bグループ】V ワークショップ(1)看護師のセルフケア(外部講師) ①セルフケアの必要性 ②ワークショップ:実習時にも使えるセルフケア	A 宗定 B 松原	予習(90分):教科書を自己学習しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。					
6	【Aグループ】V ワークショップ(1)看護師のセルフケア(外部講師) ①セルフケアの必要性 ②ワークショップ:実習時にも使えるセルフケア  【Bグループ】IV 終末期のケア(1)スピリチュアルペインと家族(支援者)のケア ①存在意義とスピリチュアルペイン ②大切な人を失う家族(支援者)の心情 ・予期悲嘆、悲嘆のアセスメントとケア	A 松原 B 宗定	予習(90分):これまでの講義の内容を復習しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。					
7	IV 終末期のケア(2)臨死期のケア ①患者・支援者の全人的なニーズ ②患者の基本的な身体的徴候や症状とケア ③看取り時における看護師の役割と対応	宗定	予習(90分):教科書を自己学習しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。					
8	V ワークショップ(2)価値観について ①DVD鑑賞、主人公の価値観についてのディスカッション ②カードゲームを通して人生の最終段階についての自分の価値観を知る	宗定	予習(90分):これまでの講義の内容を復習しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップによって学生自身が疑似体験できる機会を作る。</li> <li>・講義内に事例を盛り込み、実習計画と結びつけて考えられるようにする。</li> <li>・授業範囲に該当する国家試験の過去問題を出題することで、国家試験に備える。</li> </ul>
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容の質問や意見をリアクションペーパーに記入し、質問等のフィードバックは、クラスルームまたは次の講義の中で実施する。</li> </ul>		
【成績の評価方法】		
課題(ワークショップに関するレポート):30% 定期試験:70% 合計:100%		
【ルーブリック評価の活用(有)]レポートについて評価する		
【履修申請上の条件】		
1. 予習・復習をして授業を受けること。 2. 学んだ内容を成人看護学実習 I (慢性期)で活用すること。		
【教科書】		
系統看護学講座 別巻 緩和ケア(第3版), 医学書院, 2020.		
【参考書】		
日本緩和医療学会: 専門家をめざす人のための緩和医療学, 南江堂 薬物療法や症状緩和についてのガイドラインは日本緩和医療学会のHP ( <a href="https://jspm.ne.jp/guidelines/index.html">https://jspm.ne.jp/guidelines/index.html</a> )からダウンロード可能 ヴィクトール・フランクル著, 池田香代子訳: 夜と霧, みすず書房 千葉敦子: よく死ぬことは、よく生きることだ, 文芸春秋 アーサー・クラインマン著, 江口重幸訳: 病いの語り, 誠信書房 アイリーン・モロフ・ラブキンら著, 黒江ゆり子訳: クロニクイルネス-人と病いの新たななかかわり, 医学書院		
【オープンな教育リソース】		
人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン   厚生労働省 <a href="https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10802000-Iseikyoku-Shidouka/0000197701.pdf">https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10802000-Iseikyoku-Shidouka/0000197701.pdf</a> ステップ緩和ケアムービー(医療者向け): 症状マネジメント. 疼痛   OPTIM: がん対策のための戦略研究「緩和ケア普及のための地域プロジェクト」 <a href="http://gankanwa.umin.jp/movies.html">http://gankanwa.umin.jp/movies.html</a> 東京都がんポータルサイト 東京都福祉保健局 (tokyo.lg.jp) <a href="https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/iryo_hoken/gan_portal/">https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/iryo_hoken/gan_portal/</a>		
【担当教員の実務経験】		
がん看護専門看護師として、緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、緩和ケアセンターでの実務経験のある教員が教授する。		
【オフィスアワー】		
月曜日～木曜日 12:10-13:00 事前にアポイントメントを取ること。		
【教員連絡先】		
宗定(mmunesada@g.t-junshin.ac.jp)		
【備考】		
最終日のワークショップは、大切な人を亡くしたばかりの学生や、亡くすことが予測される状況にある学生には精神的な負荷がかかることが予測されるため、心配な場合は、前もって教員へ伝えること。		

授業科目名	がん看護	担当教員名	宗定水奈子			
コード	19NPR328	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	3年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。 ② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。 ③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。 ④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。 ⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】  
日本におけるがん医療の現状と課題、がん患者とその病態の特徴、がんの臨床経過、治療と看護の実際、症状マネジメント、患者サポートといった複合的な視点から、様々な治療を受けながらがんと共に生活する患者のQOLの維持・向上に向けた看護について学習する。また、疾患と治療、それに伴う看護を学ぶだけでなく、がんサバイバーシップ、地域包括ケア、家族ケア、がんリハビリテーション、リンパ浮腫、ニュースで提示される課題といったテーマを通して、人が“がん”と共に生きることを意味を考え、どのような支援が求められているのか、看護職者の役割と機能とは何かについて学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 がん医療の現状を理解し、がん看護に求められる役割について説明できる				○	
2 がん患者と家族の身体・心理・社会・スピリチュアルな特徴について説明できる			○		
3 がんに対する治療を理解し、看護の役割について説明できる		○			
4 がんの治療に伴う有害事象の予防、ケアについて説明できる		○			
5 がんの治療に関連した現在の課題について討議し、意見を発表できる			○		

【授業計画】	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	コースガイダンス I がん罹患すること ・がんの告知を受ける患者の体験 ・初期治療を受ける患者の体験 ・治療計画と意思決定支援	宗定	予習(90分):2学年成人看護学Ⅰ(慢性期看護)でのがんについての授業を復習しておく。厚生労働省ホームページ、東京都福祉保健局ホームページ がんポータルサイト、国民衛星の動向等の資料から、日本におけるがんの現状について予習し、授業に臨む。 復習(80分):本日の学びを振り返る。
2	II がんの治療を受けるということ ・慢性期、再発、転移による治療期における患者の体験 ・終末期における患者の体験 ・支援者の体験 ・治療計画と意思決定支援 ・家族(支援者)看護	宗定	予習(90分):教科書の該当箇所を予習しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。
3	III がんの検査と診療における外来看護 ・診断に至るまでの検査の流れ ・初期治療を受ける準備段階にある患者の看護 ・初期治療を終えた患者の看護	宗定	予習(90分):教科書の該当箇所を予習しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。
4	IV がんの治療と看護 (1)手術療法 ・手術療法の基礎 ・ボディイメージの変容と看護 ・リンパ節廓清とリンパ浮腫	宗定	予習(90分):教科書の該当箇所を予習しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。
5	IV がんの治療と看護 (2)がん薬物療法 ・がん薬物療法と看護 ・抗悪性腫瘍薬の有害事象と暴露対策 ・分子標的薬と免疫チェックポイント阻害薬 ・アピランスケア	宗定	予習(90分):教科書の該当箇所を予習しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。
6	IV がんの治療と看護 (3)放射線療法 ・放射線療法の基礎 ・放射線療法の有害事象 ・症状緩和を目的とした照射	宗定	予習(90分):教科書の該当箇所を予習しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。
7	V 残存機能の維持向上と後遺症に対する看護 ①がんのリハビリテーション ・がんの病期別の目的 ・がんのリハビリテーションにおける看護師の役割 ②リンパ浮腫と看護 ・リンパ節廓清を行った患者の看護	宗定	予習(90分):教科書の該当箇所を予習しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。
8	VI がん患者の在宅療養支援 ・退院へ向けての意思決定支援 ・退院支援のための方策 ・多職種連携 ・退院調整看護師の役割と機能 VII がん治療のトピックスについてのディスカッション	宗定	予習(90分):教科書の該当箇所を予習しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の内容をビジュラクラウドやDVDを用いて視覚的に確認しながら授業を行う。</li> <li>テーマに合った国家試験問題を提示し、国家試験に備える。</li> </ul>
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>講義内容の質問や意見をリアクションペーパーに記入し、質問等のフィードバックは次の講義の中で実施する。</li> </ul>		
【成績の評価方法】		
定期試験:100% 合計:100%		
【ルーブリック評価の活用( 無 )】		
【履修申請上の条件】		
1. 予習・復習をして授業を受けること。		
【教科書】		
小松浩子著:がん看護学第2版(系統看護学講座), 医学書院		
【参考書】		
近藤まゆみ他著:がんサバイバーシップ第二版 がんとともに生きるひとへの看護ケア, 医歯薬出版 谷口直之他:がんとは何か(新・がん医学入門シリーズ①), 中山書店 谷口直之他:がんはなぜできるのか(新・がん医学入門シリーズ②), 中山書店		
【オープンな教育リソース】		
がん対策情報   厚生労働省 (mhlw.go.jp) <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/gan/index.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/gan/index.html</a> 東京都がんポータルサイト 東京都福祉保健局 (tokyo.lg.jp) <a href="https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryoo/iryoo_hoken/gan_portal/">https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryoo/iryoo_hoken/gan_portal/</a> HOME:[国立がん研究センター がん情報サービス (ganjoho.jp) <a href="https://ganjoho.jp/public/index.html">https://ganjoho.jp/public/index.html</a>		
【担当教員の実務経験】		
がん看護専門看護師としての実務経験のある教員が教授する。		
【オフィスアワー】		
月曜日～木曜日 12:10-13:00 事前にアポイントメントを取ること。		
【教員連絡先】		
宗定(mmunesada@g.t-junshin.ac.jp)		
【備考】		
同時期に必修科目となる終末期・緩和看護学での学びも踏まえ、取り組んでもらいたい。		

授業科目名	補完代替医療と看護	担当教員名	小濱優子 和智明彦 神山明子					
コード	19NPR329	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	3年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
補完代替医療とは「現代西洋医学領域外の西洋医学を補うものとして医学・医療体系の総称(Complimentary and Alternative Medicine)」とされている。NCCAM(アメリカ国立補完代替医療センター)では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基盤として補完代替医療分野の研究が進められ、欧米諸国でも伝統医療の見直しが行なわれ取り入れられている。本科目では、補完代替医療の代表的ないくつかを取り上げ、その特徴や位置づけなどを学ぶ。幅広い視点から環境と健康課題における発展性について議論する。漢方、鍼、灸を中心とした東洋医学医学体系から、軟骨やビタミンなどの健康食品までさまざまな療法がこの範疇に分類される。米国の国立補完代替医療センターにおける分類では、代替医療体系 伝統医学系統、民族療法(東洋伝統医学など)、精神・身体交流、瞑想、折り、心理・精神療法、芸術療法、音楽療法、ダンス療法など、生物学に基づく療法、ハーブ、食品、ビタミン、ミネラル、生理活性分子など、整体や身体を基礎とした方法、脊椎指圧療法、整骨療法、マッサージなど、エネルギー療法、気功、霊気、セラピューティックタッチ、電磁療法など代替療法の範囲と考えられる医学体系は非常に多く、哲学的医学体系を構成するものから健康食品・サプリメント、鍼灸やマッサージ・整体などの施術まで多方面にわたる。統合医療的な幅広い視点に立ち、自然治癒力に働きかける看護独自の介入について学ぶ。さらに、代替補完医療の実際、看護への導入、活用についても学修する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 補完代替医療の健康観、特徴、位置づけ、臨床応用について概説できる。						○	○	
2 動物介在療法の概要、臨床への応用について説明できる。						○	○	
3 東洋医学、漢方治療の概要について説明できる。						○	○	
4 アロマセラピーの概要、手技、看護への応用について説明できる。						○	○	
5 補完代替医療の意義と看護への活用・発展について考察し、記述できる。						○	○	
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	【導入】1回目:補完代替医療(Complimentary Alternative Medicine:CAM)総論: NCCAM(米国国立補完代替医療センター)の研究、取組、世界の現状、厚生労働省の統合医療の取り組みなどを紹介する。CAMの特徴、一般的利用方法、看護場面での活用など。	小濱	【予習】国内外の専門学会HP,学会誌等を閲覧する(60分) 【復習】授業のノート整理、不明な用語・トピックについて調べる(90分)					
2	動物介在療法①	神山	【予習】国内外の専門学会HP,学会誌等を閲覧する(90分) 【復習】授業のノート整理、不明な用語・トピックについて調べる(60分)					
3	動物介在療法②	神山	【予習】国内外の専門学会HP,学会誌等を閲覧する(90分) 【復習】授業のノート整理、不明な用語・トピックについて調べる(60分)					
4	東洋医学と代替医療①	和智	【予習】国内外の専門学会HP,学会誌等を閲覧する(90分) 【復習】授業のノート整理、不明な用語・トピックについて調べる(60分)					
5	東洋医学と代替医療②	和智	【予習】国内外の専門学会HP,学会誌等を閲覧する(90分) 【復習】授業のノート整理、不明な用語・トピックについて調べる(60分)					
6	メディカルアロマセラピー①基礎	小濱	【予習】国内外の専門学会HP,学会誌等を閲覧する(90分) 【復習】授業のノート整理、不明な用語・トピックについて調べる(60分)					
7	メディカルアロマセラピー②基本手技、臨床への応用	小濱	【予習】国内外の専門学会HP,学会誌等を閲覧する(90分) 【復習】授業のノート整理、不明な用語・トピックについて調べる(90分)					
8	【総括】学びについてGW、発表 看護への活用・発展について	小濱	【予習】既習学習の整理(90分) 【復習】課題レポート(90分)					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)				補完代替医療の実践の映像による学修、アロマセラピーの実際の体験				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)								
③:ディスカッション・ディベート			○					
④:グループワーク			○					
⑤:プレゼンテーション			○					
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
次回の講義でフィードバックする								
【成績の評価方法】								
レポート課題:90%(講義内容を踏まえ、エビデンスに基づいた科学的文献を適切に用いて課題を論じているか、基本的なルールに則って記載しているかを評価) グループワークへの参画度・貢献度:10%(自主性・積極性・貢献度を評価) 合計:100%								
【ルーブリック評価の活用(無)】								

<p><b>【履修申請上の条件】</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>【教科書】</b></p> <p>指定のテキストはない。 講義資料を配布する。</p>
<p><b>【参考書】</b></p> <p>池川清子、江川幸二：ナースのための補完・代替療法ガイドブック、メディカ出版、2005。 上野圭一：補完代替医療入門 岩波アクティブ新書 2003。 仙頭正四郎：標準東洋医学 金原出版 2006。 寺澤捷年、津田昌樹：絵で見る指圧・マッサージ手技、JJNブックス、医学書院、2003。 加藤逸夫、佐藤佳代子：リンパ浮腫治療のセルフケア、文光堂、2006。 荒川唱子、小坂橋喜久代編：看護に活かすリラクゼーション技法-ホリスティックアプローチ-、医学書院、2001。 他</p>
<p><b>【オープンな教育リソース】</b></p> <p>日本統合医療学会HP <a href="http://www.imj.or.jp">http://www.imj.or.jp</a> 日本補完代替医療学会HP <a href="http://www.jcam-net.jp/">http://www.jcam-net.jp/</a> 日本補完代替医療学会誌 J-STAGE <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jcam/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jcam/-char/ja</a> 厚生労働省『「統合医療」に係る情報発信等推進事業』HP 医療関係者の方へ・統合医療エビデンス <a href="https://www.ejim.ncgg.go.jp/public/overseas/c01/01.html">https://www.ejim.ncgg.go.jp/public/overseas/c01/01.html</a> 米国 国立補完代替医療センター(NCCAM)HP <a href="https://www.nccih.nih.gov/">https://www.nccih.nih.gov/</a></p>
<p><b>【担当教員の実務経験】</b></p> <p>日本アロマセラピー学会の認定(看護師)を受けた教員が担当する。非常勤講師として、動物介在療法の実務家を招聘する。</p>
<p><b>【オフィスアワー】</b></p> <p>講義前後の時間帯、事前にアポイントをとること</p>
<p><b>【教員連絡先】</b></p> <p>小濱研究室 <a href="mailto:ykohama@g.t-junshin.ac.jp">ykohama@g.t-junshin.ac.jp</a></p>
<p><b>【備考】</b></p> <p>今後、エビデンスを積み重ねていく発展領域であり、身近な医療としても関心を持って頂きたい。</p>

授業科目名	成人看護学Ⅱ	担当教員名	西山久美江 小濱優子 新任			
コード	19NPR312	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	3年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/60時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
手術や疾病の急性増悪などにより、急激に健康状態が変化している成人期にある対象を身体的・心理的・社会的側面から理解し、対象とその家族に必要な基本的な看護援助を学修する。講義では主に、臓器・部位別の疾病の特徴を理解した周手術期の看護援助方法、生体侵襲に伴う身体的・心理的反応から、対象の急性期に必要なアセスメントや回復を促進するための看護援助を学修する。演習では、ゴードンのアセスメントフレームを用いて、周手術期の事例の看護をグループワークを行いながら展開し、個別性のある看護計画を立案し、実施する。さらに患者の情報を統合し、判断・対応する臨床判断についても学修する。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
1 急性期にある対象と家族の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。						
2 生命の危機的状況にある対象と家族への基本的な態度・看護援助を説明できる。						
3 手術が生体に及ぼす身体的侵襲・心理的反応、疾患や年齢による術後の合併症を説明できる。						
4 周術期にある対象に対して、科学的根拠に基づいた安全で安楽な看護を記述できる。						
5 周術期にある事例の看護過程を展開し、回復を促すための看護を記述できる。						
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	授業ガイダンス、授業展開、評価、学修のすすめ方について 1. 急性期（クリティカルケア・周手術期）看護の特性 2. 急性期看護に必要な知識の概要	西山	予習（20分）：事前にシラバスを読み、疑問点を明らかにしておく。 テキストの救急看護学の第1章、クリティカルケア看護学の第1章、臨床看護学総論の序章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。			
2	1. クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴 2. クリティカルケアと看護管理 3. クリティカルケア看護とチーム医療 4. クリティカルケア看護と倫理・法律	西山	予習（20分）：テキストのクリティカルケア看護学の第2章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。			
3	クリティカルな患者の病態の理解と看護① 1. 過大侵襲を受けた患者の生体反応 2. 栄養・代謝障害	西山	予習（20分）：テキストのクリティカルケア看護学の第3章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。			
4	クリティカルな患者の病態の理解と看護② 1. 呼吸機能障害の病態整理（呼吸調節機能障害、換気障害、ガス交換障害、呼吸不全、急性呼吸窮迫症候群） 2. 呼吸機能障害のアセスメント 3. 呼吸機能障害のケア	西山	予習（20分）：テキストのクリティカルケア看護学の第3. 4章、呼吸器 成人看護学の第2. 3. 4. 5. 6章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。			
5	周術期にある患者の看護① 1. ビジュランクラウド（術前看護）視聴 2. 手術前の看護（術前検査、患者、家族の心理、入院から手術前日まで、手術前日、手術当日の看護）	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護総論序章、第6. 7章、臨床外科各論序章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。			
6	周術期にある患者の看護② 1. 術後看護（術当日、術後1日目を降の看護） 2. 手術後の患者の看護（回復を促進するための看護、術後合併症の発生機序、起こりやすい術後合併症の予防と発症時の対応）	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護総論第9. 10章、術中/術後の生体反応 と急性期看護の第4. 5. 6章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。術後の看護についての課題を課すので、各自課題を行う。			
7	クリティカルな患者の病態の理解と看護③ 1. 脳・神経機能障害の病態整理（脳血管障害） 2. 脳・神経機能障害のアセスメント 3. 脳・神経機能障害のケア	西山	予習（20分）：テキストのクリティカルケア看護学の第3. 4章、臨床外科看護各論第4章、脳・神経 成人看護学の第2. 3. 4. 5. 6章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。			

8	手術を受ける患者の看護① 脳血管障害で手術を受ける患者の看護（クモ膜下出血、脳出血、脳梗塞）	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第4章、脳・神経 成人看護学の第5. 6章、クリティカルケア看護学3章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。
9	クリティカルな患者の病態の理解と看護④ 1. 消化機能障害（消化管出血、急性腹症、腸閉塞、過大侵襲による消化管の変化） 2. 腎機能障害（急性腎障害）	西山	予習（20分）：テキストのクリティカルケア看護学の第3章、消化器 成人看護学の第2. 3. 4. 5. 6章、臨床外科看護各論第3章、腎・泌尿器系 成人看護学の第2. 3. 4. 5. 6章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。
10	クリティカルな患者の病態の理解と看護⑤ 1. 凝固・線溶系障害（播種性血管内凝固） 2. 多臓器障害（敗血症、全身性炎症反応症候群） 3. 精神障害（急性ストレス障害と心的外傷後ストレス障害、せん妄）	西山	予習（20分）：テキストのクリティカルケア看護学の第3章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。
11	手術を受ける患者の看護② 胃切除を受ける患者の看護 看護過程の展開① 演習：胃がんの病態、胃切除後の合併症、ムーアの分類について各自調べノートにまとめる	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学の第5. 6章、講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護2. 3を精読する。 復習（25分）：次回授業までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。
12	看護過程の展開② 胃切除を受けた患者の看護 演習：事例の理解とゴードンの枠組みを基に情報整理	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学の第5. 6章、看護がみえる Vo. 4 看護過程の展開、これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～を参照し情報整理をする。 復習（25分）：配布資料をもとに次回までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。
13	看護過程の展開③ 胃切除を受けた患者の看護 演習：ゴードンの11の健康機能パターンを使用しアセスメント	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学の第5. 6章、看護がみえる Vo. 4 看護過程の展開、これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～を参照しアセスメントする。 復習（25分）：次回までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。
14	看護過程の展開④ 胃切除を受けた患者の看護 演習：ゴードンの11の健康機能パターンを使用しアセスメント	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学の第5. 6章、看護がみえる Vo. 4 看護過程の展開、これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～を参照しアセスメントする。 復習（25分）：文献参考に次回までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。
15	看護過程の展開⑤ 胃切除を受けた患者の看護 演習：ゴードンの11の健康機能パターンを使用しアセスメント	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学の第5. 6章、看護がみえる Vo. 4 看護過程の展開、これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～を参照しアセスメントする。 復習（25分）：文献参考に次回までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。
16	看護過程の展開⑥ 胃切除を受けた患者の看護 演習：ゴードンの11の健康機能パターンを使用しアセスメント	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学の第5. 6章、看護がみえる Vo. 4 看護過程の展開、これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～を参照しアセスメントする。 復習（25分）：文献参考に次回までに課題を完成させる。
17	看護過程の展開⑦ 胃切除を受けた患者の看護 演習：ゴードンの11の健康機能パターンを使用しアセスメント	西山	予習（20分）：テキストの看護がみえる Vo. 4 看護過程の展開、これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～を参照しアセスメントする。 復習（25分）：文献参考に次回までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。
18	看護過程の展開⑧ 胃切除を受けた患者の看護 演習：ゴードンの11の健康機能パターンを使用しアセスメント	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学の第5. 6章、看護がみえる Vo. 4 看護過程の展開、これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～を参照しアセスメントする。 復習（25分）：文献参考に次回までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。
19	看護過程の展開⑨ 胃切除を受けた患者の看護 演習：各自、全体像作成、看護問題抽出	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学の第5. 6章、全体像の書き方、看護問題の捉え方等を文献学修する。 復習（25分）：文献を参考に次回までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。



20	看護過程の展開⑩ 胃切除を受けた患者の看護 演習：看護計画作成、発表	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学の第5. 6章、看護計画の書き方について、文献学修する。 復習（25分）：文献を参考に次回までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義を行う。
21	手術を受ける患者の看護③ 心臓大血管の手術を受ける患者の看護（弁膜症、虚血性心疾患、動脈系の疾患、静脈系の疾患）	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第2章、循環器 成人看護学の第5. 6章、クリティカルケア看護学3章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。
22	手術を受ける患者の看護④ 肺がんで手術を受ける患者の看護	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第1章、呼吸器 成人看護学の第5. 6章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。
23	手術を受ける患者の看護⑤ 乳房の手術を受ける患者の看護	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第1章、女性生殖器 成人看護学の第5. 6章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。
24	手術を受ける患者の看護⑥ 大腸がんの手術を受ける患者の看護（ストーマ造設含む）	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学の第5. 6章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。
25	クリティカルな患者の病態の理解と看護⑥ 救急看護（外部講師） 1. 救急看護の概念 2. 救急看護の対象の理解 3. 主要病態に対する救急処置と看護（外傷・熱傷・中毒・脳死）	山下	予習（20分）：テキストの救急看護学の第1. 2. 5章、臨床外科看護総論の第5章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。 【課題1】 聴講して学んだことを考察しレポートにまとめる。作成した課題は成績評価の対象とする。
26	周術期にある患者の看護③（外部講師） 手術看護 1. 手術中患者の看護 2. 手術侵襲と生体反応、感染症（術野感染症） 創傷治癒	杉野	予習（20分）：テキストの臨床外科看護総論序章、第1. 8章、臨床外科看護各論序章、講義から実習へ 高齢者と成人の周術期看護 術中/術後の生体反応 と急性期看護 第3版の第1. 2. 3. 4章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。 【課題2】 聴講して学んだことを考察しレポートにまとめる。作成した課題は成績評価の対象とする。
27	クリティカルな患者の病態の理解と看護⑦（外部講師） 1. 循環機能障害の病態整理（急性心不全、急性冠症候群、ショック） 2. 循環機能障害のアセスメント3. 循環機能障害のケア	津田	予習（20分）：テキストのクリティカルケア看護学の第3. 4章、循環器 成人看護学の第2. 3. 4. 5. 6章を精読する。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。
28	クリティカルな患者の病態の理解と看護⑧（外部講師） 演習：急性心不全患者のACP	津田	予習（20分）：テキストのクリティカルケア看護学の第3. 4章、循環器 成人看護学の第2. 3. 4. 5. 6章を精読する。復習（25分）：授業を振り返り、ノート整理を行う。 【課題3】 授業中に提示される課題を提出する。この課題は、成績評価対象とする。
29	演習：直腸がんにて低位前方切除術＋ストーマ造設術施行。 術後1日目の看護援助の実施	全教員 担当西山	予習（20分）：実習室での演習までに、胃切除術後1日目の観察（項目、手順）、看護援助計画を作成しする。グループメンバーで演習の練習を行う。 復習（25分）：演習で行った看護について、振り返りを行い整理しまとめる。
30	演習：臨床推論	全教員 担当西山	予習（20分）：術後の合併症とその徴候について、これまでの授業資料等を参考に学修する。 復習（25分）：演習で行ったシナリオについて、振り返りを行い、整理しまとめる

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	術前呼吸訓練や術後の患者をイメージできるよう実際に患者に使用する物品を授業内に見せ触れさせる。 その他乳房モデル、ストーマ器具なども授業内に見せ触れさせる。 アプリを活用し、実際の臓器や治療などを見せる。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対するフィードバックは、次回の講義の時間内にコメントする。</li> <li>・看護過程の展開資料は適宜コメントを入れる。回収後にコメントを入れて返却する。</li> </ul>		
【成績の評価方法】		
課題:看護過程:18% 【課題1】【課題2】【課題3】のレポート合計12% (各4%) 定期試験:70% 合計:100%		
【ルーブリック評価の活用( 無 )】		
【履修申請上の条件】		
以下の単位を履修していることが望ましい。 形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、形態機能学演習、疾病治療論Ⅰ・Ⅱ、薬理学、感染予防学、看護技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護過程、フィジカルアセスメント、成人看護学Ⅰ、発達看護学Ⅱ(成人)		
【教科書】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学、医学書院。</li> <li>・系統看護学講座 別巻 救急看護学、医学書院。</li> <li>・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学総論、医学書院。</li> <li>・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院。</li> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2.3.5.7.8. 9、医学書院。</li> <li>・&lt;講義から実習へ&gt;高齢者と成人の周術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 第3版。</li> <li>・&lt;講義から実習へ&gt;高齢者と成人の周術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 第3版。</li> <li>・看護がみえる Vol.4 看護過程の展開 メディックメディア。</li> <li>・これならわかる! 術前・術後の看護ケア ～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～、ナツメ社</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1 医学書院。</li> <li>・鎌倉やよい・深田順子(2008):周術期の臨床判断を磨く、初版、医学書院。</li> <li>・黒田裕子・林みよ子(2013):クリティカルケア看護 完全ガイド、初版、医歯薬出版。</li> <li>・浦部晶夫・島田和幸・川合真一(2020):今日の治療薬 解説と便覧、南江堂。</li> <li>・道又元裕(2011):クリティカルケア看護技術の実践と根拠、初版、中山書店。</li> <li>・道又元裕・長谷川隆一・濱本実也・露木菜緒(2012):クリティカルケア実践の根拠、初版、照林社。</li> <li>・親見明子(2016):根拠がわかる疾患別看護過程、改定第3版、南江堂。</li> <li>・関口恵子(2016):根拠がわかる症状別看護過程、改定第3版、南江堂。</li> <li>・高木永子(2018):看護過程に沿った対象看護、第5版、学研メディカル秀潤社。</li> <li>・卯野木健(2015):クリティカルケア看護入門”声にならない訴え”を理解する、改訂第2版、学研メディカル秀潤社。</li> <li>・山口瑞穂子・関口恵子(2016):経過が見える疾患別病態関連マップ、第2版、学研メディカル秀潤社。</li> <li>・山口瑞穂子・関口恵子(2016):疾患別看護過程の展開、第5版、学研メディカル秀潤社。</li> <li>・黒田裕子(2015):看護診断のためのよくわかる中範囲理論、第2版、学研メディカル秀潤社。</li> </ul>		
【オープンな教育リソース】		
参考URL ・ビジュアルクラウド: <a href="https://t-junshin.visualearn.jp">https://t-junshin.visualearn.jp</a> クリティカルケア看護、目で見える周術期看護		
【担当教員の実務経験】		
担当教員:看護師の臨床経験および教育経験のある教員、急性・重症患者看護専門看護師の資格を有し、教育経験のある教員が授業を担当する。 非常勤講師:急性・重症患者看護専門看護師、集中ケア認定看護師、手術看護認定看護師の資格を有する講師が実務経験に基づき授業を担当する。		
【オフィスアワー】		
平日の昼休み時間。事前にメール等で連絡してから訪問のこと。		
【教員連絡先】		
西山 久美江:knishiyama@g.t-junshin.ac.jp 小濱 優子:ykohama@g.t-junshin.ac.jp 新任		
【備考】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の授業内容に関連する教科書を持参し、示されている予習・復習を行うこと。</li> <li>・本科目は、後期の成人看護学実習Ⅱに直結する科目となっています。</li> <li>・看護過程の展開は実習で必要になるため、疑問点は必ず質問し、指導を受けるようにすること。</li> <li>・29. 30回は実習室での演習になる。身だしなみを整えて参加すること。</li> </ul>		

授業科目名	成人看護学Ⅲ	担当教員名	田中結花子																																					
コード	19NPR313	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択																																			
			○																																					
年次/期間	3年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義と演習																																					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】																																							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。																																							
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。																																							
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。																																							
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。																																							
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。																																							
【授業の概要】	<p>本科目は、急激に健康状態が変化する成人期にある人を対象に急性期の特徴を理解し、生活の再調整・再構築のための指導するための援助を学ぶ。また、周術期、クリティカルケアの基本的な看護についても講義する。急性期の基本的な看護技術と周術期事例の一場面の看護技術を演習する。</p> <p>健康状態の急激な変化に伴う成人期を対象とした患者の看護技術と人を尊重する基本的な態度を身につける。</p>																																							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="5">ディプロマ・ポリシー</th> </tr> <tr> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 急性期にある人の特徴とその看護について理解し、基本的・安全な看護技術を習得する。</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 成人看護の臨床場で必要となるフィジカル・アセスメント技術を習得する。</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 手術を受けた対象の回復を促進するための術後看護援助の方法を説明・実施できる。</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 緊急時対応の原則に基づき、緊急時対応を説明・実施できる。</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						ディプロマ・ポリシー					①	②	③	④	⑤	1 急性期にある人の特徴とその看護について理解し、基本的・安全な看護技術を習得する。	○	○	○			2 成人看護の臨床場で必要となるフィジカル・アセスメント技術を習得する。		○				3 手術を受けた対象の回復を促進するための術後看護援助の方法を説明・実施できる。		○	○			4 緊急時対応の原則に基づき、緊急時対応を説明・実施できる。		○	○		
	ディプロマ・ポリシー																																							
	①	②	③	④	⑤																																			
1 急性期にある人の特徴とその看護について理解し、基本的・安全な看護技術を習得する。	○	○	○																																					
2 成人看護の臨床場で必要となるフィジカル・アセスメント技術を習得する。		○																																						
3 手術を受けた対象の回復を促進するための術後看護援助の方法を説明・実施できる。		○	○																																					
4 緊急時対応の原則に基づき、緊急時対応を説明・実施できる。		○	○																																					
【授業計画】	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>授業計画</th> <th>担当者</th> <th>授業外学修(予習・復習・課題等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2</td> <td>           授業ガイダンス 授業展開, 評価, 学修のすすめ方について 講義・演習            I. 手術前の患者の看護            1. 術前オリエンテーション            2. 術野を整えるための技術            3. 栄養に関する技術            II. 手術後の合併症の予防と回復を促進するために必要な看護(講義)            1. 早期離床の促進            2. 鎮痛管理            3. 創傷管理            4. ドレーン管理            III. 一次救命処: BLS 講義            1. 心肺蘇生法            2. 自動体外式AED除細動         </td> <td>田中</td> <td>           予習(180分): 看護がみえVol4看護過程の展開p246～342を読んで事例患者をイメージする。            復習(180分): 看護技術チェックリストの項目を演習期日までに技術の項目や手順の根拠を調べ看護技術チェックリストに記載する。         </td> </tr> <tr> <td>3・4</td> <td>           IV弾性ストッキングの装着、フットポンプ 講義(田中)            V酸素吸入、酸素ボンベの取り扱い、呼吸音の聴取            VIドレーンの観察・管理            VII心電図            VIII術後ベッドの作成 講義         </td> <td>田中</td> <td>           予習(180分): 各回の授業において、人体の構造と機能・疾病・治療の復習をして臨む。講義中に質問等で確認する。            復習(180分): 看護技術チェックリストの項目を演習期日までに技術の項目や手順の根拠を調べ看護技術チェックリストに記載する。         </td> </tr> <tr> <td>5・6</td> <td>           1. 心肺蘇生一次救命措置(BLS)             2. バイタルサイン及び弾性ストッキングの装着、酸素吸入、酸素ボンベの取り扱い、呼吸音の聴取         </td> <td>田中</td> <td>           予習(180分): 看護技術チェックリスト(別紙): 設定された各項目について、期日までに技術の目的や手順の根拠を調べ看護技術チェックリストに記載する。            看護技術チェックリストは技術演習前に事前に返却をするが、演習当日は必ず持参する。持参できない場合、演習に参加できないこととする。            復習(180分):            1) 看護技術チェックリストの心肺蘇生一次救命処置(BLS)の項目            【課題1】意識レベルの把握、心肺蘇生法(一次救命措置)、AED            【課題2】肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症(静脈血栓塞栓症)の予防            2) 看護技術チェックリストの弾性ストッキングの装着、フットポンプの項目            【課題3】酸素吸入療法: 経鼻カニューレ、酸素マスク、リザーバー付き酸素マスク            酸素ボンベの取り扱い、呼吸音の聴取の項目         </td> </tr> </tbody> </table>						授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)	1・2	授業ガイダンス 授業展開, 評価, 学修のすすめ方について 講義・演習 I. 手術前の患者の看護 1. 術前オリエンテーション 2. 術野を整えるための技術 3. 栄養に関する技術 II. 手術後の合併症の予防と回復を促進するために必要な看護(講義) 1. 早期離床の促進 2. 鎮痛管理 3. 創傷管理 4. ドレーン管理 III. 一次救命処: BLS 講義 1. 心肺蘇生法 2. 自動体外式AED除細動	田中	予習(180分): 看護がみえVol4看護過程の展開p246～342を読んで事例患者をイメージする。 復習(180分): 看護技術チェックリストの項目を演習期日までに技術の項目や手順の根拠を調べ看護技術チェックリストに記載する。	3・4	IV弾性ストッキングの装着、フットポンプ 講義(田中) V酸素吸入、酸素ボンベの取り扱い、呼吸音の聴取 VIドレーンの観察・管理 VII心電図 VIII術後ベッドの作成 講義	田中	予習(180分): 各回の授業において、人体の構造と機能・疾病・治療の復習をして臨む。講義中に質問等で確認する。 復習(180分): 看護技術チェックリストの項目を演習期日までに技術の項目や手順の根拠を調べ看護技術チェックリストに記載する。	5・6	1. 心肺蘇生一次救命措置(BLS)  2. バイタルサイン及び弾性ストッキングの装着、酸素吸入、酸素ボンベの取り扱い、呼吸音の聴取	田中	予習(180分): 看護技術チェックリスト(別紙): 設定された各項目について、期日までに技術の目的や手順の根拠を調べ看護技術チェックリストに記載する。 看護技術チェックリストは技術演習前に事前に返却をするが、演習当日は必ず持参する。持参できない場合、演習に参加できないこととする。 復習(180分): 1) 看護技術チェックリストの心肺蘇生一次救命処置(BLS)の項目 【課題1】意識レベルの把握、心肺蘇生法(一次救命措置)、AED 【課題2】肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症(静脈血栓塞栓症)の予防 2) 看護技術チェックリストの弾性ストッキングの装着、フットポンプの項目 【課題3】酸素吸入療法: 経鼻カニューレ、酸素マスク、リザーバー付き酸素マスク 酸素ボンベの取り扱い、呼吸音の聴取の項目																			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)																																					
1・2	授業ガイダンス 授業展開, 評価, 学修のすすめ方について 講義・演習 I. 手術前の患者の看護 1. 術前オリエンテーション 2. 術野を整えるための技術 3. 栄養に関する技術 II. 手術後の合併症の予防と回復を促進するために必要な看護(講義) 1. 早期離床の促進 2. 鎮痛管理 3. 創傷管理 4. ドレーン管理 III. 一次救命処: BLS 講義 1. 心肺蘇生法 2. 自動体外式AED除細動	田中	予習(180分): 看護がみえVol4看護過程の展開p246～342を読んで事例患者をイメージする。 復習(180分): 看護技術チェックリストの項目を演習期日までに技術の項目や手順の根拠を調べ看護技術チェックリストに記載する。																																					
3・4	IV弾性ストッキングの装着、フットポンプ 講義(田中) V酸素吸入、酸素ボンベの取り扱い、呼吸音の聴取 VIドレーンの観察・管理 VII心電図 VIII術後ベッドの作成 講義	田中	予習(180分): 各回の授業において、人体の構造と機能・疾病・治療の復習をして臨む。講義中に質問等で確認する。 復習(180分): 看護技術チェックリストの項目を演習期日までに技術の項目や手順の根拠を調べ看護技術チェックリストに記載する。																																					
5・6	1. 心肺蘇生一次救命措置(BLS)  2. バイタルサイン及び弾性ストッキングの装着、酸素吸入、酸素ボンベの取り扱い、呼吸音の聴取	田中	予習(180分): 看護技術チェックリスト(別紙): 設定された各項目について、期日までに技術の目的や手順の根拠を調べ看護技術チェックリストに記載する。 看護技術チェックリストは技術演習前に事前に返却をするが、演習当日は必ず持参する。持参できない場合、演習に参加できないこととする。 復習(180分): 1) 看護技術チェックリストの心肺蘇生一次救命処置(BLS)の項目 【課題1】意識レベルの把握、心肺蘇生法(一次救命措置)、AED 【課題2】肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症(静脈血栓塞栓症)の予防 2) 看護技術チェックリストの弾性ストッキングの装着、フットポンプの項目 【課題3】酸素吸入療法: 経鼻カニューレ、酸素マスク、リザーバー付き酸素マスク 酸素ボンベの取り扱い、呼吸音の聴取の項目																																					

7・8	3.ドレーンの観察・管理 4.心電図 5.術後ベッドの作成 講義	田中	<p>予習(180分):看護技術チェックリスト(別紙):設定された各項目について、期日までに技術の目的や手術の根拠を調べ看護技術チェックリストに記載する。 看護技術チェックリストは技術演習前に事前に返却をするが、演習当日は必ず持参する。持参できない場合、演習に参加できないこととする。</p> <p>復習(180分): 1)看護技術チェックリストのドレーンの観察・管理の項目</p> <p>【課題4】ドレーンの管理・観察、低圧持続吸引:胸腔ドレーン挿入中の管理 看護技術チェックリストのドレーンの観察・管理の項目</p> <p>【課題5】12誘導心電図の装着と管理、心電図モニターの装着と管理、心電図の読み方:ST波形の観察 2)看護技術チェックリストの心電図の項目</p> <p>【課題6】術後ベッドの作成、手術当日のケア(帰室準備～術直後) 看護技術チェックリストの術後ベッドの作成の項目</p>		
<b>【アクティブラーニング】</b>			<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1060 608 1192 638">チェック欄</td> <td data-bbox="1192 608 2045 638">その他の工夫</td> </tr> </table>	チェック欄	その他の工夫
チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			○		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○		
③:ディスカッション・ディベート			○		
④:グループワーク			○		
⑤:プレゼンテーション			○		
⑥:実習・フィールドワーク					
<b>【課題のフィードバック】</b>					
課題提出物にはコメントを入れて返却する					
<b>【成績の評価方法】</b>					
課題:30% 定期試験:70% 合計:100%					
<b>【ルーブリック評価の活用(無)】</b>					
<b>【履修申請上の条件】</b>					
以下の単位を履修していることが望ましい。 形態機能学Ⅰ、形態機能学Ⅱ、形態機能学Ⅲ、形態機能学演習、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、薬理学、感染予防学、看護技術演習Ⅰ、看護技術演習Ⅱ、看護技術演習Ⅲ、フィジカルアセスメント、看護過程、発達看護学Ⅱ(成人)					
<b>【教科書】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3:医学書院(1年次購入済)</li> <li>・ナースング・グラフィカ基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ:メディカ出版(2年次購入済)</li> <li>・これならわかる術前・術後の看護ケア:ナツメ社</li> </ul>					
<b>【参考書】</b>					
講義・演習時に紹介する					
<b>【オープンな教育リソース】</b>					
ビジュランクラウド、看護 目で見える周術期看護 病室帰室後の看護(術直後)					
<b>【担当教員の実務経験】</b>					
看護師としての臨床経験や成人看護学の教育経験がある教員が実務経験をもとに講義する。演習講義には、現在、病院勤務の看護師を非常勤講師として演習指導していただく予定である。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
平日の昼休み時間。事前にメール等で連絡してから訪室すること。					
<b>【教員連絡先】</b>					
田中 結花子:ytanaka@g.t-junshin.ac.jp					
<b>【備考】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・同時期に開講している3年次科目の成人看護学Ⅱや、3年次後期から始まる領域別実習に向けて、予習と復習を丁寧に行い臨むこと。</li> <li>・予習と復習での学修(ノート整理)は、領域別実習で活用する。講義進行に伴ない、随時、自己学修ノートの提出を求める。</li> <li>・実習室での演習の際には、身だしなみを整えて受講すること。</li> </ul>					

授業科目名	小児看護学Ⅲ	担当教員名	荻原 康子ほか			
コード	19NPR320	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	3年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
この科目では、小児看護の対象である子どもと家族の看護に必要な 基本的な援助技術を学ぶ。健康障害を持つことによって外来受診から入院に至った子どもと家族の全体像をとらえ、これまでに得た知識を統合して検討し、看護の方向性のもとに具体的な援助技術を見出し、一部実践できるようになることをねらいとしている。小児看護の場は多様化し、さまざまな状況にある子どもに対応できる看護技術がなくてはならない。いかなる看護援助場面においても、子どもの安全と安楽に配慮した看護技術の実施が重要であり、このことを念頭に置きながら多くの演習のなかで体験的に学ぶ。また、検査、治療を受ける子どもとへのプレパレーションを演習を通じて学修し、画一的ではない個へのアプローチには、的確な情報収集によるアセスメントが必要と分かる機会とする。ひとつひとつの看護技術は「臨床判断」によるものであり、その評価が次に活かされる必要のあることを理解するために、問題解決思考により展開がされる看護過程ツールを用いて学ぶ。□						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
				ディプロマ・ポリシー		
				①	②	③
1 小児期に見られやすい諸症状に対する対象看護について理解する。					○	
2 病児看護の場とマネジメントについて知り、教育的関わり(指導)の必要性と実際について理解する。						○
3 小児看護に必要な基本的技術にはどのようなものがあるかを知り、技術の意義と方法が述べられる。						○
4 対象の個性性をふまえた小児看護技術について、根拠のもとに計画的に見出すことができ、実践できる。					○	
5 円滑なチームワークのもとに、目的を持った推論と有意義な検討ができる。						○
6 小児看護技術の実施者である自己の「在りよう」に気づき、学びとすることができる。						○
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	■ ガイダンス ■ 病児看護の場とマネジメント(講義) ■ 小児期に見られやすい諸症状に対する対象看護(講義): ・主要症状のケア(痛み・発熱・下痢・嘔吐・脱水・痙攣)	荻原康子	事前学習: 講義が行われる範囲の教科書を熟読する(60分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(30分)。			
2	■ 小児期に見られやすい諸症状に対する対象看護(講義): ・主要症状のケア(痛み・発熱・下痢・嘔吐・脱水・痙攣)	荻原康子	事前学習: 講義が行われる範囲の教科書を熟読する(60分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(30分)。			
3	■ 検査を受ける小児の看護・検査処置時の技術(講義と演習): ・子どもにとっての検査・処置、および、その看護 ・採血・腰椎穿刺・骨髄穿刺、の 検査時の看護 ・活動制限の必要な検査として…低身長、腎生検 ・減感作療法 について	荻原康子	事前学習: 講義・演習が行われる範囲の教科書を熟読する(60分)。 事後学習: 講義・演習を振り返り、まとめる(30分)。			
4	・プレパレーション、ディストラクション	荻原康子				
5	■ 小児の救命救急①(講義): ・子どもの事故・外傷・小児救急におけるトリアージと対応 ・主な誤飲物質と処置 ・熱傷の特徴、重症度と処置(復習) ・溺水と処置	荻原康子	事前学習: 講義が行われる範囲の教科書を熟読する(60分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(30分)。			
6	■ 小児の救命救急②(講義): ・小児一次救命 ・意識レベル ・家族の不安の緩和	荻原康子	事前学習: 講義が行われる範囲の教科書を熟読する(60分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(30分)。			
7	■ 小児看護の基本的な援助技術(講義): ・フィジカルアセスメント ・身体計測 ・バイタルサイン測定 ・与薬 ・輸液 ・移動 ・抑制	荻原康子	事前学習: 講義が行われる範囲の教科書を熟読する(60分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(30分)。			
8	■ 小児看護の基本的な援助技術(講義): ・食事介助 ・保清(おむつ交換) ・排泄介助 ・吸引吸入 ・遊び	荻原康子				
9	■ 小児看護の基本的な援助技術(演習): ・身体計測 ・バイタルサイン測定 ・与薬 ・輸液 ・移動 ・抑制	荻原康子	事前学習: 机上で学んだことをまとめ、演習できるようイメージを高めておく(60分)。 事後学習: 演習を振り返り、まとめる(30分)。			
10	■ 小児看護の基本的な援助技術(演習): ・食事介助 ・保清(おむつ交換) ・排泄介助 ・吸引吸入 ・遊び	荻原康子				
11	■ 小児看護の基本的な援助技術(演習): 看護過程展開	荻原康子	事前学習: 事前に伝えられた事例の患児の発達段階と疾患について学習しておく(60分)。 事後学習: 演習を振り返り、まとめる(30分)。			
12	■ 小児看護の基本的な援助技術(演習): 看護過程展開	荻原康子				
13	■ 小児看護の基本的な援助技術(演習): 看護過程展開	荻原康子	事前学習: 看護過程の展開中に分からないことがあれば整理し問えるようにしておく(60分)。 事後学習: 演習を振り返り、まとめる(30分)。			
14	■ 小児看護の基本的な援助技術(演習): 看護過程展開	荻原康子				
15	■ 演習の振り返り(自己の小児看護技術の課題の抽出)と、これまでの授業のまとめ	荻原康子	事後学習: 自己の課題をレポートにまとめる(60分)。			

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	この科目では、ICTネットワークを利用して教員と各グループ成員との情報交換を行い、学びを共有する。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】 疑問や質問は、オフィスアワーを活用すること。		
【成績の評価方法】 課題:40% 定期試験:60% 合計:100%  【ルーブリック評価の活用( 無 )】		
【履修申請上の条件】 特になし		
【教科書】 ・『小児看護学概論 小児臨床看護総論』小児看護学① 医学書院(2021) ・『小児臨床看護各論』小児看護学② 医学書院(2021)		
【参考書】 「小児看護技術アドバンス」山元恵子(監修)佐々木祥子(編著)インターメディカ(2019) その他は適宜紹介する		
【オープンな教育リソース】 特になし		
【担当教員の実務経験】 ・看護師として、小児の外科・内科・ICU病棟、地域、保育園での実務経験をふまえ、できるだけ具体的なエピソードを交えて講義、指導を行う。		
【オフィスアワー】 木曜日金曜日の昼休み時間		
【教員連絡先】 yogihara@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】 特になし		

授業科目名	成人看護学実習 I	担当教員名	田中結花子 宗定水奈子			
コード	19NPR330	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	3年次/後期	単位/時間数/形態	3単位/135時間/実習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
成人期の発達段階・発達課題をふまえ、患者の健康上の問題を科学的根拠に基づき理解し、健康障害のレベル、あるいはニーズに対応した看護過程を展開することで看護実践能力を習得する。 慢性疾患をもつ患者を受け持ち看護技術を習得する。 将来の看護専門職者として、ふさわしい態度および自己の看護観を育成する。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
				ディプロマ・ポリシー		
				①	②	③
1 成人期の発達段階・発達課題をふまえ、慢性期にある患者、終末期にある患者の全体像をとらえることができる。					○	○
2 慢性期にある患者、終末期にある患者に必要な看護が実践できる。					○	○
3 看護師としての倫理的配慮ができる。				○		
4 医療チームにおける看護職の役割を理解できる。						○
5 将来の看護専門職者として、ふさわしい態度および自己の看護観を育むことができる。				○		○
【授業計画】						
授業計画		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1.実習単位・期間・実習時間 1)実習単位:3単位 2)実習時間数:135時間 3)実習期間:3年後期の連続した3週間 4)実習時間:8時30分～16:00(休憩1時間、カンファレンス1時間、記録整理の時間を含む) 実習時間は実習内容によって、延長などの変更がある。 学内実習の実習時間は、9:00～16:30とする。  2.実習施設 聖マリアンナ医科大学病院  3.オリエンテーション 実習開始日の前週にオリエンテーションを実施する。  4.方法 原則的に1名の患者を受け持ち、看護を展開するが、全期間で複数名を受け持つことがある。		田中 宗定	1.事前学習 1)実習病棟の入院患者の特徴、代表的な疾患の病態生理、治療と看護 2)慢性期にある患者、終末期にある患者のニーズ、症状緩和、セルフケア、QOLの維持・向上を考慮した看護について学習する。  2.記録および課題について 1)事前学習課題は実習オリエンテーション日に担当教員の確認を受ける。 2)日々の実習記録はタイムリーに記載すること。 3)実習中の全ての記録物および課題は、実習の最終日に提出する。			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)			○			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○			
③:ディスカッション・ディベート			○			
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション			○			
⑥:実習・フィールドワーク			○			
【課題のフィードバック】						
・実習記録に対するフィードバックは実習記録にコメントし、返却するので、内容を確認し、加筆修正を随時行う。 ・記録内容によっては、担当教員より直接指導を受ける。						
【成績の評価方法】						
〈評価基準〉 ・実習目標の到達度を実習内容・態度・記録から実習評価表に基づいて、到達レベルを段階的に評価する。 〈割合〉 ・実習評価表に基づいて、100%で総合的に評価する。 合計:100%						
【ルーブリック評価の活用(無)】						
【履修申請上の条件】						
3年前期までの全ての必修科目の単位が修得されていること。						
【教科書】						
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学1.2.3.4.5.6.7.8.9.10.11、医学書院 ・ヘルスアセスメント第5版 ナーシング・グラフィカー基礎看護学2 ・ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 編集 江川隆子 ノーヴェルヒロカワ ・糖尿病治療のてびき(2020)改訂第58版 日本糖尿病学会 日本糖尿病協会 南江堂 ・糖尿病治療ガイド 日本糖尿病学会編・著 2020-2021 文光堂 ・NAND-I看護診断定義と分類2021-2023原書第12版 医学書院 ・看護がみえるVol.4 看護過程の展開メデックスメディア						

<p><b>【参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松田ら(最新版):系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1-15, 医学書院</li> <li>・鈴木久美ほか(2019):成人看護学 慢性期看護 改訂第3版, 南江堂</li> <li>・Strauss,A. L. et al. ,南裕子監訳(1987):慢性疾患を生きるケアとクオリティ・ライフの接点. 医学書院</li> <li>・野川道子他(2010):看護実践に活かす中範囲理論. メヂカルフレンド社</li> <li>・鈴木志津枝 編集(最新版):成人看護学 慢性期看護論, ヌーヴェルヒロカワ</li> <li>・三上れつ著『看護過程と看護診断』ヘンダーソン・ゴードンのデータベースに基づく事例展開(廣川書店)</li> <li>・浦部晶夫・島田和幸・川合眞一:今日の治療薬 解説と便覧、南江堂</li> <li>・井上智子ほか「病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図」医学書院</li> <li>・阿部俊子ほか「改訂版エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図」中央法規</li> </ul>
<p><b>【オープンな教育リソース】</b></p> <p><a href="http://www.jds.or.jp/">http://www.jds.or.jp/</a> 一般社団法人日本糖尿病学会  <a href="https://ganjoho.jp/public/index.html">https://ganjoho.jp/public/index.html</a> 国立がん研究センターがん情報サービス  看護診断YouTube看護がみえる編集部【メディックメディア】</p>
<p><b>【担当教員の実務経験】</b></p> <p>担当教員:看護師、がん看護専門看護師としての臨床経験のある教員が実務経験を活かして学生指導を行う。  臨床教員:臨床現場で実務経験の長い看護師が臨床教員として学生指導を行う。</p>
<p><b>【オフィスアワー】</b></p> <p>学内日の昼休み。事前にメール等で連絡してから訪問すること。</p>
<p><b>【教員連絡先】</b></p> <p>田中 結花子:ytanaka@g.t-junshin.ac.jp  宗定 水奈子:mmunesada@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p><b>【備考】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習科目であるため、主体的な学修が必要となる。担当教員と連絡を取りながら十分な学修を行った上で実習に臨む。</li> <li>・実習には、教科書や参考資料を持参して積極的に学ぶことが出来るようにする。</li> <li>・実習前に図書館を利用して事前学習の学習に努める。</li> <li>・看護学実習要項・専門領域看護学実習要項の急性期看護学実習の部分を熟知する。</li> <li>・体調管理をしっかりと行う。</li> <li>・感染予防策をしっかりと行う。</li> </ul>



授業科目名	成人看護学実習Ⅱ	担当教員名	小濱優子 西山久美江 新任					
コード	19NPR331	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	3年次/後期	単位/時間数/形態	3単位/135時間/実習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
手術や疾病の急性増悪などにより、急激に健康状態が変化している成人期にある対象を受け持ち、疾患と治療についてや生体侵襲を受けた対象者の特徴を理解し、身体的・心理的・社会的側面からアセスメントし、合併症の予防や回復を促進するための個別性を踏まえた、その人らしい生活を送るために必要な看護援助の実践および評価まで学修する。対象の家族についても、多角的に捉えアセスメントを行い、必要な看護援助を実践し、評価を行う。さらに、対象に関わる多職種や看護師の役割について考え、実習を通して、対象とその家族に行った看護を内省し、自己の看護観を深める。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 急激に健康状態が変化している(手術・治療による侵襲、急性発症を含む) 対象とその家族を多角的に記述できる。								
2 急激に健康状態が変化している(手術・治療による侵襲、急性発症を含む) 対象の看護計画を立案できる。					○	○		
3 急激に健康状態が変化している(手術・治療による侵襲、急性発症を含む) 対象の回復の促進に向けた安全・安楽な看護援助を実施できる。					○	○	○	
4 急激に健康状態が変化している(手術・治療による侵襲、急性発症を含む) 対象に行った看護援助について評価できる。					○	○		
5 急性期における多職種との連携によるチーム医療や看護の役割機能を説明できる。							○	
6 看護学生として必要な倫理的行動の基礎および学習者としての姿勢を行動に示すことができる。								
【授業計画】								
授業計画		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1. 実習単位・期間、実習時間 1) 実習単位:3単位 2) 実習時間数:135時間 3) 実習期間:3年後期の連続した3週間 4) 実習時間:8:30～16:00(休憩1時間、カンファレンス1時間、記録整理の時間を含む) 実習時間は手術や実習内容によって、延長などの変更がある。 学内実習の実習時間は、9:00～16:30とする。 2. 実習施設 ・聖マリアンナ医科大学病院 3. オリエンテーション 実習開始日の前週にオリエンテーションを実施する。 4. 方法 原則的に1名の患者を受け持ち、看護過程を展開する。		小濱 西山 新任 臨床教員 非常勤教員	1. 事前学習 1) 実習病棟の入院患者の特徴、代表的疾患の病態生理、治療と看護 2) 過大侵襲を受けた患者の生体反応 3) 周手術期の看護 (1) 術前看護(術前の身体機能の評価、心理面の評価、術前オリエンテーション、術前訓練、術前処置、手術当日の看護) (2) 麻酔と手術中の看護 (3) 術後急性期の看護(術直後の看護、合併症の予防と回復を促すための援助) (4) 術後回復期の看護(退院を視野に入れた看護援助) (5) その他、受け持ち患者を身体面・心理面・社会面から総合的に理解できるように予習を進めること。 2. 実習記録および課題について 1) 事前学習課題は実習オリエンテーション日に担当教員の確認を受けること。 2) 日々の実習記録はタイムリーに記載すること。 3) 実習中の全ての記録物および課題は、実習の最終日に提出すること。					
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫					
①:PBL(課題解決型学習)		○						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○						
③:ディスカッション・ディベート		○						
④:グループワーク								
⑤:プレゼンテーション		○						
⑥:実習・フィールドワーク		○						
【課題のフィードバック】								
・実習記録に対するフィードバックは実習記録にコメントして、返却するので、内容を確認し、加筆修正を随時行うこと。 ・記録内容によっては、担当教員より直接指導を行う。								
【成績の評価方法】								
・実習目標の到達度を実習内容・態度・記録から実習評価表に基づいて、到達レベルを段階的に評価する。 ・実習評価表に基づいて、100%で総合的に評価する。								
【ルーブリック評価の活用(無)】								
【履修申請上の条件】								
3年前期までの全ての必修科目の単位が修得されていること。								
【教科書】								
・系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学、医学書院。 ・系統看護学講座 別巻 救急看護学、医学書院。 ・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院。 ・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院。 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1.2.3.4.5.6.7.8.9.10.11、医学書院。 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学。 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論。 ・講義から実習へ高齢者と成人の周手術期看護 1.2.3、医歯薬出版。 ・江川隆子(2019):ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、第6版、ヌーヴェルヒロカワ。								

**【参考書】**

- ・鎌倉やよい・深田順子(2008):周術期の臨床判断を磨く、初版、医学書院.
- ・黒田裕子・林みよ子(2013):クリティカルケア看護 完全ガイド、初版、医歯薬出版.
- ・浦部晶夫・島田和幸・川合眞一(2020):今日の治療薬 解説と便覧、南江堂.
- ・道又元裕(2011):クリティカルケア看護技術の実践と根拠、初版、中山書店.
- ・道又元裕・長谷川隆一・濱本実也・露木菜緒(2012):クリティカルケア実践の根拠、初版、照林社.
- ・新見明子(2016):根拠がわかる疾患別看護過程、改訂第3版、南江堂.
- ・関口恵子(2016):根拠がわかる症状別看護過程、改訂第3版、南江堂.
- ・高木永子(2018):看護過程に沿った対症看護 第5版、学研メディカル秀潤社.
- ・卯野木健(2015):クリティカルケア看護入門“声にならない訴え”を理解する、改訂第2版、学研メディカル秀潤社.
- ・山口瑞穂子・関口恵子(2016):経過がみえる疾患別病態関連マップ、第2版、学研メディカル秀潤社.
- ・山口瑞穂子・関口恵子(2016):疾患別看護過程の展開、第5版、学研メディカル秀潤社.
- ・和田攻(2003):第一線のナースと保健師のための実践臨床看護手技ガイド、第2版、文光堂.
- ・黒田裕子(2015):看護診断のためのよくわかる中範囲理論、第2版、学研メディカル秀潤社.

**【オープンな教育リソース】**

特になし

**【担当教員の実務経験】**

担当教員:看護師、急性・重症患者看護専門看護師としての臨床経験のある教員が実務経験を活かして学生指導を行う。  
臨床教員:臨床現場で実務経験の長い看護師が臨床教員として学生指導を行う。

**【オフィスアワー】**

学内日の昼休み。事前にメール等で連絡してから訪問すること。

**【教員連絡先】**

小濱 優子:ykohama@g.t-junshin.ac.jp  
西山 久美江:knishiyama@g.t-junshin.ac.jp

**【備考】**

- ・実習科目であるため、主体的な学修が必要となる。担当教員と連絡を取りながら十分な学修を行った上で実習に臨むこと。
- ・看護学実習要項・専門領域看護学実習要項の急性期看護学実習の部分を熟読すること。
- ・体調管理をしっかりと行い、十分な睡眠時間を確保すること。
- ・手術見学時には清潔・不潔をしっかりと理解した上で、見学に臨むこと。
- ・感染予防策に努めること。

授業科目名	老年看護学実習Ⅱ	担当教員名	塚本 都子					
コード	19NPR333	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	3年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/90時間/実習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
高齢者にとって避けられない生理的老化と病的老化を合わせ持つことで生じる健康課題を対象の立場から理解し、本人と家族が希望する生活の実現に必要な看護を体験的に学修する。慢性疾患や機能障害の急性増悪と入院・治療による環境の変化が、高齢者の生活にどのような影響を与えるのか系統的にアセスメントし理解する。高齢者と家族が希望する生活機能の条件や生きがいを基盤に健康課題を捉え、高齢者本人が心身の回復を促進していきけるよう看護を展開する。特に、本人に関わる多職種からの情報をもとに、慢性疾患の増悪因子の低減および回避に必要な力を高めるために求められる援助を考察し看護に繋げる。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 高齢者の生活機能の力を身体的・精神的・社会的な側面から総合的に理解することができる。						○		
2 高齢者のこれまでの生活史をふまえ、余生に対する本人の考えや思いを尊重した関わりが持てる。						○		
3 入院・治療による生活環境への適応状態を把握し、潜在的問題に対して予防的な看護を実施することができる。								○
4 慢性疾患の急性増悪に至った要因に対して、本人と家族が回避できる力を高める看護を実施することができる。						○	○	○
5 高齢者と家族に関わる多職種の連携・協働について説明することができる。						○	○	
6 看護専門職としての倫理的責務にもとづき、適切に判断・行動することができる。							○	
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	1. 実習単位・期間、実習時間 1) 実習単位(実習時間数):2単位 (90時間) 2) 実習期間:3年次 後期 9月以降 3) 実習時間:原則として8:30~16:00(実習場所により異なる) (休憩1時間、カンファレンス時間含む)	塚本 小林 大津山	<1週目> 1.病棟オリエンテーション(病院・病棟の構造と概要、入院患者の特徴、看護体制など) 2.受持ち患者を1名受け持ち、実習の説明を行い、同意をえる(同意書の記入) 3.アセスメント(情報収集、分析・解釈) 4.全体像 5.中間評価 *日々の行動計画は、臨床指導者や病棟看護師から助言を得て具体的に立案する。 *援助の実施は、行動計画にもとづき臨床指導者の指導下で実施する。 *援助の実施後は、臨床指導者と振り返りを行い、次の援助に役立てる。					
2	2. 実習施設 聖マリアンナ医科大学病院、川崎市立多摩病院		<2週目> 1.健康課題の抽出 2.看護計画立案 3.退院支援実施・評価・看護サマリー *受持ち患者に関する多職種カンファレンスなど積極的に連携・協働の場に参加する。 4.最終評価 5.老年看護観の発表					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			○					
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○					
③:ディスカッション・ディベート			○					
④:グループワーク			○					
⑤:プレゼンテーション			○					
⑥:実習・フィールドワーク			○					
【課題のフィードバック】								
課題レポートに対するフィードバックは、実習オリエンテーションや実習中に実施する。								
【成績の評価方法】								
4/5以上の出席をもって、実習目標の到達度を実習内容・態度・実習記録をもとに総合的に評価する。								
【履修申請上の条件】								
「発達看護学Ⅲ(老年)」、「老年看護学Ⅰ」、「老年看護学実習Ⅰ」、「老年看護学Ⅱ」の単位修得。								
【教科書】								
1.北川公子ほか:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学9版,医学書院。 2.佐々木英忠ほか:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 5版,医学書院。								
【参考書】								
1.百瀬 由美子,奥野 茂代他:老年看護学—概論と看護の実践 第6版,ヌーベルヒロカワ。 2.山田 律子:生活機能からみた 老年看護過程 第3版: +病態・生活機能関連図,医学書院。								
【オープンな教育リソース】								
特になし								
【オフィスアワー】								
塚本は、火・木の12:00~13:00、16:30~17:30である。研究室への訪室やe-mailでの質問に対応する。								
【教員連絡先】								
mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp								
【備考】								
特になし								

授業科目名	小児看護学実習	担当教員名	荻原 康子・市川 久美子・ほか					
コード	19NPR334	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	3年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/90時間/実習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
実習の内容は、「地域で生活する子どもと家族に必要な支援を思い描き、保育所保育園で学ぶ実習」と、「入院している子どもと家族に対する看護実践を学ぶ実習」であるが、それぞれの場をひとつくりにせず、その子どもと家族からの目線で情報をとらえて、いかなる状況にあっても重要な、子どもと家族にとっての「最善の利益」となる看護を学ぶ								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 子どもの成長発達に即した人間関係を成立させることができる。							○	
2 子どもの成長発達を理解し、より健康な状態へ導くための援助を具体的に述べるができる。							○	
3 健康障害が子どもやその家族の生活に及ぼす影響を理解し、援助を具体的に述べるができる。							○	
4 対象児の日常生活をイメージし、子どもの反応にそって看護を計画・実践し、評価することができる。					○			
5 生活環境にも目を向け、チームのなかでの看護の役割を述べるができる。								○
【授業計画】								
授業計画		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
<p>■2単位(90時間)、期間は2週間(1週間づつ間隔があく場合あり)、3年次後期。</p> <p>■ 地域における実習と学び</p> <p>1. 保育園実習 3日間、保育園に通う幼児(1～6歳)とのかかわりを通して、日々成長発達している幼児の特性を知る。また、当該保育園の特徴であるモンテッソーリ教育の意義と実際を学ぶ。</p> <p>2. 子育て支援のしくみ、地域交流の場について調べ、支援者の関りの必要性について知る。</p> <p>■ 病院実習</p> <p>1. 小児病棟実習 健康障害をもち病棟に入院している子どもと家族とのかかわりを通して必要な看護を学ぶ。</p> <p>実習方法：4日間の臨地実習では、原則1人の患児を受け持ち、看護過程を展開して学ぶ。 実習病院： 聖マリアンナ医科大学病院 小児病棟 川崎市立多摩病院 小児病棟</p>		荻原 市川 他教員	<p>■事前学習 (360分)</p> <p>1. 小児のアセスメントに必要な基礎知識 ・形態的变化(身長、体重) ・粗大運動と微細運動、言語の発達・認知の発達、社会性の発達 ・発達評価法(身体発育の評価,DENVER,他) ・乳幼児期の1日の栄養所要量・必要水分量と食行動の発達 ・1日の排泄量、回数、性状と排泄行動の発達 ・1日に必要な睡眠(午睡も含む)と生活リズム ・清潔行動の発達(口腔ケア、入浴、清拭、手洗い、うがい、衣類の着脱、など)</p> <p>2. 基本的な小児看護技術の復習 ・環境整備 ・バイタルサインの測定(特に、脈拍(心拍)・血圧・チアノーゼ・冷感の有無などの循環動態の観察および呼吸パターン・呼吸数・呼吸音などの呼吸状態の観察 ・清潔行動(沐浴・入浴の介助、歯磨き・うがい・手洗いの援助、衣類着脱の援助等) ・排泄行動(おむつ交換・トイレ誘導) ・食事の援助(授乳・離乳食・おやつ)、スプーン・フォーク・お箸の使い方 ・午睡の援助 ・遊び</p> <p>3. 主な疾患の治療・処置・看護 4. 主な症状の看護 5. 輸液管理(静脈内末梢持続点滴の管理) 6. 主な検査・処置の看護 7. 感染経路の理解とスタンダード・プリコーション 8. 小児の検査データの見かた(基準値他) 9. 小児の在宅移行支援における看護の役割 10. 小児の継続看護における医療・保健・福祉・教育との連携</p> <p>■事後学習 ・臨地実習前日～臨地実習後に、今日1日での学びと記録をまとめ、翌日の行動計画を作成する。(120分)</p>					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			○	学内日の学習内容には、子育て支援施策のデータ調査が含まれる。ICTコンテンツを活用する。				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)								
③:ディスカッション・ディベート			○					
④:グループワーク			○					
⑤:プレゼンテーション			○					
⑥:実習・フィールドワーク			○					
【課題のフィードバック】								
実習時間を活用すること								
【成績の評価方法】								
1. 保育園実習および学内実習(40%) 2. 病棟実習(60%)…小児看護学実習評価基準に従って評価する。 ※実習自己評価表をもとに実習終了後に振り返りの面接を行う予定である。課題:○○%								
合計:100%								
【ルーブリック評価の活用(無)】								
【履修申請上の条件】								
学生便覧を参照のこと								
【教科書】								
特に指定しない。								

<b>【参考書】</b> ・『発達段階からみた小児看護過程 第3版+病態関連図』医学書院 ・『小児看護ケアマニュアル』中山書店 ・『疾患別小児看護 基礎知識・関連図と実践事例』中央法規 ほか、適宜紹介する。
<b>【オープンな教育リソース】</b> 特になし
<b>【担当教員の実務経験】</b> ・看護師として、小児の外科・内科・ICU病棟、地域、保育園での実務経験をふまえ、できるだけ具体的なエピソードを交えて講義、指導を行う。 ・小児看護専門看護師として、幅広い知識と実践力をもち臨床で活躍している状況をふまえ、指導を行う。
<b>【オフィスアワー】</b> 実習時間内の休憩時間など
<b>【教員連絡先】</b> yogihara@g.t-junshin.ac.jp
<b>【備考】</b> 特になし

授業科目名	精神看護学実習	担当教員名	福永 ひとみ			
コード	19NPR336	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	3年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/90時間/実習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】  
精神科病棟で入院治療を受けている精神障害者を受け持ち、援助的人間関係を発展させる過程を通して、自己理解を深め、自己活用方法を学修する。実践を通して精神病理的特徴、発達課題の達成状況や生活・家族背景、ストレスなどの視点から精神障害者への理解を深め、精神病理が生活に及ぼす影響を考察し、援助的関係を発展させるかかわりを学習する。  
在宅支援実習では、地域で暮らす精神障害者の活動の場と生活を支援する様々な場とその役割について学修する。地域で暮らす精神障害者の生活や活動の実際と精神科訪問看護師の役割について学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤

【実習目的】精神障害者と家族を支える方法と看護師の役割を学修し、精神科看護の基礎的実践力を修得する。					
【実習目標】					
（精神科病院実習）					
1 受け持ち患者と援助的人間関係の成立に向けて自己活用できる。	○				
2 受け持ち患者の回復を支援するために適切な臨床判断をしながら、ストレスを生かした看護を実践できる。			○		
3 精神科医療における法や制度の活用および精神障害者への権利擁護の実際について説明できる。			○		
4 精神科病棟の治療・生活環境とリスクマネジメントの特徴について説明できる。			○		
5 精神科チーム医療の目的と多職種協働における看護師の役割を説明できる。				○	
（在宅支援事業所・精神科訪問看護実習）					
1 地域で暮らす精神障害者の活動の場や利用できる社会資源を説明できる。			○		
2 地域における他の専門職等との連携の目的を説明できる。				○	
3 精神障害者の地域生活継続における訪問看護師の役割について説明できる。				○	

【授業計画】

授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1. 実習期間 3週間(90時間) 2. 実習場所 ①医療法人社団 東京愛成会 高月病院 ②医療法人財団 緑雲会 多摩病院 ③聖マリアンナ医科大学病院 神経精神科病棟 ④株式会社 円グループ NPO法人多摩在宅支援センター円 訪問看護ステーション4か所 3. 実習内容・方法 (精神科病院実習) 1) 学生1人につき、①～③の病院の中から1つの精神科病棟で実習する。 2) 1病棟に学生3～6人配置する。 3) 患者を1人受け持ち、援助関係を構築しながら看護過程を展開する。 4) 実習の進捗や実習課題に応じ、指定の実習記録に必要な情報や思考内容を記述・整理し、指定された期限内に提出する。 5) 原則的に毎日カンファレンスをし、学びを共有する。  (在宅支援事業所・精神科訪問看護実習) 1) 上記④の精神科訪問看護ステーションで3日間実習する。 2) 1ステーションに学生2～3人配置する。 3) 訪問看護師に同行し利用者を訪問する。 4) 毎日、実習計画・学習目標を明確にして、実習に臨む。 5) 原則的に最終日にカンファレンスをし、学びを共有する。	福永	1. 事前学習 1) 既習関連科目(精神看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)で履修した精神看護学の基本的知識について、全般的に復習する。 特に、以下の項目は実習に必要な最低限の学習項目である。 (1) 代表的精神疾患に関する病態生理、症状、一般的な経過と治療、一般的な看護 統合失調症、躁うつ病、うつ病、主な精神症状、代表的な向精神薬、主要な副作用、作業療法、観察の視点 (2) 発達段階の特徴と発達課題 (3) コミュニケーションの基本 無条件の肯定的配慮(受容)・共感的理解(共感)・傾聴の意味、 転移、逆転移、治療的コミュニケーション、患者―看護師関係の発展段階 (4) 看護場面の再構成法 プロセスレコードの書き方、分析・考察の仕方、自己一致、異和感の投げ返し (5) ストレングスについて (6) リカバリーについて (7) 精神保健福祉法(入院形態・処遇・隔離拘束など) (8) 障害者総合支援法(生活を支えるための社会資源) (9) 地域生活を支えるための医療サービス(精神科訪問看護、精神科デイケア、ACT) (10) 多職種連携による退院支援 その他 2) 精神看護学Ⅲで履修した紙上事例の復習 実習オリエンテーション時に演習で記載した演習記録を返却するので、再修正して提出する。 2. 実習記録および課題の最終提出 原則として実習最終日16:00までに、担当教員に提出する。 提出ファイルの内容は、実習で記録した全ての実習記録(事前学習を除く)、課題レポート、自己評価を記載した実習評価表、自己の実習目標、健康チェック表、その他(実習連絡表、実習出席表、必要時カンファレンス記録など)。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】  
実習期間中は、カンファレンスや個人面談においてフィードバックする。最終日の面談で評価をフィードバックする。  
実習中に提出した実習記録などは、当日あるいは翌日返却する。  
実習記録類は、最終日に全て提出し、大学が一定期間保管する。

【成績の評価方法】  
1 実習評価表の評価項目に沿って評価する。  
2 以下の点を総合的に評価する。  
①実習内容 ②実習記録等の内容と提出日の遵守状況 ③基本的学習態度

【ルーブリック評価の活用(無)】

<p><b>【履修申請上の条件】</b></p> <p>3年前期までのすべての必修科目の単位を修得している。</p>
<p><b>【教科書】</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>【参考書】</b></p> <p>精神看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの教科書および参考書、その他適宜紹介する。</p>
<p><b>【オープンな教育リソース】</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>【担当教員の実務経験】</b></p> <p>看護師資格を持ち、精神科病院での実務経験を有す</p>
<p><b>【オフィスアワー】</b></p> <p>水曜日昼休み時間(12:10～13:00)、実習期間中は実習終了後随時</p>
<p><b>【教員連絡先】</b></p> <p>福永研究室 3号館 3階 3417号室 hfukunaga@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p><b>【備考】</b></p> <p>実習学習の意味を考え、自己の体調管理、社会人としてのマナー・接遇に留意し、学習者としての責任ある態度を望む。 実習が円滑に、有益に進むようオリエンテーション、ガイダンスの配布資料を必ず熟読した上で、不明な点を質問する。</p>

授業科目名	医療安全	担当教員名	天野 雅美			
コード	19NAD401	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	3年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
安全な医療の提供は、医療の質保証に直結する重要課題である。医療現場の高度化にともない危険要因が多様化している中、看護職者は24時間365日、対象者のベッドサイドにおいて最も身近で患者の安全を引き受けている存在である。更に、医療行為の最終実施者としてその責務を果たすことが求められる。そのため、本科目では、看護師一人ひとりの人間性や倫理観と的確な臨床判断のもとに医療事故・看護事故を未然に防ぎ、安全で良質な看護を提供できる実践能力を高める重要性について学ぶ。また、保健医療福祉チームにおける多職種間の円滑なコミュニケーションや看護職の調整役割について、事例分析や演習を通して学修する。その上で、自己の価値観や日常の行動と医療安全との関連について考察する。人間は誰でも間違える(To Err Is Human)存在であることを前提に、人はなぜ間違いを起こすのか、間違いはどのようにしておこるのか、間違いを防ぐにはどうしたらよいか、という問いを持ち、事故を防止し、安全で良質な医療を提供するために必要な看護職の能力や役割、自己の課題について考察する。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
			ディプロマ・ポリシー			
			①	②	③	④
1 医療安全の歴史と医療安全を学ぶ上で必要な用語の定義を説明できる。						○
2 医療安全と看護の責務に関する法令・制度を説明できる。					○	○
3 国や医療機関の医療安全対策の取り組みを説明できる。					○	○
4 医療事故の発生要因とメカニズムを説明できる。					○	○
5 看護業務に関わる主な医療事故の背景・要因分析・対策・実施を説明できる。					○	○
6 医療機関における医療安全管理システムの概要を説明できる。					○	○
7 安全な看護を提供するための自己の課題を考察できる。					○	○
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	ガイダンス 医療安全の意味とその重要性 ～医療安全をなぜ学ぶのか～ 1.医療安全の基盤となる考え方 2.医療事故・医療安全の概念 3.看護職の法的規定と医療安全	天野	予習(90分): ①テキストの該当ページ(テキストP.11-32)を熟読する。 ②過去に発生した医療事故の1事例を調べる。 復習(60分): ①授業内容を振り返り、整理する。 ②医療安全の考え方の変化、医療安全の基本的用語を整理する。 ③事例をもとに結果予見義務と結果回避義務を考える。			
2	わが国における医療安全管理 ～日本の医療安全の取り組み～ 1.国の医療安全管理指針と医療安全管理者創設の経緯 2.医療事故調査と診療報酬による医療安全対策 3.日本看護協会の取り組み 4.医療安全管理者の役割と業務 5.医療事故発生時の初期対応 6.医療事故情報の報告システム	天野	予習(90分): ①テキストの該当ページ(テキストP.33-72)を熟読する。 ②厚生労働省のホームページにアクセスし、医療事故調査制度の概要を整理する。 <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000061201.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000061201.html</a> (2022年4月1日) 復習(60分): ①授業内容を振り返り、医療事故発生時の初期対応の考え方をまとめる。 ②日本医療機能評価機構ホームページにアクセスし、医療事故情報収集等事業の情報を整理する。 ( <a href="https://www.medsafe.or.jp/">https://www.medsafe.or.jp/</a> ) ③日本医療安全調査機構:医療事故調査・支援センターホームページにアクセスし、機構の概要を整理する。			
3	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント 病院における医療安全の取り組み ～一人では防げない!全員参加の医療安全～ 1.事故分析の考え方と分析方法 2.ヒューマンエラーのメカニズム 3.チーム医療と安全文化の醸成 4.患者協同の医療安全	天野	予習(90分): ①テキストの該当ページ(テキストP.73-110 111-124)を熟読する。 復習(60分): ①授業内容を振り返り、整理する。 ②チームSTEPPSとI-SBARを振り返り、事例をもとにI-SBARを使用した報告をまとめる。 ③患者中心の医療と患者協同の医療の違いについて、自分の考えをまとめる。 参考: <a href="https://www.jinlab.jp/syochi/intro_collabo_medical.html">https://www.jinlab.jp/syochi/intro_collabo_medical.html</a> (じんラボHP) <a href="https://youtu.be/mOkKunFZ_c">https://youtu.be/mOkKunFZ_c</a> (AMCOP ミーティングの様子)			
4	看護における安全対策(1) ～看護事故は防げるか?～ 1.看護業務を行う際の環境の特徴とリスク 2.看護業務に関わる主な医療事故の背景、要因・対策	天野	予習(90分): ①テキストの該当ページ(テキストP.125-175)を熟読する。 ②医療安全推進のための標準テキストを読む ( <a href="https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzen/pdf/text.pdf">https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzen/pdf/text.pdf</a> ) 復習(60分): ①医療事故を発生しやすい看護業務の特性を整理する。 ②安全対策のチェックリストを作成する。(評価課題) ③ビジュラクラウドの視聴			
5	看護における安全対策(2) 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 1.看護業務に関連する事故と安全対策 労働形態、作業に伴う業務への影響とその予防策 2.感染の危険を伴う病原体への曝露とその予防策 3.患者、同僚および第三者による暴力、ハラスメントとその対策	天野	予習(90分): ①テキストの該当ページ(テキストP.199-224)を熟読する。 復習(60分): ①医療事故を発生しやすい看護業務の特性を整理する。 ②医療事故情報収集等事業報告書を読む。 <a href="https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzen/learning02/index.html#2022">https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzen/learning02/index.html#2022</a> にアクセス 下記より1つ選択して医療事故の背景、要因・対策をまとめる。 1)2022年(第68回報告書):患者間違いに関連した事例 2)2021年(第66回報告書):MRI検査室への金属製品などの磁性体の持ち込み (医療安全情報No.10、第2報No.94) 3)2020年(第63回報告書):温めたタオルによる熱傷に関連した事例			
6	在宅看護における医療事故と安全対策 1.在宅看護を取り巻く制度 2.在宅看護で起こりうる医療事故の特徴とリスク管理 医療者の安全確保対策 看護業務に関わる主な医療事故 KYTの手法	天野	予習(60分): ①テキストの該当ページ(テキストP.177-197)を熟読する。 復習(120分): ①授業内容を振り返り、整理する。 ②KYTの手法を復習し、次回の演習の進め方を確認する。			



7	医療者の安全確保対策と看護学実習での安全 動画視聴・演習・ロールプレイ ～KYTは日常でのトレーニング！～ 1.医療現場における危険予知活動: KYT演習 事例から学ぶ手法 「転倒事例」	天野	予習(60分): ①テキストの該当ページ(テキストP.225-253)を熟読する。 復習(60分) ①KYT成果物をまとめ、個人で提出する。
8	医療者の安全確保対策と看護学実習での安全 2.実習中の事故予防と学生の対応 ・SNSによるトラブル	天野	予習(90分): ①テキストの該当ページ(テキストP.225-253)を熟読する。 ②関連動画の視聴 復習(60分) 専門領域看護学実習の準備と心構えを整理する。 「医療安全における看護職者の役割と自己の課題」
【アクティブラーニング】			チェック欄
①:PBL(課題解決型学習)			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○
③:ディスカッション・ディベート			○
④:グループワーク			○
⑤:プレゼンテーション			○
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			その他の工夫
・課題レポートのフィードバックは、適宜講義中に実施する。 ・知識の確認をするために、グーグルフォームを用いた確認問題を実施する。			・テキストのARコンテンツ(拡張現実)を授業前・後に視聴して、授業へ臨む。 ・学内で撮影した事故事例のビデオを視聴して、演習に臨む。 ・厚生労働省や一般社団法人日本医療安全調査機構;医療事故調査・支援センターにアクセスし、行政の医療安全対策を学ぶ。 ・チームSTEPPS(チームとしてのよりよい実践と患者安全を高めるためのツールと戦略)のリーフレットや学習教材を活用して、医療者間のコミュニケーションスキルを学ぶ。
【成績の評価方法】			
レポート課題(60%), 演習の取り組み(40%), 合計100%になる。			
【レポート課題】:「医療安全における看護職者の役割と自己の課題」…A4用紙、MS明朝体、10.5ポイント、文字数1,300～1,500字			
【レポート評価基準(ルーブリック(有))】:30%			
①課題に沿ったタイトルが設定されている、②内容に一貫性があり、論理的にわかりやすく表現されている、③設定した問題の背景を説明している。体験に基づいた内容である、④考察が文献の引用等により深められている、⑤文章の体裁・表現は適切である。段落、句読点、主部と述部、文体、誤字・脱字、指定様式等、⑥看護学実習に臨む自分の課題、の6項目について自己・他者評価を含めて評価する。提出期日を厳守すること。提出遅延時は減点対象とする。なお、剽窃行為は禁止されているので注意すること。			
【課題】:既習の看護技術から1項目を選択し、チェックリストを作成する:選択する看護技術:初回ガイダンス時に提示 締め切り期日:初回ガイダンス時に提示			
【課題評価基準】:30% 授業内で提示			
【演習の評価(ルーブリック(有))】:40% KYT演習への取り組み、成果物、姿勢・意欲、協調性を踏まえ、総合的に評価する。			
【履修申請上の条件】			
①3年次後期から始まる専門領域の看護学実習受講予定者を対象とする。 ②専門領域の看護学実習において重要な知識や考え方や、以下の点に留意して授業に臨む。 ・予習・復習を確実にを行う。 ・分からない語句は、予め予習をして授業に臨む。 ・動画は、授業前に視聴する。			
【教科書】			
・松下由美子編:ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践(2) 医療安全, 第5版.メディカ出版.2023			
【参考書】			
・川村治子:系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践(2), 医学書院, 2015 ・小澤かおり:新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全, メヂカルフレンド社, 2020 ・日本看護協会出版会編:看護業務基準集2016年改訂版, 日本看護協会出版, 2016 <a href="https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/kijyun/pdf/kijyun2016.pdf">https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/kijyun/pdf/kijyun2016.pdf</a> (2021.1.29) ・日本看護協会:医療安全推進のための標準テキスト <a href="http://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anken/pdf/text.pdf">www.nurse.or.jp/nursing/practice/anken/pdf/text.pdf</a> (2021.1.28) ・河野龍太郎:医療におけるヒューマンエラー 第2版:なぜ間違える どう防ぐ, 医学書院, 2014. ・シドニー・デッカー(著) 芳賀繁(監訳):ヒューマンエラーは裁けるか、東京大学出版会, 2017 ・米国医療の質委員会/医学研究所:人は誰でも間違える より安全な医療システムを目指して, 日本評論社, 2019 ・大坪陽子他:看護の現場ですぐに役立つ医療安全の基本, 秀和システム, 2020			
【オープンな教育リソース】			
「医療安全推進のための標準テキスト」日本看護協会 <a href="https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anken/pdf/text.pdf">https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anken/pdf/text.pdf</a> (2021年1月28日アクセス) 看護業務基準集2016年改訂版, 日本看護協会出版 <a href="https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/kijyun/pdf/kijyun2016.pdf">https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/kijyun/pdf/kijyun2016.pdf</a> (2021.1.29) 医療事故調査制度の概要:厚生労働省のホームページ <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000061201.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000061201.html</a> (2021年1月28日) 医療事故に係る調査のしくみ:一般社団法人日本医療安全調査機構(医療事故調査・支援センター) <a href="https://www.medsafe.or.jp/">https://www.medsafe.or.jp/</a> (2021年1月28日アクセス)			
【担当教員の実務経験】			
・看護師・保健師の資格を有し、内科病棟・外科病棟を中心とした看護師臨床経験がある。看護基礎教育は、基礎看護学領域を専任とした大学教育経験がある。			
【オフィスアワー】			
・B棟3428-1研究室 平日12:10-13:00			
【教員連絡先】			
・mamano@g.t-junshin.ac.jp 事前にアポイントメントを取ること			
【備考】			
1・2年次の看護技術演習で学んだ看護技術の安全・安楽の視点を想起し、学習を積み上げていくことを期待する。			

授業科目名	医療経済論	担当教員名	大岡 正道					
コード	19NAD402	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択			
			○					
年次/期間	4年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を实践する能力を身につけている。							
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を实践する能力を身につけている。							
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
わが国における国民医療費は、少子高齢化の進行とともに増大の一途をたどっており、医療の分野を経済的視点でとらえた課題への対応が求められている。医療保険制度が抱える課題について、経済学的な分析方法を応用しながら制度の評価を行う。医療サービスは日本を含め多くの国で政府による強い規制下におかれている。効率性と公平性を達成するために、どのような規制や制度設計が必要か、近年の診療報酬改定の問題点を抽出し、基本的な経済学の分析手法、制度評価の方法を学修する。□								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 わが国の医療制度、保険請求の流れや医療を取り巻く現状、自由診療や混合診療の問題点について説明することができる。							○	○
2 費用対効果の基礎知識について説明することができ、医療においてはどのようなことが課題として議論されているかを理解できるようにする。							○	○
3 病院におけるDPC/PDPS(診断群分類別包括支払い制度)について説明することができる。								○
4 病院経営指標の基礎知識を理解し、説明することができる。								○
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	わが国の保健医療システムと国民医療費	大岡	予習(15分):保健医療システムと国民医療費の基本的な知識を予習しておくこと 復習(30分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認しておくこと					
2	国民皆保険、自由診療・混合診療	大岡	予習(15分):自由診療・混合診療の基本的な知識を予習しておくこと 復習(30分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認しておくこと					
3	費用対効果	大岡	予習(15分):費用対効果の基本的な知識を予習しておくこと 復習(30分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認しておくこと					
4	病院におけるDPC/PDPS(診断群分類別包括支払い制度)	大岡	予習(15分):DPC/PDPSの基本的な知識を予習しておくこと 復習(30分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認する					
5	病院経営指標の基礎知識:病院の損益と収支	大岡	予習(15分):損益と収支の基本的な知識を予習しておくこと 復習(30分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認する					
6	病院経営指標の基礎知識:経営の可視化	大岡	予習(15分):テーマに沿った基本的な知識を予習しておくこと 復習(30分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認する					
7	病院経営指標の基礎知識:入院、外来診療に関する基礎的な指標	大岡	予習(15分):診療に関する指標の基本的な知識を予習しておくこと 復習(30分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認する					
8	病院経営指標の基礎知識:付加価値額と労働生産性、労働分配率	大岡	予習(15分):付加価値額の基本的な知識を予習しておくこと 復習(30分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認する					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)								
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)								
③:ディスカッション・ディベート			○					
④:グループワーク								
⑤:プレゼンテーション			○					
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
医療経済や医療システムに関する日々のニュースに関心を持って、講義内容と突合させる。課題は、次回講義時にフィードバックする。								
【成績の評価方法】								
授業参加度(発言・発表):20%								
課題:80%								
合計:100%								
【ルーブリック評価の活用(無)】								

<p><b>【履修申請上の条件】</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>【教科書】</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>【参考書】</b></p> <p>看護のための経営指標「見る・知る・活かす」使いこなし超入門: 経営参画への道が拓ける! / 小宮清編集 (JANコード/ISBNコード: 9784840450263)</p>
<p><b>【オープンな教育リソース】</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>【担当教員の実務経験】</b></p> <p>東京純心大学の講義を2022年担当。医師として、専門分野において、医療・看護を経済的視点より講義する。</p>
<p><b>【オフィスアワー】</b></p> <p>学務課を通して対応可。</p>
<p><b>【教員連絡先】</b></p> <p>学務課へメールにて連絡。 E-mail: u_gakumu@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p><b>【備考】</b></p> <p>特になし</p>

看護学部							2023年度			
授業科目名	在宅看護学Ⅱ		担当教員名 ※ 複数でご担当される場合は、科目責任者を筆頭にして、全員の氏名をご入力下さい	南幸子・戸塚智美						
コード	19NPR412		区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	※ 該当箇所に「○(マル)」を入力			
年次/期間	3年次/前期		単位/時間数/形態	2単位/60時間/講義・演習						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】									
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。									
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。									
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。									
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。									
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。									
【授業の概要】 生活の場において医療を必要とする小児から高齢者とその家族への具体的な看護方法について学ぶ。在宅看護に必要な知識・技術について講義・演習を通して学修する。在宅看護における紙上事例を展開し、在宅療養者とその家族に対する看護につなげる思考過程と必要な援助方法について学修する。学修内容は、①在宅における日常生活援助では健康障害が生活に及ぼす影響や療養者とその家族に対する看護について学ぶ。②在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、胃瘻からの経管栄養法、在宅中心静脈栄養法、疼痛緩和に関する医療技術とそれに伴う看護について学ぶ。③在宅看護過程の展開では、ICFの概念に則って療養者とその家族に必要な看護計画を立案する。										
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】										
1 健康障害が生活に及ぼす影響や、在宅療養者とその家族に対する日常生活援助について述べるができる。										
2 在宅で医療管理を必要とする人に対して、医療機器の管理とそれに伴う看護について述べるができる。										
3 在宅看護過程の特徴を理解し、事例の発達段階・健康障害・生活に応じた看護計画を立案し記述することができる。										
4 在宅療養者と家族が住みなれた地域で暮らす意味とその人らしい生活を支える看護について述べるができる。										
5 訪問看護師として、また社会人としてマナーを意識しながら行動することができる。										
【授業計画】										
授業計画			担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1 2 4/11	在宅看護学Ⅱオリエンテーション 予習でARの動画を視聴し授業に臨むよう学生に説明を行う。 脳梗塞再発防止のための在宅看護		南幸子 戸塚智美	予習(30分):シラバスを一読し、授業のイメージを持って参加する。 予習(30分):脳梗塞再発防止の看護について調べ、疑問点を抽出する。 在宅看護論②在宅療養における看護過程の展開技術 p22~p30、p213~p215、p.247~p248を精読する。 復習(30分):脳梗塞再発防止の看護計画についてまとめる。						
3 4 4/18	訪問看護師としてのマナーの実際 【演習】訪問マナー		戸塚智美 南幸子 (若林)	予習(30分):訪問マナーの資料を熟読し、予行練習をすること。在宅看護論②家庭訪問・初回訪問 p.18~20を精読する 復習(30分):訪問マナーをまとめておくこと。 演習レポート①						
5 6 4/25	在宅における援助技術:移動のアセスメントと援助方法 在宅における環境・移動・安全:環境整備/転倒予防 【演習】移動の援助の実際 (1)移動補助具の利用、生活に密着した移動		南幸子 戸塚智美 (伊藤・若林)	予習(30分):テキストの在宅看護を展開する上で検討すべきポイントと移動の援助の該当箇所在宅看護論①地域療養を支えるケアp259~260、在宅看護論②在宅療養を支える技術P46~P53を読み、事前課題に取り組む。テキストの「メディカAR」の「住宅環境(動画)」「移動に関わる機能のアセスメント(動画)」を視聴する。基礎看護技術・高齢者看護学演習で学習した「移動」を復習する。 演習レポート②						
7 8 5/2	在宅における援助技術:清潔のアセスメントと援助方法の実際 在宅における清潔ケア 【演習】清潔の援助の実際 (1)自宅にあるものを活用して自立を促す清潔援助の工夫 (入浴・手浴・足浴・洗髪)		南幸子 戸塚智美 (伊藤・若林)	予習(30分):「清潔と更衣P75~P77を読み、事前課題に取り組む。テキストの「メディカAR」の「部分浴(動画)」「洗髪方法(動画)」を視聴する。基礎看護技術演習で学習した「清潔援助」を復習すること。演習後確認テスト② 復習(30分):「清潔」に関する振り返り 演習レポート③						
9 10 5/9	在宅における援助技術:食事の援助 【演習】食事のアセスメントと援助の実際 (1)食事の援助(自助具の活用)		南幸子 戸塚智美	予習(30分):テキストの在宅看護論①地域療養を支えるケアp255~256、在宅看護論②在宅療養を支える技術「食生活」のP70~P77を読み、事前課題に取り組む。基礎看護技術演習で学習した「食事介助」を復習すること。演習が実施できるように事例から食事の援助方法を考案する。 演習レポート④ 復習(30分):「食事」に関する振り返り						
11 12 5/16	在宅における援助技術:在宅経管栄養法・胃瘻栄養法の管理 【演習】食事のアセスメントと援助の実際 (1)経鼻経管栄養法・胃ろうの管理と看護について		南幸子 戸塚智美 (伊藤・若林)	予習(30分):テキスト「在宅経管栄養法」P145~P150を精読する。テキストの「メディカAR」の「経管栄養(動画)」「胃ろう・注入手順(動画)」を視聴する。演習レポート④ 復習(30分):「胃瘻栄養法」に関する振り返り						
13 14 5/23	在宅における援助技術:排泄の援助 (1)在宅で行う排泄ケアマネジメントと援助 (2)排泄のアセスメントと援助 (3)膀胱留置カテーテル管理と看護について		南幸子 戸塚智美 (伊藤・若林)	予習(30分):在宅看護論①地域療養を支えるケアp256~257、在宅看護論②在宅療養を支える技術 p137~141、在宅看護論②在宅療養を支える技術 p65~71、p127~134 を精読する。 演習レポート⑤ 復習(30分):「排泄の援助」に関する振り返り						
15 6/6	慢性呼吸不全の人のケア 在宅酸素療法を受けるCOPDの人とその家族に対する援助		戸塚智美 南幸子	予習(30分):COPDの病態生理を復習すること。 在宅看護論①地域療養を支えるケアp265~266在宅看護論②在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法(NPPV・TPPV) p.171~p.175を精読する。 演習レポート⑥ 復習(30分):「呼吸の援助」に関する振り返り						
16 6/6	【演習】呼吸のアセスメントと援助の実際 ① 医療機器(医療機器事業者)在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法 ② 在宅酸素療法中の看護		外部講師 戸塚智美 南幸子 (若林)							
17 18 6/13	神経難病の人のケア 神経難病(筋萎縮性側索硬化症)の人とその家族に対する援助 【演習】コミュニケーション方法		戸塚智美 外部講師 南幸子	予習(30分):テキストの「メディカAR」の「文字盤を使ったコミュニケーション(動画)」「意思伝達装置(動画)」「IT機器の活用(動画)」「ALS療養者からのメッセージ(動画)」を視聴する。在宅看護論②在宅療養を支える技術P34~36、p220~223を精読する。演習レポート⑦ 復習(30分):学びの振り返り						
19 6/20	在宅における援助技術:薬物療法 *在宅における薬の管理と中心静脈栄養法の管理と看護について *糖尿病の管理		戸塚智美 南幸子 (若林)	予習(30分):看護技術演習で学習した「与薬」及び「薬物療法を受ける対象への看護」に関する内容を復習すること。在宅看護論①地域療養を支えるケアp262,271、在宅看護論②薬物療法p108~p.112、輸液管理 p.145~150を精読する。 復習(30分):講義内容のまとめをすること。						
20 6/20	在宅における排痰ケア *在宅における排痰ケアの意義と目的 *排痰ケアにおけるアセスメント 【演習】吸引		戸塚智美 南幸子 (若林)	予習(30分):在宅看護論②在宅療養を支える技術 p117~127 を精読する。 演習レポート⑧ 復習(30分):「呼吸の援助」に関する振り返り						
21 22 6/27	褥瘡とポジショニング 在宅における褥瘡ケアの特徴を理解し、対象者を支援できる。 *在宅における褥瘡の発生機序を理解し、アセスメントできる。 *在宅における褥瘡の基本的技術を理解し、指導できる。 【演習】褥瘡予防とポジショニング		南幸子 戸塚智美 (伊藤・若林)	予習(30分):在宅看護論①地域療養を支えるケア p272、在宅看護論②在宅療養を支える技術 p144~148 を精読する。 演習レポート⑨ 復習(30分):「褥瘡ケアの援助」に関する振り返り						

23 7/4	在宅における援助技術:ターミナル期の援助 ターミナル期の人とその家族に対する援助の実際	外部講師 南幸子 戸塚智美	予習(30分):在宅看護論②在宅療養を支える技術p60～63、p216～219⑨外来がん治療の支援、⑩疼痛緩和p175から180、終末期療養者に対する在宅看護の事例展開をp239～241精読すること。 講義を受けてレポート⑩ 復習(30分):在宅ターミナル期の援助について振り返り
24 7/4	在宅生活を継続するために「地域包括支援センター」と「多職種連携」についての援助の実際 ・地域包括支援センターの働きと役割について振り返り。 ・入院から退院、在宅生活までの多職種連携やプロセスについて理解し実習に活かすことが出来る。	南幸子 戸塚智美	予習(30分):在宅看護論①地域療養を考える第3章P88～P139えお精読すること。 復習(30分):テキストおよび配布プリントを基に定期試験の準備をすること。
25 7/6	在宅看護過程の展開 【演習】在宅看護過程演習 (1)オリエンテーション (2)事例説明:①脊髄損傷	戸塚智美 南幸子 (若林)	予習(30分):事例を精読すること。 在宅看護論②事例で学ぶ在宅看護の技術 7 事故により中途障害者となった成人男性 p.224～228を精読する。 復習(30分):在宅看護過程の展開自己学習をすること。
26(7/6) 27(7/11) 28(7/11) 29(7/18) 30(7/18)	【グループワーク】 (1)情報整理 (2)アセスメント (3)看護上の課題と訪問看護の必要性 (4)ケアチームにおける協働 (5)長期・短期目標 (6)訪問看護計画・行動計画立案 (7)発表 看護の評価と訪問看護計画の修正	戸塚智美 南幸子 (若林)	予習(30分):事例を精読すること。 復習(30分):在宅看護過程の展開自己学習をすること。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		記載事項なし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
演習後の課題レポートへのフィードバックは、次の講義の中で実施する。		
【成績の評価方法】		
定期試験50%、課題レポート・演習後レポート30%、在宅看護過程の展開20%として評価する。ルーブリック評価基準無し		
【履修申請上の条件】		
「在宅看護学Ⅰ」を履修していることが望ましい		
【教科書】		
ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア、在宅看護論②在宅療養を支える技術 メディカ出版2022年 上田敏:ICF(国際生活機能分類)の理解と活用一人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか(第2版)入門編、きょうされん2021年		
【参考書】		
系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 第5版 医学書院 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ 実践できる在宅看護技術ガイド GaKKen 在宅看護実習ガイド 照林社 根拠がわかる在宅看護技術 第2版 メヂカルフレンド社		
【オープンな教育リソース】		
記載事項なし		
【担当教員の実務経験】		
南幸子: 臨床看護、訪問看護、特定居宅支援事業所、地域包括支援センターの勤務経験から地域・在宅で生活するために必要な看護支援を教育内容に取り入れた授業を展開する。 戸塚智美: 臨床看護・訪問看護の経験をもとに、疾患や障害が対象の日常生活に及ぼす影響と療養者とその家族に対する看護を総合的に指導する。		
【オフィスアワー】		
南幸子: 月～金12:10～13:00 戸塚智美: 月～金12:10～13:00		
【教員連絡先】		
南幸子: sminami@g.t-junshin.ac.jp 戸塚智美: stotsuka@g.t-junshin.jp		
【備考】		
記載事項なし		

科目責任者が2/3以上授業時間数を担当している場合は、右の欄に「○(マル)」をご入力してください。

入力欄

○

授業科目名	看護管理学	担当教員名	上谷いつ子			
コード	19NAD404	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	4年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を实践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を实践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】  
国民の保健医療福祉に対するニーズの変化に伴い、看護サービスへの要求は多様化・複雑化しており、看護職への期待と役割は拡大している。この科目では、看護管理の概念と原則を学び、看護の対象となる人々に安全で良質な看護サービスを効率的・効果的に提供するために、看護職者個人および看護組織が担う役割は何かについて理解する。マネジメントの実際には、管理の対象として主に「ひと・もの・かね・情報・知識」を取り上げる。具体的には、組織運営、看護サービス提供システム(看護提供方式)、業務管理、人的資源管理(労務管理・人材育成含む)、施設設備・物品管理、情報管理、予算管理等について学修する。さらに、看護サービスの質保証のための質評価・改善・変革等について理解を深める。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 看護管理の目的とプロセスについて説明できる。				○	○
2 看護サービスを提供するための組織内のしくみについて説明できる。				○	○
3 看護チーム及び他職種との連携・協働における看護職の役割について説明できる。				○	○
4 キャリア開発の視点から個人と組織の関係について説明できる。				○	○
5 看護の質保証における評価の視点・方法を説明できる。				○	○
6 看護の経済的側面への関心をもつ必要性について説明できる。				○	○
7 組織における看護専門職および看護管理者の役割と責務について考察できる。				○	○

【授業計画】	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	コースガイダンス 看護管理の定義とプロセス 1. 看護管理の定義と基本的要素 2. 看護におけるマネジメント ・看護におけるマネジメントの考え方の変遷 ・マネジメントプロセスとPDCAサイクル	上谷	【予習】(60分): ①テキスト第1章p2-14、第5章p138-144を熟読し整理する。 ②看護管理の定義、看護管理をなぜ学ぶのかについて、テキスト第1章や既存の知識から自分なりに考えておく。 【復習】(30分):授業内容を振り返り、整理する。 ①看護を实践するにあたり看護管理の視点がなぜ必要なのか、看護管理の対象、看護職者個人と看護組織が担う役割の特徴について整理する。 【課題】(30分)「実習の1日の行動と管理的視点」のワークシートに取り組む。提出は授業時に指示する。 *授業内容の確認テスト、リフレクションシートは毎回授業終了時にGoogle Formで配信する
2	看護組織とマネジメント ～組織として看護サービスをマネジメントする 1. 看護サービスの定義と特徴 2. 組織目的達成のためのマネジメント ・組織理念の形成と浸透 ・現状分析による戦略的目標 3. 看護組織の構成と職務	上谷	【予習】(60分): ①テキスト第4章p78-86、第5章p138-144を熟読し整理する。 ②実習体験を想起し、組織のなかで誰がどのような意思決定を行っているかについて整理する。 【復習】(60分):授業内容を振り返り、整理する。 ①看護サービスの特徴について整理する ②病院組織における理念の形成と浸透の重要性、看護部門の位置づけと役割、職位と職務について整理する。 【課題A】(60分) 以下のテーマについて、授業の進行に沿って自身の考えを整理していく(ワークシート)。 テーマ「看護師長であるあなたは、看護部長よりA病棟への異動を命じられた。あなたはA病棟をどのように運営していきたいか、自身の考えを整理しなさい。
3	看護ケアのマネジメント 1. 看護ケアのマネジメントにおける看護職の機能 2. 多職種連携・協働のマネジメント 4. 看護業務のマネジメント ・看護ケアの標準化 ・日常業務の判断基準と多重課題への対応	上谷	【予習】(60分): ①テキスト第2章p16-62、付録p209-216、p217-220を熟読し整理する。 ②VISUALEARNクラウドにアクセスし、DVD「よくある場面から学ぶ多重課題」を視聴する。 ③これまでの実習体験を想起し、看護ケアの優先順位の判断や時間管理で困ったりしたこと、うまくいったことなどを列挙し、その原因、理由について振り返る。 【復習】(60分):授業内容を振り返り、整理する。 ①患者の権利と尊重、意思決定支援、安全管理、チーム医療における看護職の役割について整理する。 ②看護ケアの標準化とは何か、標準化の必要性、標準化の具体例について整理する。
4	看護サービスのマネジメント ① 1. 看護サービスの提供システム ～看護方式 2. 人材のマネジメント(人的資源管理) ・人材の採用と育成・活用 ・労働環境の調整:看護師の働き方のマネジメント	上谷	【予習】(60分): ①テキスト第3章p64-76、第4章p86-110を熟読し整理する。 ②日本看護協会公式ホームページにアクセスし(日本看護協会検索 <a href="https://www.nurse.or.jp/">https://www.nurse.or.jp/</a> )、次の①②について調べておく。 ・重点政策・事業➡看護職の働き方改革の推進・看護職のキャリア構築支援 ・生涯学習支援の中で関心ある項目 【復習】(60分):授業内容を振り返り、整理する。 ①看護ケア提供システムの定義、特徴、強み・弱みを整理し、どのようなシステムが理想的かについて自身の考えをまとめておく。 ②看護管理者としてどのような人材を採用し、どのような人材に育成していきたいか、自身の考えを整理する。 ③多様な働き方について整理する。
5	看護サービスのマネジメント ② 1. 施設・設備管理、物品管理、情報管理、予算管理(コスト管理)、リスクマネジメント 2. 医療・看護サービスの評価と改善 ～看護の質を評価するための視点とは?	上谷	【予習】(60分): ①テキスト第4章p110-136を熟読し整理する。 ②日本看護協会公式ホームページにアクセスし(日本看護協会検索 <a href="https://www.nurse.or.jp/">https://www.nurse.or.jp/</a> )、DiNQL(ディンクル)事業についてリサーチする。 ・看護実践情報 ➡ 労働と看護の質向上のためのデータベース(DiNQL デインクル)事業 ③臨床倫理、看護倫理、医療安全、医療・看護情報の管理、電子カルテの取り扱いについて復習しておく。 【復習】(60分):授業内容を振り返り、整理する。 ①受持患者への看護の質は保証されていたかについて振り返る。 ③看護ケアの質評価・改善システム公式ホームページにアクセスし(看護ケアの質評価・改善システムで検索、 <a href="http://www.nursing-qi.com/">http://www.nursing-qi.com/</a> )、DVD1～4を視聴する。 【課題】 課題用紙の「看護師の看護行為、看護業務における管理的視点」に取り組む。提出は授業時に指示する。

6	マネジメントに必要な知識と技術 1. リーダーの役割と求められる資質・能力 2. リーダーシップとマネジメント ワーク:「ついていきたいリーダーとついていきたくないリーダー」	上谷	【予習】(60分): ①テキスト第3章、第5章p144-162を熟読し整理する。 ②日本看護協会HPにアクセスし、クリニカルリーダー、認定看護管理者について調べておく。 【復習】(60分):授業内容を振り返り、整理する。 ①チームリーダーや看護管理者に求められる能力について整理する。 ②実習体験を振り返り、チーム活動における自己の課題を整理する。 【課題B】(60分) 以下のテーマについて自身の考えを整理する(ワークシート)。 「チームリーダー及びチームメンバーとしてチームをどのように運営していくか、それぞれの役割について、自身の考えを述べなさい。」	
7	看護を取り巻く法律と諸制度 1. 法律と看護管理 ～看護職がかかわる法制度 2. 看護の経済的側面 1) 医療制度と診療報酬のしくみ 2) 看護と診療報酬 3. 看護行政と政策	上谷	【予習】(60分): ①テキスト第6章p166-193、付録【看護管理関連資料】p195-208を熟読し、看護管理に関連する法律、看護にかかわる医療・介護制度、診療報酬のしくみについて整理する。 【復習】(60分):授業内容を振り返り、整理する。 ①看護サービスの対価の変遷の表を読み、感想を整理する。 ②看護師が経営的視点を持つ意味について整理する。	
8	看護管理の実際 ～看護管理者、チームリーダーの体験学習に向けて～ 1. 看護管理職に求められるスキル 2. 事例から学ぶ看護管理 3. 看護師の業務調整の実際 ワーク:多重課題～マルチタスクを乗り越えるために まとめ	上谷	【予習】(60分): ①事前配布の「事例に学ぶ看護管理～事例の中の看護管理の視点を考えよう」のワークシートに取り組む。 ②多重課題時の対応について整理しておく。 【復習】(60分): ①多重課題のワークからの学び、気づきを整理し、自己の課題をまとめる。 【最終課題】(120分):授業進行に伴い提示した課題Aと課題Bについてまとめておく。	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)				事前にDVD視聴、日本看護協会HP、看護ケアの質評価・改善システムHP等にアクセスし、授業に臨む。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○	
③:ディスカッション・ディベート			○	
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション				
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
課題のフィードバックは、授業内で行う。 毎回の講義中もしくは終了後の確認テスト、リフレクションシート(Google Form)の質問には、次回の授業もしくはGoogle Classroomで個別もしくは全体にフィードバックする。				
【成績の評価方法】				
筆記試験(70%)・レポート(20%)・ワークブック(10%)により、総合的に評価する。 目標1～6:目標に含まれる要素、キーワードについての知識の習得状況を筆記試験で評価する。 目標7:レポートで評価(ループリック)する。 目標1～7:授業前・後の課題内容及び提出状況、ワークブックによる課題取組状況を評価する。				
【筆記試験】:出題範囲については、授業時に示す。 【レポート評価基準(ループリック評価)】 ・評価項目:①課題に沿ったタイトルの設定、②内容の一貫性・論理性・わかりやすい表現、③設定した問題の背景の説明、④文献の引用等による考察の深まり、⑤文章の体裁・適切な表現(段落、句読点、主部と述部、文体、誤字・脱字、指定様式等)など、課題の内容によって評価項目を設定し評価する。 ・提出期日の厳守。提出遅延時は減点対象とする。 ・剽窃行為は禁止。評価対象外とする。				
【ループリック評価の活用(有 )】				
【履修申請上の条件】				
統合実習を履修予定の学生を対象とする。				
【教科書】				
上泉和子:系統看護学講座統合分野 看護の統合と実践①看護管理, 医学書院, 最新版。				
【参考書】				
村島さい子他編:ナーシンググラフィカ看護管理 第3版, メディカ出版, 2017。 日本看護協会編:看護に活かす基準・指針・ガイドライン集2020, 日本看護協会出版会, 手島恵他編集:看護管理学-自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル, 南江堂, 2015。 岩崎 夏海著:もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら, 新潮文庫。 ピーター・F・ドラッカー著:マネジメント[エッセンシャル版]-基本と原則, ダイヤモンド社, 2001。 勝田裕美子:組織で生きる, 管理と倫理のはざままで, 医学書院。 近藤隆雄:サービスマネジメント入門-ものづくりから価値づくりの視点へ, 生産性出版。 手島恵:主体性を高めチームを活性化! 看護のためのポジティブ・マネジメント 第2版, 医学書院, 2018。				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【担当教員の実務経験】				
看護師および看護管理者として臨床経験をもとに、実践例を示しながら看護管理の基礎を教授する。				
【オフィスアワー】				
火曜日1限・2限、木3限・4限 昼休み Gmailでの問合せ可能				
【教員連絡先】				
iuetani@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
看護管理は、より良い看護を提供するために、すべての看護職が身につけるべき知識・技術である。良質な看護を提供するためにはどのようなシステムを創造していくのか、良質な人材の確保と育成・活用のあり方などについても考えていきたい。なお、耳慣れない語句がでてくるので、丁寧に調べてノートに整理すること。				

授業科目名	看護行政と看護の展望	担当教員名	高橋 恵																																																								
コード	19NAD407	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択																																																						
年次/期間	4年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義																																																								
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】																																																										
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。																																																										
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。																																																										
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。																																																										
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。																																																										
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。																																																										
【授業の概要】	<p>変動する社会のニーズに適した質の高い看護を提供するために、歴史的・制度的観点から踏まえ、看護行政・政策活動の意義と役割を学ぶ。看護行政・政策とは何かを理解し、看護を実践する上で、看護行政・政策について学ぶことの重要性を理解する。また、我が国のこれまでの看護人材育成政策及び看護人材確保政策の経緯を学び、看護人材確保における現状と課題について理解する。変動する社会のニーズに適した質の高い看護を提供するうえでの政策的課題を発見し、考察する。</p>																																																										
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="5">ディプロマ・ポリシー</th> </tr> <tr> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 変動する社会のニーズと医療・看護への期待の変化について説明できる</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2 看護活動の根拠となる法律とその内容を、看護師の実践内容と関連付けて説明できる。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>3 看護に関わる政策・制度について、看護実践内容と関連付けて説明できる。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>4 看護に関わる制度がつけられる仕組みについて説明できる。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>5 政策に関与している組織、学術団体とその働きについて説明できる。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>6 看護を実践する上で看護行政・政策について学ぶことの重要性について説明できる。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>7 看護に関わる政策的課題と変革の時代に生きる看護の展望について考察できる。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>						ディプロマ・ポリシー					①	②	③	④	⑤	1 変動する社会のニーズと医療・看護への期待の変化について説明できる				○	○	2 看護活動の根拠となる法律とその内容を、看護師の実践内容と関連付けて説明できる。				○	○	3 看護に関わる政策・制度について、看護実践内容と関連付けて説明できる。				○	○	4 看護に関わる制度がつけられる仕組みについて説明できる。				○	○	5 政策に関与している組織、学術団体とその働きについて説明できる。				○	○	6 看護を実践する上で看護行政・政策について学ぶことの重要性について説明できる。				○	○	7 看護に関わる政策的課題と変革の時代に生きる看護の展望について考察できる。				○	○	
	ディプロマ・ポリシー																																																										
	①	②	③	④	⑤																																																						
1 変動する社会のニーズと医療・看護への期待の変化について説明できる				○	○																																																						
2 看護活動の根拠となる法律とその内容を、看護師の実践内容と関連付けて説明できる。				○	○																																																						
3 看護に関わる政策・制度について、看護実践内容と関連付けて説明できる。				○	○																																																						
4 看護に関わる制度がつけられる仕組みについて説明できる。				○	○																																																						
5 政策に関与している組織、学術団体とその働きについて説明できる。				○	○																																																						
6 看護を実践する上で看護行政・政策について学ぶことの重要性について説明できる。				○	○																																																						
7 看護に関わる政策的課題と変革の時代に生きる看護の展望について考察できる。				○	○																																																						
【授業計画】	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>授業計画</th> <th>担当者</th> <th colspan="3">授業外学修(予習・復習・課題等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. コースガイダンス 2. 変動する社会のニーズと看護の役割 1) 医療・看護を取り巻く環境の変化 : 諸外国との比較から 2) 医療・看護への期待と役割</td> <td>高橋</td> <td colspan="3">予習: (1)テキスト第1章(P2~14看護管理で学習している箇所)を読んで再学習しておくこと。 (2) 社会の変化が医療に与える影響について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3. 看護管理に関連する法律 1) 日本国憲法 2) 医療法 ① 医療法とは ② 医療法の目的 ③ 医療の基本理念</td> <td>高橋</td> <td colspan="3">予習: (1)テキスト第6章(P181~193)を読んで整理しておくこと。 (2) 日本国憲法・医療法について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3. 看護管理に関連する法律 3) 保健師助産師看護師法 4) 看護に関連(関与)する法律 ① 医師法 ② 薬剤師法 5) 看護師等の人材確保の促進に関する法律</td> <td>高橋</td> <td colspan="3">予習: (1)テキスト第6章(P166~P180)を読んで整理しておくこと。 (2) 保健師助産師看護師法・医師法・薬剤師法について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4. 保健医療福祉政策と最近の動向 1) 社会保障制度改革の背景 2) 政策・制度と看護サービス ① 政策とは ② 政策形成と過程 ③ 我が国における医療制度のしくみ 3) 社会保障・税一体改革</td> <td>高橋</td> <td colspan="3">予習: (1)テキスト第6章(P183~193)を再度読んでおくこと。 (2) 厚生労働省における政策について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4. 保健医療福祉政策と最近の動向 4) 医療政策・介護政策とその経緯・医療制度改革の経緯 5) 健康政策 6) 看護政策と診療報酬 ① 看護政策とは ② 看護における診療報酬の評価: 看護配置・看護サービスの評価 ③ 診療報酬による政策誘導</td> <td>高橋</td> <td colspan="3">予習: (1) 医療政策・介護政策について調べておくこと (2) 診療報酬について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>4. 保健医療福祉政策と最近の動向 7) 看護職員の量の確保と質の向上 ① 看護職員の需給の見通し ② 看護職員の復職支援の強化 ③ 特定行為に係る看護師の研修制度の導入 ④ 看護基礎教育に関する動向 レポート課題提示</td> <td>高橋</td> <td colspan="3">予習: (1)テキスト看護関連資料(P204~208)を読んで整理しておくこと。 (2) 全国看護職員数について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5. 看護と専門機関・職能団体 1) 世界保健機関(WHO) 2) 国際看護師協会(ICN)/国際助産師連盟(ICM) 3) 日本看護協会 6. 今後の看護の展望 : グループワーク</td> <td>高橋</td> <td colspan="3">予習: (1)テキスト看護関連資料(P208~210)を読んで整理しておくこと。 (2) 今後の看護の展望について自己の考えをまとめて、次回のグループワークに備えておくこと。 (90分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>6. 今後の看護の展望 : グループワーク 7. 発表 8. まとめ</td> <td>高橋</td> <td colspan="3">予習: 前回のグループワークを通して自己の考えを整理しておくこと。(60分) 復習: グループワーク、まとめを振り返り、復習しておくこと。 (90分)</td> </tr> </tbody> </table>						授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			1	1. コースガイダンス 2. 変動する社会のニーズと看護の役割 1) 医療・看護を取り巻く環境の変化 : 諸外国との比較から 2) 医療・看護への期待と役割	高橋	予習: (1)テキスト第1章(P2~14看護管理で学習している箇所)を読んで再学習しておくこと。 (2) 社会の変化が医療に与える影響について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)			2	3. 看護管理に関連する法律 1) 日本国憲法 2) 医療法 ① 医療法とは ② 医療法の目的 ③ 医療の基本理念	高橋	予習: (1)テキスト第6章(P181~193)を読んで整理しておくこと。 (2) 日本国憲法・医療法について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)			3	3. 看護管理に関連する法律 3) 保健師助産師看護師法 4) 看護に関連(関与)する法律 ① 医師法 ② 薬剤師法 5) 看護師等の人材確保の促進に関する法律	高橋	予習: (1)テキスト第6章(P166~P180)を読んで整理しておくこと。 (2) 保健師助産師看護師法・医師法・薬剤師法について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)			4	4. 保健医療福祉政策と最近の動向 1) 社会保障制度改革の背景 2) 政策・制度と看護サービス ① 政策とは ② 政策形成と過程 ③ 我が国における医療制度のしくみ 3) 社会保障・税一体改革	高橋	予習: (1)テキスト第6章(P183~193)を再度読んでおくこと。 (2) 厚生労働省における政策について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)			5	4. 保健医療福祉政策と最近の動向 4) 医療政策・介護政策とその経緯・医療制度改革の経緯 5) 健康政策 6) 看護政策と診療報酬 ① 看護政策とは ② 看護における診療報酬の評価: 看護配置・看護サービスの評価 ③ 診療報酬による政策誘導	高橋	予習: (1) 医療政策・介護政策について調べておくこと (2) 診療報酬について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)			6	4. 保健医療福祉政策と最近の動向 7) 看護職員の量の確保と質の向上 ① 看護職員の需給の見通し ② 看護職員の復職支援の強化 ③ 特定行為に係る看護師の研修制度の導入 ④ 看護基礎教育に関する動向 レポート課題提示	高橋	予習: (1)テキスト看護関連資料(P204~208)を読んで整理しておくこと。 (2) 全国看護職員数について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)			7	5. 看護と専門機関・職能団体 1) 世界保健機関(WHO) 2) 国際看護師協会(ICN)/国際助産師連盟(ICM) 3) 日本看護協会 6. 今後の看護の展望 : グループワーク	高橋	予習: (1)テキスト看護関連資料(P208~210)を読んで整理しておくこと。 (2) 今後の看護の展望について自己の考えをまとめて、次回のグループワークに備えておくこと。 (90分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)			8	6. 今後の看護の展望 : グループワーク 7. 発表 8. まとめ	高橋	予習: 前回のグループワークを通して自己の考えを整理しておくこと。(60分) 復習: グループワーク、まとめを振り返り、復習しておくこと。 (90分)		
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)																																																								
1	1. コースガイダンス 2. 変動する社会のニーズと看護の役割 1) 医療・看護を取り巻く環境の変化 : 諸外国との比較から 2) 医療・看護への期待と役割	高橋	予習: (1)テキスト第1章(P2~14看護管理で学習している箇所)を読んで再学習しておくこと。 (2) 社会の変化が医療に与える影響について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)																																																								
2	3. 看護管理に関連する法律 1) 日本国憲法 2) 医療法 ① 医療法とは ② 医療法の目的 ③ 医療の基本理念	高橋	予習: (1)テキスト第6章(P181~193)を読んで整理しておくこと。 (2) 日本国憲法・医療法について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)																																																								
3	3. 看護管理に関連する法律 3) 保健師助産師看護師法 4) 看護に関連(関与)する法律 ① 医師法 ② 薬剤師法 5) 看護師等の人材確保の促進に関する法律	高橋	予習: (1)テキスト第6章(P166~P180)を読んで整理しておくこと。 (2) 保健師助産師看護師法・医師法・薬剤師法について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)																																																								
4	4. 保健医療福祉政策と最近の動向 1) 社会保障制度改革の背景 2) 政策・制度と看護サービス ① 政策とは ② 政策形成と過程 ③ 我が国における医療制度のしくみ 3) 社会保障・税一体改革	高橋	予習: (1)テキスト第6章(P183~193)を再度読んでおくこと。 (2) 厚生労働省における政策について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)																																																								
5	4. 保健医療福祉政策と最近の動向 4) 医療政策・介護政策とその経緯・医療制度改革の経緯 5) 健康政策 6) 看護政策と診療報酬 ① 看護政策とは ② 看護における診療報酬の評価: 看護配置・看護サービスの評価 ③ 診療報酬による政策誘導	高橋	予習: (1) 医療政策・介護政策について調べておくこと (2) 診療報酬について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)																																																								
6	4. 保健医療福祉政策と最近の動向 7) 看護職員の量の確保と質の向上 ① 看護職員の需給の見通し ② 看護職員の復職支援の強化 ③ 特定行為に係る看護師の研修制度の導入 ④ 看護基礎教育に関する動向 レポート課題提示	高橋	予習: (1)テキスト看護関連資料(P204~208)を読んで整理しておくこと。 (2) 全国看護職員数について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)																																																								
7	5. 看護と専門機関・職能団体 1) 世界保健機関(WHO) 2) 国際看護師協会(ICN)/国際助産師連盟(ICM) 3) 日本看護協会 6. 今後の看護の展望 : グループワーク	高橋	予習: (1)テキスト看護関連資料(P208~210)を読んで整理しておくこと。 (2) 今後の看護の展望について自己の考えをまとめて、次回のグループワークに備えておくこと。 (90分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)																																																								
8	6. 今後の看護の展望 : グループワーク 7. 発表 8. まとめ	高橋	予習: 前回のグループワークを通して自己の考えを整理しておくこと。(60分) 復習: グループワーク、まとめを振り返り、復習しておくこと。 (90分)																																																								



【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
・課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義で行う。		
【成績の評価方法】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク(10%)、レポート(30%)、筆記試験(60%) 合計:100%</li> <li>・グループワーク評価基準:積極的に議論に参加している姿勢がみられる・相手の意見を否定せず聴く姿勢で臨んでいる・自分の意見、考えを相手にわかってもらえるように発言している・建設的な意見を述べている</li> <li>・目標達成に向けて努力している・発表時のプレゼンテーションはわかりやすい工夫がみられるなど、自己評価・他者評価を含めて評価する。</li> <li>・レポート評価基準:適切な課題が設定されている・課題に沿った内容である・設定した問題の背景を説明している・既存の学説を踏まえたうえで自分の考えを述べている</li> <li>・レポート形式で記載している・文章表現が適切である等を評価する。</li> <li>・提出方法・提出〆切については授業時に提示する。期日を厳守すること。提出遅延時は減点対象とする。</li> </ul>		
【ルーブリック評価の活用( 無 )】		
【履修申請上の条件】		
・予習・復習を確実にに行い、授業を受けること。		
【教科書】		
・上泉和子他編集:系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践①, 医学書院2021. 第10版		
【参考書】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護六法, 新日本法規, 最新版</li> <li>・手島恵他編集:看護管理学 自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル, 南江堂, 2015.</li> <li>・吉田千文他編集:ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践①看護管理, メディカ出版, 2020. 第4版</li> <li>・矢野正子編集:新体系 看護学全書&lt;別巻&gt;看護管理 看護研究 看護制度, メヂカルフレンド社.</li> </ul>		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
看護師及び看護管理者としての約40年の臨床経験をもとに、実践例を示しながら看護行政の基礎、看護の今後の展望について教授する。		
【オフィスアワー】		
月曜日～金曜日 9時～17時 メールでの相談対応 出張中など当日対応できない場合は翌日対応する。その旨を説明しておく。		
【教員連絡先】		
教員勤務先のメールにて連絡。 E-mail:t.kei@marianna-u.ac.jp		
【備考】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回でわからない言葉については予め調べて授業にのぞむこと。</li> <li>・授業は、講義とグループワークを組み込みながら進めていく。グループ活動を通して、自己の考えを表現すること、他者の意見を聴くこと、主体的に行動することなど、チーム活動をする上での基本的な能力を学ぶ機会になることを期待している。</li> <li>・看護専門職としての自覚と備えるべき姿勢、能力についても考える機会となることを期待している。</li> </ul>		

授業科目名	看護論	担当教員名	上谷いつ子 山本君子 専任教員					
コード	19NAD408	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	4年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
先達者たちがこれまでに築き上げてきた多くの看護理論の中から、看護現場で活用されている理論(ニード論、セルフケア理論、適応理論など)をいくつか取りあげ、その理論の源泉や看護現象のとらえ方、人間観などの学びを深める。また、これまでの実習体験を経験として自己の中に価値づけていくために、理論と照らし合わせながら看護に対する考えを自分の言葉で表現し、自己の価値観を構築していく。各領域の看護学については、基礎看護学領域をはじめ、それぞれの専門看護学領域における既習の知識についてあらためて学習し、専門職である看護師としての資格を得るために必要な知識・技術・態度について確認する。さらに、他大学(聖マリアンナ医科大学・昭和薬科大学)と合同の多職種連携セミナーの受講をとおして、医療における多職種連携・協働およびチーム医療の意義について学び、多職種連携における各専門職の役割理解、チームワークおよび情報共有の重要性等について理解を深めるとともに、連携協働における看護職の役割について考察する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 自身の実習体験を看護理論と関連付けて考察できる。						○	○	
2 看護の理論を実践に応用することの意味について説明できる。						○	○	
3 各領域の看護の展開に必要な知識・技術・態度について述べるができる。						○	○	
4 医療における多職種連携協働およびチーム医療の意義について説明できる。							○	
5 多職種連携協働における看護職の役割について考察できる。							○	
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	ガイダンス 授業構成・回数、終了試験等について 看護理論の理解と活用 1-①② 1. 看護理論の定義と発達背景 2. 看護理論の実践への活用 ～理論と実践の統合とは～	上谷	予習(60分): ①事前に配布する資料を熟読し、整理しておく。 ②実習体験の中から一事例を選び、整理しておく。 復習(60分): ①授業内容を振り返り、整理する。 ②看護理論(大理論・中範囲理論)の確認テスト、認知度・関心度調査 ③ワークシートに自身の体験を整理する。					
2	代表的な看護理論と活用 ワーク 2-①② 「My Theory ～可視化しよう! 私の看護」 ワークシートを用いて自身の実習体験を整理し、看護の経験知を表現する。 個人ワーク⇒シェア(少人数)⇒個人ワーク	上谷	予習(60分):自分の実習体験と理論を関連付けて整理する。 復習(120分): ①グループワークでの気づきを整理する。 ②所定のワークシートに実習体験を整理し、レポートして提出する。 ③看護実践における看護理論の活用について、自己の考えを整理しレポートする。 なお、提出様式、ペ切については、授業時提示する。Google Classroom					
3	多職種連携教育 1. ガイダンス 【詳細は実施要項参照】 1) 多職種連携セミナー実施要項の説明 2) シナリオの説明と事前学習について 2. 多職種連携セミナー: 聖マリアンナ医科大学、昭和薬科大学、東京純心大学の 3大学合同セミナー開催(9/10) 1) 方法: 3職種混合のグループ編成、グループディスカッション・発表準備・発表 2) シナリオをもとに、課題を抽出し、互いに意見を出し合い議論する。 3) 合意形成のプロセスを丁寧なふみながら、チームで課題解決に取り組む。	山本 上谷 専任教員	予習(90分): ・実施要項を熟読し、セミナー当日のディスカッションを効果的に行うための準備を行う。 ①シナリオをもとに、疾患、病態生理、検査、治療(特に薬剤)、看護について整理する。 ②シナリオを熟読し課題及び課題解決について自分の考えを整理しておく。 復習(60分) ・リフレクションを行う。 ①セミナー終了時のアンケート( <b>Google Form</b> )を記入する ②ワーク全体を振り返り、気づき・学びをレポートする。 テーマ「多職種連携・協働における看護職の役割について自己の考えを述べなさい」 書式A4用紙、MS明朝体、フォント10.5pt、文字数1000字以内					
4	看護の理論と実践① 看護の基礎における実践理論 基礎看護学領域における看護の実践理論	本田 天野	予習(90分): 専門基礎・基礎看護学領域の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(90分): 授業内容を整理する。					
5	看護の理論と実践② 成人看護学領域における看護の実践理論	小濱 田中	予習(90分): 成人看護学領域の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(90分): 授業内容を整理する。					
6	看護の理論と実践③ 母性看護学領域における看護の実践理論 小児看護学領域における看護の実践理論	間中 荻原	予習(90分): 母性看護学・小児看護学領域の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(90分): 授業内容を整理する。					
7	看護の理論と実践④ 地域・在宅看護学領域における看護の実践理論 精神保健看護学領域における看護の実践理論	戸塚 福永	予習(90分): 地域在宅看護学・精神保健看護学の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(90分): 授業内容を整理する。					
8	看護の理論と実践⑤ 高齢者看護学領域における看護の実践理論	塚本	予習(90分): 高齢者看護学の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(90分): 授業内容を整理する。					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	・多職種連携セミナー ①聖マリアンナ医科大学、昭和薬科大学、東京純心大学の3大学合同セミナーを開催する。 ②医師、薬剤師、看護師の専門職として連携協働のプロセスを体験する ③シナリオを事前に配布し、課題解決について自身の考えを整理し、セミナーに臨む。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
<b>【課題のフィードバック】</b> 課題のフィードバックは、授業内で行う。 毎回の講義終了後のリフレクションシート(Google Form)の質問には、次回の授業もしくはGoogle Classroomで個別もしくは全体にフィードバックする。		
<b>【成績の評価方法】</b> 筆記試験(90%)、レポート(5%)、グループワーク(5%)による総合評価とする。 目標1・2 ……グループワーク参加状況・レポート評価 目標3 …… 筆記試験 目標4・5 …… グループワーク参加状況・レポート評価		
<b>【筆記試験】</b> ・各領域から出題する。出題範囲・問題数等については授業時に示す。 <b>【レポート評価基準(ルーブリック評価)】</b> ・評価項目:①課題に沿ったタイトルの設定、②内容の一貫性・論理性・わかりやすい表現、③設定した問題の背景の説明、④文献の引用等による考察の深まり、⑤文章の体裁・適切な表現(段落、句読点、主部と述部、文体、誤字・脱字、指定様式等)、などの項目について自己・他者評価を含めて評価する。 ・提出期日の厳守。提出遅延時は減点対象とする。 ・剽窃行為は禁止、評価対象外とする。 <b>【グループ・ワーク評価(ルーブリック評価)】</b> ・評価項目:①建設的議論、②メンバーへの参加促進、③積極的参加・課題達成への貢献度、④協調性・雰囲気づくり、などの項目について自己・他者評価を含めて評価する。		
<b>【ルーブリック評価の活用(有)】</b>		
<b>【履修申請上の条件】</b> 特になし		
<b>【教科書】</b> ・適宜、資料を配布する。		
<b>【参考書】</b> 1. 黒田裕子監修:ケースを通してやさしく学ぶ看護理論, 日総研, 2012. 2. 黒田裕子監修:看護診断のためのよくわかる中範囲理論, 学研, 2014 3. 野川道子編著:看護実践に活かす中範囲理論, メヂカルフレンド社, 2014. 4. F. ナイチンゲール, 湯楨ます他訳:看護覚え書ー看護であること・ないこと, 現代社. 5. ヘンダーソン著, 湯楨ます・小玉香津子訳:看護の基本となるもの, 日本看護協会出版. 6. 陣田泰子:看護現場学の方法と成果ーいのちの学びのマネジメント, 医学書院, 2009. 7. 細田満和子:チーム医療とは何かー医療ケアに生かす社会学からのアプローチ, 日本看護協会出版会, 2012. 8. 篠田道子著:多職種連携を高める チームマネジメントの知識とスキル, 医学書院, 2011. 9. 寺崎文生監修:実践 多職種連携教育, 中外医学社, 2020. 10. エイミー・C・エドモンドソン(著), Amy C. Edmondson(著), 野津 智子(翻訳):チームが機能するとはどういうことかー「学習力」と「実行力」を高める実践アプローチ, 2014. その他、各専門領域のテキスト類		
<b>【オープンな教育リソース】</b> 特になし		
<b>【担当教員の実務経験】</b> 看護師として臨床経験がある教員が、看護理論の知識や実践への活用、および各領域の看護実践の知識、技術について教授する。また、医師、薬剤師、看護師の専門職としてチーム医療、多職種連携協働の経験がある教員が多職種連携セミナーでのファシリテーターとして指導する。		
<b>【オフィスアワー】</b> 火曜日3限・4限、木3限・4限、昼休み Gmailでの問合せ可能		
<b>【教員連絡先】</b> iuetani@g.t-junshin.sc.jo		
<b>【備考】</b> 実践と理論の統合の意味について考え、看護実践に看護理論を活用していくための方法論を身につける機会となることを期待する。また、看護専門職として基礎となる看護学全般の知識の獲得状況を確認する機会としたい。 多職種連携セミナーは、今年度からあらたに始まったプログラムである。医師、薬剤師を目指している学生とともにディスカッションする体験を通して、看護職としての将来像を描く機会となることを期待している。		

授業科目名	看護教育論	担当教員名	上谷いつ子・伊藤菜穂				
コード	19NAD409	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	4年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
わが国における看護教育制度および看護継続教育の変遷と現状、及び法的基盤について理解する。また、諸外国の看護教育制度との比較から、現在の日本における看護教育制度の特徴と課題についてディスカッションを通して理解を深め、社会から求められている看護学教育について考察する。看護学教育や継続教育に応用できる学習理論・学習方法について体験的に理解を深めるとともに、基礎教育課程での学びを踏まえ、自身の看護実践能力を高めていくために必要な自己研鑽力について検討する。さらに、これまで受けてきた講義や演習、実習での体験を振り返り、教育や指導についての自身の考えを再認識し、看護専門職として看護教育学を学ぶ意義、キャリア開発と今後の展望について考察する。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1	看護教育学を学ぶ意義について説明できる						○
2	日本における看護教育制度の特徴と課題について説明できる。						○
3	看護継続教育の現状と課題について説明できる						○
4	学習の基礎理論を踏まえ、自身の学習経験を振り返り教育・指導に対する考えを表現できる						○
5	看護専門職として生涯学習の意義とキャリア開発の展望について考察できる。					○	○
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	コースガイダンス 看護教育学を学ぶ意義 1. 看護教育学とは 2. 生涯学習社会を生きる ～主体的学習者	上谷	予習(60分):①授業内容に関して、参考図書・文献等を参照し整理しておく。②将来どのような場面で教えることになるのか具体的にイメージして整理しておく。 復習(60分):授業内容を振り返り、ノートに整理する。看護専門職として生涯学習が重要な理由、学び続けることの意味について、自分の考えを整理する。 *毎回の講義終了後は、Google Formでリフレクションシートの記入、随時課題配信・課題は授業時持参のこと				
2	看護教育制度 ① 1. 日本の看護教育制度の変遷 2. 看護基礎教育の現状と課題 グループワーク:「諸外国の看護教育制度:日本との比較」	伊藤・上谷	予習(60分):指定された諸外国の看護教育制度について、配布資料や文献、インターネット等で調べ、所定の用紙に整理する。講義時に持参する(グループワーク時に使用) 復習(60分):①授業内容やグループワークを振り返り、内容を整理する。②看護教育上の決められたテーマについて、日本と海外諸国を比較し、自己の考えをまとめる(A4用紙)。				
3	看護教育制度 ② 1. 保助看法と看護教育 2. 准看護制度	伊藤・上谷	予習(60分):参考図書・文献等を参照し、保助看法がどのような法律であるか、准看護師制度について調べまとめる。 復習(60分):准看護師制度について授業で考えたことをもとに、文献等を調べ自分の意見をまとめる。 ②グループワークの内容を整理し、日本における看護教育制度の現状と課題についてレポートする。				
4	看護継続教育 1. 看護専門職への道 ～専門職の要件と法的整備 2. 看護継続教育の定義と範囲 3. 臨床における継続教育の実際 ～新人看護師の成長への支援を中心に	上谷	予習(60分):日本看護協会の公式HP( <a href="https://www.nurse.or.jp/">https://www.nurse.or.jp/</a> )にアクセスし、「生涯学習支援 ⇒看護師のクリニカルラダー、新人看護職研修、継続教育の基準Ver.2、特定行為研修、認定看護師教育等」について調べ整理しておく。 復習(60分):①授業内容を振り返り、新人時代をどのように乗り越え看護師として成長していくかについて自身の考えを整理する。②新人指導のあり方について、自分の考えを整理する。				
5	学習の基礎理論 1. 学習理論の変遷 2. 指導・教育の基本 ～学習の原理の活用 3. 指導設計 ～学習目標の設定と評価の方法	上谷	予習(60分):参考図書や文献等の中から、授業内容について調べ、まとめる。 復習(60分):授業内容を振り返り、学習の原理、学習目標の設定、評価についてまとめる				
6	臨床に生かす指導方法1 1. 学習意欲を高める技法 ～動機づけとコーチングの技法 2. ディスカッションの技法 ～協同学習	上谷	予習(60分):参考図書や文献等を参照し、動機づけ理論、コーチング、ディスカッションの技法等について、整理しておく。 復習(60分):授業内容を振り返り、後輩指導や実習指導などの指導場面で、どのようにかかわっていきたいか、自身の考えを整理する。				
7	臨床に生かす指導方法2 合意形成の体験学習 ～コンセンサスゲーム	上谷	予習(60分):参考図書や文献等を参照し、チーム医療における合意形成(コンセンサス)の重要性について整理しておく。 復習(60分):①コンセンサスゲームの体験学習を振り返り、ディスカッションにおける参加状況や気づき・学びについて整理する(ワークブック)。②アクティブラーニングによる学習の利点や効果について整理する。				
8	看護師の学習とキャリア開発 1. 成人学習と経験学習 ～看護学生・看護師の学習の特徴 2. 看護師のキャリア発達とキャリア開発 ～自分史を描こう まとめ 最終レポート課題について	上谷	予習(60分):①参考図書・文献等を参照し、成人学習、経験学習、キャリア発達、キャリア開発について調べ、まとめる。 復習(60分):①授業内容を振り返り、看護専門職者としてどのようなキャリアを積んでいきたいか、自身の考えを整理する。②目指したい指導者・教育者について自身の考えを整理する。 【最終レポート課題】(180分) 課題:「私の指導観・教育観」 これまでの指導者との出会い(体験)を想起し、看護専門職者として看護の現場においてどのような指導者をめざしたいか、そのために身につけておきたいことはなにか、どのようなことを大切に後輩や学生に関わっていききたいか、など自身の指導観・教育観について考えを述べなさい。 提出方法・期限、評価については授業時に提示する。				

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
課題のフィードバックは、授業内で行う。 毎回の講義終了後のリフレクションシート(Google Form)の質問には、次回の授業もしくはGoogle Crass Roomで個別もしくは全体にフィードバックする。		
【成績の評価方法】		
レポート(70%)、GW参加状況・提出物(30%)で、総合的に評価する。 目標1、2、3:事前課題、授業後のレポートをルーブリック評価(自己・他者評価) 目標4、5:レポート、グループディスカッションをルーブリック評価(自己・他者評価)		
【レポート評価基準(ルーブリック評価)】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価項目:①課題に沿ったタイトルの設定、②内容の一貫性・論理性・わかりやすい表現、③設定した問題の背景の説明、④文献の引用等による考察の深まり、⑤文章の体裁・適切な表現(段落、句読点、主部と述部、文体、誤字・脱字、指定様式等)、などの項目について自己・他者評価を含めて評価する。</li> <li>・提出期日の厳守。提出遅延時は減点対象とする。</li> <li>・剽窃行為は禁止、評価対象外とする。</li> </ul>		
【グループ・ワーク評価(ルーブリック評価)】		
・評価項目:①建設的議論、②メンバーへの参加促進、③積極的参加・課題達成への貢献度、④協調性・雰囲気づくり、などの項目について自己・他者評価を含めて評価する。		
【ルーブリック評価の活用(有)】		
【履修申請上の条件】		
これまで学んだ専門領域看護の知識、領域実習での患者・家族指導の経験などを想起しながら、講義に臨むこと。		
【教科書】		
特に指定しない。講義時に資料を配布する。		
【参考書】		
<p>グレッグ美鈴,池西悦子編集,看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う,改訂第2版,南江堂,2019.</p> <p>杉森みど里ほか:看護教育学第6版,医学書院,2017.</p> <p>中井俊樹ほか:看護のための教育学,医学書院,2017.</p> <p>中井俊樹編著:看護現場で使える教育学の理論と技法,メディカ出版,2017.</p> <p>エドガーH.シャイン著,金井嘉宏訳:キャリア・アンカー,自分のほんとうの価値を発見しよう,白桃書房,2012.</p> <p>パトリシア・ベナー著,井部俊子監訳:ベナーの看護論新訳版,初心者から達人へ,医学書院,2012.</p> <p>勝原裕美子:看護師のキャリア論,ライフサポート社,2012.</p> <p>吉田みつ子:看護技術—ナラティヴが教えてくれたこと,医学書院,2014.</p> <p>青木将幸:リラックスと集中を一瞬でつくるアイスブレイクベスト50,ほんの森出版,2015.</p> <p>三浦真琴:グループワークその達人への道,医学書院,2018.</p>		
【オープンな教育リソース】		
北海道大学オープンコースウェア <a href="https://ocw.hokudai.ac.jp/?s=field06">https://ocw.hokudai.ac.jp/?s=field06</a> にアクセスし、スタディスキル自習用補助教材の「プレゼンテーションの“技法”基礎編(6分)」「レポート作成の基本(7分)」の視聴		
【担当教員の実務経験】		
看護師としての臨床経験のある教員が担当する。臨床現場の患者指導、看護師の現任教育の具体例を示しながら、実践的な視点で教授する。		
【オフィスアワー】		
火曜日3限・4限、木3限・4限、昼休み Gmailによる問合せ可能		
【教員連絡先】		
iuetani@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
授業では、これまで受けてきた看護基礎教育を想起し、ブレインストーミングを多く取り入れるので、積極的に参加することを期待する。また、看護の専門職を目指すものとして、卒業を前にあらためて看護と教育の意味を問い直すとともに、看護実践能力の向上のための経験学習からの学び方を理解し、卒業後に役立てていけることを期待している。		

授業科目名	看護技術フォローアップ演習		担当教員名	天野 雅美・間中 伴子・荻原 康子・小濱 優子 塚本 都子・戸塚 智美・山本 君子			
コード	19NAD410		区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	4年次/後期		単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
既習科目である基礎看護学、母性看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、在宅看護学、統合看護学の7つの専門領域で学修した知識・技術・態度を統合し、看護の対象に合わせて、科学的根拠に基づいた適切な看護援助を計画、実践できる能力の確認を通して、卒業後の臨床への適応をスムーズにするための技術演習である。具体的には、グループ毎に演習の到達目標を理解し、対象事例の背景を明確にし、指定された時間内で看護援助の課題に取り組む。事例に合わせて、患者や看護者、医師や家族役を担当し、協力して実施する。課題の実施後は、グループあるいはクラス全体で振り返り、実施できた点やより良い方法を挙げ、繰り返し実施する。特に、うまくいかなかった点は、知識なのか、技術なのか、態度なのかを明確にし、次回の取り組みへ活用できるよう具体的に修正する。7領域の看護技術演習を通して、看護実践力の達成度の振り返りである自己評価を行うと共に他者評価を受けて、抽出された課題を卒業後の学びの指標とする。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
				ディプロマ・ポリシー			
				①	②	③	④
1 看護援助を実施するにあたり、必要な学修課題を明確にすることができる。					○		
2 事例に基づいて対象の状況をアセスメントし、科学的根拠に基づいた必要な援助計画を立てることができる。					○	○	○
3 2について、安全安楽に実施し、援助ニーズを満たすことに繋がったか評価することができる。					○	○	○
4 実施した援助を適切に評価し、自己の課題を明確にすることができる。					○		
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	【授業ガイダンス】:天野 1)演習の進め方、2)課題の提示、3)レポートの提出	天野	予習(60分):看護技術の原理原則と一般的な方法について復習する(1時間) 復習(60分):看護技術の到達度を振り返ってくる				
2	基礎看護学技術演習1 (担当:基礎看護学教員)天野他	天野他	予習(60分):提示された課題について取り組む 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する				
3	基礎看護学技術演習2 (担当:基礎看護学教員)天野他	天野他	予習(60分):提示された課題について取り組む 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する				
4	母性看護学技術演習1 (担当:母性看護学教員)間中他	間中他	予習(60分):提示された課題について取り組む 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する				
5	母性看護学技術演習2 (担当:母性看護学教員)間中他	間中他	予習(60分):提示された課題について取り組む 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する				
6	小児看護学技術演習1 (担当:小児看護学教員)荻原他	荻原他	予習(60分):提示された課題について取り組む 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する				
7	小児看護学技術演習2 (担当:小児看護学教員)荻原他	荻原他	予習(60分):提示された課題について取り組む 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する				
8	成人看護学技術演習1 (担当:成人看護学教員)小濱他	小濱他	予習(60分):提示された課題について取り組む 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する				
9	成人看護学技術演習1 (担当:成人看護学教員)小濱他	小濱他	予習(60分):提示された課題について取り組む 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する				
10	老年看護学技術演習1 (担当:老年看護学教員)塚本他	塚本他	予習(60分):提示された課題について取り組む 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する				
11	老年看護学技術演習2 (担当:老年看護学教員)塚本他	塚本他	予習(60分):提示された課題について取り組む 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する				
12	在宅看護学技術演習1 (担当:在宅看護学教員)戸塚智他	戸塚智他	予習(60分):提示された課題について取り組む 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する				
13	在宅看護学技術演習2 (担当:在宅看護学教員)戸塚智他	戸塚智他	予習(60分):提示された課題について取り組む 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する				
14	統合看護学技術演習2 (担当:統合看護学教員)山本他	山本他	予習(60分):提示された課題について取り組む 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する				
15	統合看護学技術演習2 【授業評価アンケート】	山本他	予習(60分):提示された課題について取り組む 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する				
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)			○	・必要時、動画の活用をする。 ・授業担当教員により、Google classroomを用いて授業資料の配信やformsを用いたリフレクションシートの配信などをする。			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート							
④:グループワーク			○				
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク							

<p><b>【課題のフィードバック】</b></p> <p>・課題レポートに対するフィードバックは、演習の際に行う。</p>
<p><b>【成績の評価方法】</b></p> <p>1. 領域ごとの評価:84%(12点×7領域=84点)  2. 看護技術演習に関するレポート:16%(16点)  合計:100%</p>
<p><b>【ループリク評価の活用(有)】</b></p>
<p><b>【履修申請上の条件】</b></p> <p>・統合実習の単位を取得見込みが望ましい</p>
<p><b>【教科書】</b></p> <p>・既習科目の全てのテキスト・授業等で配布された資料を活用すること</p>
<p><b>【参考書】</b></p> <p>・各領域より、適宜紹介する。</p>
<p><b>【オープンな教育リソース】</b></p> <p>・必要時、各専門領域の授業担当者より提示する。</p>
<p><b>【担当教員の実務経験】</b></p> <p>・看護師あるいは保健師もしくは助産師の資格を有し、臨床経験や看護教育経験がある。</p>
<p><b>【オフィスアワー】</b></p> <p>・天野 B棟3428-1研究室、平日12:10-13:00。各担当教員のオフィスアワーは、別途説明する。</p>
<p><b>【教員連絡先】</b></p> <p>・天野:mamano@g.t-junshin.ac.jp、各担当教員の連絡方法は、随時、説明する。</p>
<p><b>【備考】</b></p> <p>・科学的な根拠に基づく援助を確実に実施することを期待する。基礎看護技術の修練を自ら行い、自己評価・他者評価を学生や教員から適宜受ける、など自分で積極的に学修をすすめること。自ら求めることで修得する内容も深まる。</p>

授業科目名	在宅看護学Ⅱ	担当教員名	南幸子・戸塚智美			
コード	19NPR412	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	3年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/60時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】	生活の場において医療を必要とする小児から高齢者とその家族への具体的な看護方法について学ぶ。在宅看護に必要な知識・技術について講義・演習を通して学修する。在宅看護における紙上事例を展開し、在宅療養者とその家族に対する看護につなげる思考過程と必要な援助方法について学修する。学修内容は、①在宅における日常生活援助では健康障害が生活に及ぼす影響や療養者とその家族に対する看護について学ぶ。②在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、胃瘻からの経管栄養法、在宅中心静脈栄養法、疼痛緩和に関する医療技術とそれに伴う看護について学ぶ。③在宅看護過程の展開では、ICFの概念に則って療養者とその家族に必要な看護計画を立案する。					
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー					
	①	②	③	④	⑤	
1 健康障害が生活に及ぼす影響や、在宅療養者とその家族に対する日常生活援助について述べるができる。				○		
2 在宅で医療管理を必要とする人に対して、医療機器の管理とそれに伴う看護について述べるができる。		○	○	○		
3 在宅看護過程の特徴を理解し、事例の発達段階・健康障害・生活に応じた看護計画を立案し記述することができる。		○	○	○		
4 在宅療養者と家族が住みなれた地域で暮らす意味とその人らしい生活を支える看護について述べるができる。		○	○	○		
5 訪問看護師として、また社会人としてマナーを意識しながら行動することができる。		○	○	○		
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1 ・ 2	在宅看護学Ⅱオリエンテーション 予習でARの動画を視聴し授業に臨むよう学生に説明を行う。 脳梗塞再発防止のための在宅看護	南幸子 戸塚智美	予習(30分):シラバスを一読し、授業のイメージを持って参加する。+U29:AL42習(30分):脳梗塞再発防止の看護について調べ、疑問点を抽出する。在宅看護論②在宅療養における看護過程の展開技術 p.17~23を精読する。 復習(30分):脳梗塞再発防止の看護計画についてまとめる。			
3 ・ 4	訪問看護師としてのマナーの実際 【演習】訪問マナー	戸塚智美 南幸子	予習(30分):訪問マナーの資料を熟読し、予行練習をすること。在宅看護論②家庭訪問・初回訪問 p.14~17を精読する 復習(30分):訪問マナーをまとめておくこと。			
5 ・ 6	在宅における援助技術:移動のアセスメントと援助方法 在宅における環境・移動・安全:環境整備/転倒予防 【演習】移動の援助の実際 (1)移動補助具の利用、生活に密着した移動	南幸子 戸塚智美 (・)	予習(30分):テキストの在宅看護を展開する上で検討すべきポイントと移動の援助の該当箇所PP38~P41を読み、事前課題に取り組む。テキストの「メディカAR」の「住宅環境(動画)」「移動に関わる機能のアセスメント(動画)」を視聴する。基礎看護技術・高齢者看護学演習で学習した「移動」を復習する。 演習後確認テスト① 復習(30分):移動に関する福祉用具の振り返り			
7 ・ 8	在宅における援助技術:清潔のアセスメントと援助方法の実際 在宅における清潔ケア 【演習】清潔の援助の実際 (1)自宅にあるものを活用して自立を促す清潔援助の工夫 (入浴・手浴・足浴・洗髪)	南幸子 戸塚智美 (・)	予習(30分):「清潔と更衣P75~P77を読み、事前課題に取り組む。テキストの「メディカAR」の「部分浴(動画)」「洗髪方法(動画)」を視聴する。基礎看護技術演習で学習した「清潔援助」を復習すること。演習後確認テスト② 復習(30分):「清潔」に関する振り返り			
9 ・ 10	在宅における援助技術:食事の援助 【演習】食事のアセスメントと援助の実際 (1)食事の援助(自助具の活用)	南幸子 戸塚智美 (・)	予習(30分):テキストの「食生活」のP56~P61を読み、事前課題に取り組む。基礎看護技術演習で学習した「食事介助」を復習すること。演習が実施できるように事例から食事の援助方法を考案する。 演習後確認テスト③ 復習(30分):「食事」に関する振り返り			
11 ・ 12	在宅における援助技術:在宅経管栄養法・胃瘻栄養法の管理 【演習】食事のアセスメントと援助の実際 (1)経鼻経管栄養法・胃ろうの管理と看護について	南幸子 戸塚智美 (・)	予習(30分):テキスト「在宅経管栄養法」P102~P105を精読する。テキストの「メディカAR」の「経管栄養(動画)」「胃ろう・注入手順(動画)」を視聴する。演習後確認テスト④ 復習(30分):「胃瘻栄養法」に関する振り返り			
13 ・ 14	在宅における援助技術:排泄の援助 (1)在宅で行う排泄ケアマネジメントと援助 (2)排泄のアセスメントと援助 (3)膀胱留置カテーテル管理と看護について	南幸子 戸塚智美 (・)	予習(30分):在宅看護論①地域療養を支えるケア p226・227、在宅看護論②在宅療養を支える技術 p65~71、p127~134 を精読する。 演習後:振り返りテスト⑤ 復習(30分):「排泄の援助」に関する振り返り			
15	慢性呼吸不全の人のケア 在宅酸素療法を受けるCOPDの人とその家族に対する援助	戸塚智美 南幸子	予習(30分):COPDの病態生理を復習すること。 在宅看護論②在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法(NPPV・TPPV) p.119~p.127を精読する。 演習後確認テスト⑥ 復習(30分):「呼吸の援助」に関する振り返り			
16	【演習】呼吸のアセスメントと援助の実際 ① 医療機器(医療機器事業者)在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法 ② 在宅酸素療法中の看護	外部講師 戸塚智美 南幸子 (・)				
17 ・ 18	神経難病の人のケア 神経難病(筋萎縮性側索硬化症)の人とその家族に対する援助 【演習】コミュニケーション方法	戸塚智美 外部講師 南幸子 (・)	予習(30分):テキストの「メディカAR」の「文字盤を使ったコミュニケーション(動画)」「意思伝達装置(動画)」「IT機器の活用(動画)」「ALS療養者からのメッセージ(動画)」を視聴する。 復習(30分):演習後の学びをレポート⑧			
19	在宅における援助技術:薬物療法 *在宅における薬の管理と中心静脈栄養法の管理と看護について *糖尿病の管理	戸塚智美 南幸子 (・)	予習(30分):看護技術演習で学習した「与薬」及び「薬物療法を受ける対象への看護」に関する内容を復習すること。在宅看護論②薬物療法p.94~p.98、輸液管理 p.106~109を精読する。 復習(30分):講義内容のまとめをすること。			



20	在宅における排痰ケア *在宅における排痰ケアの意義と目的 *排痰ケアにおけるアセスメント 【演習】吸引	戸塚智美 南幸子 (・)	予習(30分):在宅看護論②在宅療養を支える技術 p110~115 を精読する。 演習後:確認テスト⑦ 復習(30分):「呼吸の援助」に関する振り返り	
21 ・ 22	褥瘡とポジショニング 在宅における褥瘡ケアの特徴を理解し、対象者を支援できる。 ・在宅における褥瘡の発生機序を理解し、アセスメントできる。 ・在宅における褥瘡の基本的技術を理解し、指導できる。 【演習】褥瘡予防とポジショニング	南幸子 戸塚智美 (・)	予習(30分):在宅看護論①地域療養を支えるケア p232・233、在宅看護論②在宅療養を支える技術 p144~148 を精読する。 演習後:確認テスト⑨ 復習(30分):「褥瘡ケアの援助」に関する振り返り	
23	在宅における援助技術:ターミナル期の援助 ターミナル期の人とその家族に対する援助の実際	外部講師 南幸子 戸塚智美	予習(30分):第6章在宅看護技術⑨外来がん治療の支援、⑩疼痛緩和、第7章終末期療養者に対する在宅看護の事例展開を精読すること。 演習後演習後の学び⑪ 復習(30分):在宅ターミナル期の援助について振り返り	
24	在宅生活を継続するために「地域包括支援センター」と「多職種連携」についての援助の実際 ・地域包括支援センターの働きと役割について振り返る。 ・入院から退院、在宅生活までの多職種連携やプロセスについて理解し実習に活かすことが出来る。 ・住み慣れた地域で在宅生活を継続するための支援について、看護師の視点で考え支援や提案について考えることが出来る。	南幸子 戸塚智美	予習(30分):在宅看護論①地域療養を考える第3章P70~P110をお精読すること。 復習(30分):テキストおよび配布プリントを基に定期試験の準備をすること。	
25	在宅看護過程の展開 【演習】在宅看護過程演習 (1)オリエンテーション (2)事例説明:①脊髄損傷	戸塚智美 南幸子	予習(30分):事例を精読すること。 在宅看護論②事例で学ぶ在宅看護の技術 7 事故により中途障害者となった成人男性 p.194~197を精読する。 復習(30分):テキストおよび配布プリントを基に定期試験の準備をすること。	
26 27 28 29 30	【グループワーク】 (1)情報整理 (2)アセスメント (3)看護上の課題と訪問看護の必要性 (4)ケアチームにおける協働 (5)長期・短期目標 (6)訪問看護計画・行動計画立案 (7)発表 看護の評価と訪問看護計画の修正	戸塚智美 南幸子	予習(30分):事例を精読すること。 復習(30分):テキストおよび配布プリントを基に定期試験の準備をすること。	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)				記載事項なし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)				
③:ディスカッション・ディベート			○	
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション			○	
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】 演習後の課題レポートへのフィードバックは、次の講義の中で実施する。				
【成績の評価方法】 定期試験50%、課題レポート・演習後レポート30%、在宅看護過程の展開20%として評価する。ルーブリック評価基準無し				
【履修申請上の条件】 「在宅看護学Ⅰ」を履修していることが望ましい				
【教科書】 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア、在宅看護論②在宅療養を支える技術 メディカ出版2022年 上田敏:ICF(国際生活機能分類)の理解と活用一人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか(第2版)入門編、きょうされん2021年				
【参考書】 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 第5版 医学書院 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ 実践できる在宅看護技術ガイド GaKKen 在宅看護実習ガイド 照林社 根拠がわかる在宅看護技術 第2版 メディカルフレンド社				
【オープンな教育リソース】 特になし				
【担当教員の実務経験】 南幸子 : 臨床看護、訪問看護、特定居宅支援事業所、地域包括支援センターの勤務経験から地域・在宅で生活するために必要な看護支援を教育内容に取り入れた授業を展開する。 戸塚智美: 臨床看護・訪問看護の経験をもとに、疾患や障害が対象の日常生活に及ぼす影響と療養者とその家族に対する看護を総合的に指導する。				
【オフィスアワー】 南幸子 :月~金12:10~13:00 戸塚智美:月~金12:10~13:00				
【教員連絡先】 南幸子 :sminami@g.t-junshin.ac.jp 戸塚智美:stotsuka@g.t-junshin.jp				
【備考】 特になし				

授業科目名	統合実習	担当教員名	山本 君子・全領域専任教員				
コード	19NAD414	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	4年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/90時間/実習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
これまでの学習や経験を踏まえ、看護場面における自らの課題を達成するために適切な実習施設を選択し実習する。知識、経験、技術などを統合させながら主体的に取り組み、より質の高い看護を提供するための方法を体験的に学修する。また、医療・福祉施設等において、安全で良質な看護サービスを効率的・効果的に提供するための看護管理の実際、保健・医療・福祉チームの一員としての看護職の役割等を体験的に学修する。さらに、これまでの気づきや学びを通して構築してきた看護観を表現し、看護専門職としての自己のあり方を考察する。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1 探究したい自己の課題を明らかにし、課題解決に向けて主体的に計画的に取り組むことができる。						○	
2 看護の対象の状態や変化に応じ、看護の優先順位や時間配分、継続性等を考慮して計画し、実践できる。						○	
3 安全・安楽・倫理的視点に根ざした科学的根拠のある看護を継続的に実践できる。				○		○	
4 自己の看護実践および自己の課題解決について適正に評価できる。				○		○	
5 既習の知識・技術を用いて、主体的に学修し、かつ看護学生として責任ある言動をとれる。				○		○	
6 看護専門職としての自己のあり方を考察し、看護に対する自己の考えを表現できる。				○		○	○
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
	統合実習 I は、学生が探究したい課題に沿って1つの看護学領域を選んで履修する。詳細は、「統合実習 I II 実習要項」を参照  1. 実習期間 :2023年7月3日～7月14日 2週間90時間 2. 実習場所 :選択した領域により実習施設は異なる。 3. 実習方法 :選択した領域により実習方法は異なる。共通事項について以下に記載 1) 担当教員の指導を受けながら自己課題に応じて実習計画を修正する。 2) 実習計画に基づき課題解決に取り組む。 3) 複数の対象者を受け持ち、看護援助を行う。 4) 看護チームの一員として継続看護を展開するため、早朝や夜間など可能な範囲で実習時間を変更する。 5) 助言を受けながら、チームの一員として看護の実践、評価を体験する。 6) 実習全体を振り返り、自己の課題解決について評価する。 7) 看護実践を振り返り、学びをまとめ共有する。 8) 学内実習の日程・方法については領域により異なる。 4. リフレクション 1) 自己評価に基づいた評価面接 2) 担当教員の指導を受けながら、記録の整理を行い、実習ファイルを指定された日時までに提出する。	山本 伊藤 各領域教員	予習・復習 【実習前】(60分) 1. 実習要項を熟読する。 2. 事前課題に取り組む。 1) これまでの体験した看護を所定の用紙を用いて整理する。 2) 自己の学修課題に応じ事前に文献等を検索し、課題達成のための取り組みについて検討し、担当教員の指導を受けながら事前レポートとして整理する。 3) 事前課題を期限内に提出する。  【実習 毎回各予習30分 各復習30分】 日々の実習の事前課題・事後課題・看護過程展開の整理を行う(2時間/日) 1. 事前課題で立案した実習目標、実習計画に沿って行動計画を立て実習に臨む。 2. 安全で確実な看護援助を行うために、日々の事前学習・準備を行う 3. チームカンファレンス等で受持患者の看護について発言できるように準備しておく。 4. 主体的なカンファレンス運営と学びの共有ができるように準備する。 5. 日勤以外の勤務帯(早出・遅出、夜勤帯等)の業務内容を事前に把握し、実習計画を立案しておく。 6. 日々の実習を振り返り、課題達成状況を評価し、必要時修正する。 7. 日々の実習を振り返り、文献等を活用して実習に臨むよう、適宜準備する。 8. 2週間の実習を振り返り、自己の課題達成状況を評価し、統合実習 II に臨む。 9. 統合実習 I での学びを定められた様式に沿ってレポートする。課題のテーマは実習要項を確認すること。 提出べ切は担当教員に確認する。				
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)			○	領域によりアクティブラーニングの手法は異なる。詳細は各領域の実習要項を参照。DVD活用			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート			○				
④:グループワーク			○				
⑤:プレゼンテーション			○				
⑥:実習・フィールドワーク			○				
【課題のフィードバック】							
実習中の課題へのフィードバックは、実習の進行状況を確認しながら、当日もしくは翌日までに進行。個別指導やカンファレンス等でフィードバックする。							
【成績の評価方法】							
1. 評価の条件:2週間の実習を通し、5分の4以上の出席をもって評価する。実習記録、レポート等の評価対象の記録類は、提出期限を厳守すること。 2. 学生は、第2週目に実習評価表をもとに実習目標達成状況を振り返り評価する。 3. 総合評価: 1) 実習目標の到達度を実習評価表に沿って評価する。実習内容・態度、カンファレンス参加度、実習記録(80点)、実習終了後のレポート(20点)により総合的に評価する。 2) 評価面接: ・担当教員と評価面接を行う。 ・学生は、事前に実習評価表の評価基準に沿って自己評価し、記録類とともに提出する。 3) レポート課題:「自己の課題の達成状況を評価し、文献的考察を踏まえ自己の看護に対する考えを述べなさい。」 4) 評価基準 【実習評価の評価基準】 基準:目標の達成状況として5段階で評価を行う。S:90%以上 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満 【レポート評価基準】:①課題に沿ったタイトルが設定されている、②内容に一貫性があり、論理的にわかりやすく表現されている、③設定した問題の背景を説明している(体験に基づいた内容である)、④考察が文献の引用等により深められている、⑤文章の体裁・表現は適切である(段落、句読点、主部と述部、文体、誤字・脱字、指定様式等)、の5項目について評価する。 なお、剽窃行為は禁止されているので注意する。							
【履修申請上の条件】							
この科目の先修条件は、すべての看護専門領域実習を履修し、かつ、単位を取得していることである。 看護専門領域実習の履修においては、必ず履修できるように、それぞれの実習の先修条件を確認しておく。							
【教科書】							
特に指定はない。							

<b>【参考書】</b> これまで履修した科目で、講義・演習・実習等で使用したテキストや資料、文献等
<b>【オープンな教育リソース】</b> 特になし
<b>【担当教員の実務経験】</b> 看護師として臨床経験のある教員が、疾患や生涯が対象の日常生活に及ぼす影響を身体的・精神的・社会的な側面から看護実践について総合的に指導する。
<b>【オフィスアワー】</b> 火曜日・木曜日 12:10～13:00
<b>【教員連絡先】</b> k_yamamoto@g.t-junshin.ac.jp
<b>【備考】</b> ・4年間の集大成の実習である。能動的な学修に努め、自律的に臨床指導者および教員等に報告・連絡・相談を行う。また、自己の看護実践の振り返りを適宜行い、安全で確実な看護実践ができるように、主体的に学修を進めること、文献検索を適宜行い、自身の看護実践の根拠性を高める努力を行うことを期待する。 ・看護学を学ぶものとして、実習全体を通して自己を真摯に振り返り、自己の課題を見出していくことを期待する。さらに、生涯学習者である看護専門職者になっていくものとして、自己の看護観の構築に積極的に取り組み、看護を探究する姿勢を身につけていくことを期待している。

授業科目名	看護研究方法	担当教員名	渡辺羊子・宗定水奈子				
コード	19NAD415	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	2年次/通年	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
看護研究の目的・意義について理解し、看護研究を行うための研究方法と研究プロセスに関する基礎的な知識を修得する。また、具体的な研究論文に触れつつ、看護現象を解明、説明、予想するための量的・質的研究方法の中から代表的な各種研究方法を学び、特徴を理解し、研究の可能性および看護の創造性について考察する。研究に必要な文献検索の意義や方法を学び、実際に文献検索を行い研究課題に関する文献を系統的に収集し、正しく読みまとめる力を養う。4年生の看護研究発表会を聴講し研究プロセスを学び、看護研究の探求心を深める。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1	看護研究の目的・意義・範疇について説明できる。						○
2	看護研究の分類・デザイン・研究プロセスについて説明できる。						○
3	主な研究方法(量的・質的)の特徴について説明できる。						○
4	研究計画書の構成要素ごとの必要な内容について説明できる。						○
5	研究における倫理原則に基づき倫理的配慮について説明できる。						○
6	文献検索の基本方法を理解し、文献収集ができる。						○
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	科目ガイダンス 看護研究の目的・意義	渡辺・宗定	予習(60分):テキスト目次・全体に目を通した上で、テキストp11～20を読んでおく 復習(60分):講義およびノートの振り返り				
2	研究のプロセス 看護実践における研究課題の明確化、理論的枠組み	渡辺・宗定	予習(60分):テキストp20～38を読んでおく 復習(60分):講義およびノートの振り返り				
3	文献検索および検討 文献検索方法・図書館利用の仕方	渡辺・宗定	予習(60分):テキスト39～49を読んでおく 復習(60分):文献検索トライアル				
4	文献検索および検討 看護研究における倫理的配慮	渡辺・宗定	予習(60分):テキスト62～81を読んでおく、関心のある論文を探しておく 復習(60分):研究における倫理的配慮についてノートにまとめる				
5	質的研究① 質的アプローチの研究デザイン	渡辺	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り				
6	質的研究② 質的アプローチの研究手法	渡辺	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り				
7	質的研究③ 質的データ分析方法	渡辺	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り				
8	質的研究④ 質的研究のまとめ	渡辺	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義で学修したことをノートにまとめる 文献検索トライアル				
9	量的研究① 量的アプローチの研究デザイン	宗定	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り				
10	量的研究② 量的アプローチの研究手法	宗定	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り				
11	量的研究③ 量的データ分析方法	宗定	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り				
12	量的研究④ 量的研究のまとめ	宗定	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義で学修したことをノートにまとめる 文献検索トライアル 【課題】興味関心のある原著論文を5本取り寄せ、提出(提出、期限等詳細は別途知らせる)				
13	研究課題の明確化 論文のクリティーク・発表の仕方	渡辺・宗定	予習(60分):テキストp230～236うを読んでおく 復習(60分):発表会参加し学んだことをノートにまとめておく				
14	研究計画書の形式と作成プロセス①	渡辺・宗定	予習(60分):テキストp206～215 復習(60分):研究課題の明確化をしノートにまとめる				
15	研究計画書の形式と作成プロセス②	渡辺・宗定	予習(60分):今までの振り返り 復習(120分):提出課題の見直し *時間外学修時間は、60時間必要であるため、不足分は休日等を活用して復習すること。 【終了時課題提出】1, 授業のまとめと取り寄せた文献5本以上を綴じたファイル 2, 課題レポート(テーマ、期限等詳細は別途知らせる)				

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	国会図書館へ行き、文献調べる 4年生の看護研究発表会に参加
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
<b>【課題のフィードバック】</b>		
リアクションペーパー、小テスト等は次回の講義でフィードバックする。		
<b>【成績の評価方法】</b>		
課題:課題レポート40% 課題への取り組み・課題への提出物の総合評価 40% ファイル提出:授業で使用したプリント整理・成果をまとめたプリントをファイルし提出 20% 合計:100% <b>【ルーブリック評価の活用(有)】</b>		
<b>【履修申請上の条件】</b>		
特になし		
<b>【教科書】</b>		
ナーシンググラフィカ 基礎看護学④看護研究 MCメディカ出版2023		
<b>【参考書】</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・南裕子 看護における研究 日本看護協会出版会 2017</li> <li>・黒田裕子 看護研究 Step by Step第5版 医学書院 2017</li> <li>・早川和生 JIN SPECIAL 看護研究の進め方論文の書き方 第2版 2014</li> <li>・上野栄一・出口洋二・一ノ山隆司 楽しくなる看護研究 メジカルフレンド社 2012</li> <li>・横山美江編著 よくわかる看護研究の進め方・まとめ方 第3班 医歯薬出版 2017</li> <li>・李節子 看護研究心得帳 医歯薬出版 2022</li> <li>・筒井真優美編著 アクションリサーチ入門 ライフサポート社</li> <li>・石井京子・多尾清子:ナースのための質問紙調査とデータ分析 第2版 医学書院</li> <li>他 適宜紹介</li> </ul>		
<b>【オープンな教育リソース】</b>		
特になし		
<b>【担当教員の実務経験】</b>		
渡辺:研究教育では、大学等での保健師・看護師・福祉系の卒業研究指導あり。修士・博士課程の研究経験を踏まえ、研究の基本を中心に講義を行う。 宗定:総合病院の卒後教育において、初学者向けの看護研究概論の講師を務めた経験や、自身の研究経験から講義を行う。		
<b>【オフィスアワー】</b>		
渡辺羊子:火～金 12:10～13:00 宗定水奈子:月～木 12:10～13:00		
<b>【教員連絡先】</b>		
渡辺羊子:ywatanabe@g.t-junshin.ac.jp 宗定水奈子:mmunesada@g.t-junshin.ac.jp		
<b>【備考】</b>		
科学的実証研究に基づいた看護実践をするために、看護学研究に関する基本的な知識を学ぶ。科学的な文献を読むためには、基本的な統計学的知識が必須であるため、自己学習をしておくことアドバイスが必要な学生は担当教員まで相談のこと。看護研究ゼミナールや看護研究の実践のベースとなる科目であり、自らの興味・関心がもてる部分から学習を進めていくを期待する。		

授業科目名	在宅看護学実習	担当教員名	戸塚 智美 南 幸子			
コード	19NPR413	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	3年次/前期～4年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/90時間/実習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】	この科目では、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、病院の退院調整部門などの実習を通して、在宅における看護の実際を学ぶ。訪問看護ステーション実習では療養者の自宅へ訪問し、訪問看護の実際を通して療養者の生活に即した看護を学ぶ。地域包括支援センターでは介護予防事業、地域支援事業等に参加し、地域包括支援センターの役割について学ぶ。病院の医療連携室の実習では、継続看護、退院調整看護師の役割を学ぶ。さらに、地域包括ケアシステムにおける多職種の協働・連携と看護職の役割の実際について学ぶ。					
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー					
	①	②	③	④	⑤	
1 在宅療養者とその家族の生活状況と訪問看護の実際を通して、訪問看護師の役割が説明できる。		○	○	○		
2 療養者とその家族に対する訪問看護の意義とその人に合わせた看護について説明できる。		○	○			
3 地域包括支援センターで働く各専門職者の機能と役割を理解し、地域で暮らす人々に対する包括的、継続的なサービス体制が説明できる。		○	○	○		
4 病院の地域医療連携室の実習を通して、退院支援・退院調整看護師の役割が説明できる。		○	○	○		
5 地域包括ケアシステムにおける多職種の協働・連携と看護職の役割と課題が説明できる。		○	○	○		
6 療養者とその家族、医療者に対する挨拶や適切な言葉づかい等、看護学生として望ましい態度や行動をとることができる。			○	○		
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	実習第1日目: 訪問看護ステーション実習 実習オリエンテーション(学内) 事前学習の確認テスト	戸塚(智) 南	予習(360分): (1)地域包括ケアシステム (2)介護保険制度の目的、対象、手続き、サービス内容 (3)医療保険制度と介護保険制度による訪問看護の対象、サービス (4)障害者総合支援法の目的、対象、手続き、サービス内容 (5)障害者手帳の種類 (6)訪問時のマナー (7)訪問事例の発達段階・疾患・看護の復習 復習(60分):事前学習の確認テストの復習をする。			
2 3 4 5	実習第2～5日目: 在宅看護学実習:訪問看護ステーション第2～5日目 (1)訪問看護ステーションの管理者より、施設オリエンテーションを受ける。 (2)訪問看護師とともに療養者宅を訪問し、様々な訪問看護のケースを見学する。 (3)同行訪問により、訪問看護技術を見学・体験する。 (4)サービス担当者会議などの他職種との連携場面への参加、居宅介護支援事業所活動の紹介、モニタリング訪問などに参加する。 (5)カンファレンス等で訪問看護等について意見交換を行い、学びを共有する。	戸塚(智) 南	予習(120分): (1)実習目標を熟読し、翌日の実習の計画立案 (2)訪問事例の発達段階・疾患・看護の復習 復習(120分): (1)実習記録の整理 (2)受持ち療養者1事例について、ICFモデルを活用して 情報整理、アセスメントを行う。			
6	実習第6日目: 実習オリエンテーション(学内)	戸塚(智) 南	予習(120分):実習要項を熟読する。 復習(120分):2週目の実習の計画立案			
7 8	実習第7～8日目: 地域包括支援センター実習 (1)地域包括支援センターの指導者より、施設オリエンテーションを受ける。 (2)地域包括支援センターの相談業務(電話相談・窓口相談・訪問)の見学を通し、相談内容ならびに支援方法を学ぶ。 (3)介護予防事業、地域支援事業等に参加し、事業の目的、対象、運営方法、従事者、地域包括支援センターの関わりを学ぶ。 (4)カンファレンス等で地域包括支援センターでの支援活動について意見交換を行い、学びを共有する。 (5)地域包括支援センターでの学びをレポートする。	戸塚(智) 南	予習(120分):実習目標を熟読し、翌日の実習の計画立案 復習(120分):学習のまとめ、実習記録の整理、実習レポート			
9	実習第9日目: 地域医療連携室実習 (1)指導者(退院調整看護師)より、施設オリエンテーションを受ける。 (2)退院調整看護師とともに病棟の患者を訪問しながら退院調整看護師の役割を学ぶ。 (3)在宅療養を予定している患者とその家族に対する看護を通して、在宅療養に対する療養者・家族の悩みや不安に対する援助を学ぶ。 (4)カンファレンス等で退院調整や継続看護について意見交換を行い、学びを共有する。 (5)地域医療連携室実習での学びをレポートする。	戸塚(智) 南	予習(120分):実習目標を熟読し、翌日の実習の計画立案 復習(120分):学習のまとめ、実習記録の整理、実習レポート			
10	実習第10日目: 午前:実習のまとめと発表 午後:実習記録のまとめ、レポート作成、評価面接、記録物の整理・提出	戸塚(智) 南	予習(120分):2週間の学びをまとめる。			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)				特になし		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク			○			
⑤:プレゼンテーション			○			
⑥:実習・フィールドワーク			○			

<p><b>【課題のフィードバック】</b></p> <p>前日の実習に対する課題のフィードバックは翌日の実習ならびに学内実習のまとめで行う。</p>
<p><b>【成績の評価方法】</b></p> <p>&lt;評価基準&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護ステーション:対象者に対する訪問看護の意義とその人に合わせた看護援助、訪問看護師の役割について論じることを評価基準とする。</li> <li>・地域包括支援センター:地域包括支援センターの役割と機能について記述できることを評価基準とする。</li> <li>・地域医療連携室:退院調整看護師の役割と継続看護について記述できることを評価基準とする。</li> </ul> <p>&lt;割合&gt;</p> <p>訪問看護ステーション:70%、地域包括支援センター:20%、地域医療連携室:10%</p>
<p><b>【ルーブリック評価の活用( 無 )】</b></p>
<p><b>【履修申請上の条件】</b></p> <p>3年前期までのすべての必修科目</p>
<p><b>【教科書】</b></p> <p>ナーシング・グラフィカ 在宅看護論:地域療養を支えるケア 第6版(1)(2) メディカ出版  上田敏:ICF(国際生活機能分類)の理解と活用一人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるかー、きょうされん</p>
<p><b>【参考書】</b></p> <p>在宅看護実習ガイド 照林社  系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 第5版 医学書院</p>
<p><b>【オープンな教育リソース】</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>【担当教員の実務経験】</b></p> <p>戸塚智美: 臨床看護・訪問看護の実務経験をもとに、疾患や障害が対象の日常生活に及ぼす影響と療養者とその家族に対する看護を総合的に教授する。  南幸子 : 臨床看護、訪問看護、特定居宅支援事業所、地域包括支援センターの勤務経験から地域・在宅で生活するために必要な看護支援を教育内容に取り入れた授業を展開する。</p>
<p><b>【オフィスアワー】</b></p> <p>戸塚智美: 月～金 12:10～13:00  南幸子 : 月～金 12:10～13:00</p>
<p><b>【教員連絡先】</b></p> <p>戸塚智美:stotsuka@g.t-junshin.ac.jp  南幸子 :sminami@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p><b>【備考】</b></p> <p>特になし</p>

授業科目名	看護研究方法	担当教員名	渡辺羊子・宗定水奈子			
コード	19NAD415	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	2年次/通年	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】	看護研究の目的・意義について理解し、看護研究を行うための研究方法と研究プロセスに関する基礎的な知識を修得する。また、具体的な研究論文に触れつつ、看護現象を解明、説明、予想するための量的・質的研究方法の中から代表的な各種研究方法を学び、特徴を理解し、研究の可能性および看護の創造性について考察する。研究に必要な文献検索の意義や方法を学び、実際に文献検索を行い研究課題に関する文献を系統的に収集し、正しく読みまとめる力を養う。4年生の看護研究発表会を聴講し研究プロセスを学び、看護研究の探求心を深める。					
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー	
1 看護研究の目的・意義・範疇について説明できる。					○	
2 看護研究の分類・デザイン・研究プロセスについて説明できる。					○	
3 主な研究方法(量的・質的)の特徴について説明できる。					○	
4 研究計画書の構成要素ごとの必要な内容について説明できる。					○	
5 研究における倫理原則に基づき倫理的配慮について説明できる。					○	
6 文献検索の基本方法を理解し、文献収集ができる。					○	
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	科目ガイダンス 看護研究の目的・意義	渡辺・宗定	予習(60分):テキスト目次・全体に目を通した上で、テキストp11～20を読んでおく 復習(60分):講義およびノートの振り返り			
2	研究のプロセス 看護実践における研究課題の明確化、理論的枠組み	渡辺・宗定	予習(60分):テキストp20～38を読んでおく 復習(60分):講義およびノートの振り返り			
3	文献検索および検討 文献検索方法・図書館利用の仕方	渡辺・宗定	予習(60分):テキスト39～49を読んでおく 復習(60分):文献検索トライアル			
4	文献検索および検討 看護研究における倫理的配慮	渡辺・宗定	予習(60分):テキスト62～81を読んでおく、関心のある論文を探しておく 復習(60分):研究における倫理的配慮についてノートにまとめる			
5	質的研究① 質的アプローチの研究デザイン	渡辺	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り			
6	質的研究② 質的アプローチの研究手法	渡辺	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り			
7	質的研究③ 質的データ分析方法	渡辺	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り			
8	質的研究④ 質的研究のまとめ	渡辺	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義で学修したことをノートにまとめる 文献検索トライアル			
9	量的研究① 量的アプローチの研究デザイン	宗定	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り			
10	量的研究② 量的アプローチの研究手法	宗定	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り			
11	量的研究③ 量的データ分析方法	宗定	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り			
12	量的研究④ 量的研究のまとめ	宗定	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義で学修したことをノートにまとめる 文献検索トライアル 【課題】興味関心のある原著論文を5本取り寄せ、提出(提出、期限等詳細は別途知らせる)			
13	研究課題の明確化 論文のクリティーク・発表の仕方	渡辺・宗定	予習(60分):テキストp230～236うを読んでおく 復習(60分):発表会参加し学んだことをノートにまとめておく			
14	研究計画書の形式と作成プロセス①	渡辺・宗定	予習(60分):テキストp206～215 復習(60分):研究課題の明確化をしノートにまとめる			
15	研究計画書の形式と作成プロセス②	渡辺・宗定	予習(60分):今までの振り返り 復習(120分):提出課題の見直し *時間外学修時間は、60時間必要であるため、不足分は休日等を活用して復習すること。 【終了時課題提出】1, 授業のまとめと取り寄せた文献5本以上を綴じたファイル 2, 課題レポート(テーマ、期限等詳細は別途知らせる)			



【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	国会図書館へ行き、文献調べる 4年生の看護研究発表会に参加
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
<b>【課題のフィードバック】</b>		
リアクションペーパー、小テスト等は次回の講義でフィードバックする。		
<b>【成績の評価方法】</b>		
課題:課題レポート40% 課題への取り組み・課題への提出物の総合評価 40% ファイル提出:授業で使用したプリント整理・成果をまとめたプリントをファイルし提出 20% 合計:100% <b>【ルーブリック評価の活用(有)】</b>		
<b>【履修申請上の条件】</b>		
特になし		
<b>【教科書】</b>		
ナーシンググラフィカ 基礎看護学④看護研究 MCメディカ出版2023		
<b>【参考書】</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・南裕子 看護における研究 日本看護協会出版会 2017</li> <li>・黒田裕子 看護研究 Step by Step第5版 医学書院 2017</li> <li>・早川和生 JIN SPECIAL 看護研究の進め方論文の書き方 第2版 2014</li> <li>・上野栄一・出口洋二・一ノ山隆司 楽しくなる看護研究 メジカルフレンド社 2012</li> <li>・横山美江編著 よくわかる看護研究の進め方・まとめ方 第3班 医歯薬出版 2017</li> <li>・李節子 看護研究心得帳 医歯薬出版 2022</li> <li>・筒井真優美編著 アクションリサーチ入門 ライフサポート社</li> <li>・石井京子・多尾清子:ナースのための質問紙調査とデータ分析 第2版 医学書院</li> <li>他 適宜紹介</li> </ul>		
<b>【オープンな教育リソース】</b>		
特になし		
<b>【担当教員の実務経験】</b>		
渡辺:研究教育では、大学等での保健師・看護師・福祉系の卒業研究指導あり。修士・博士課程の研究経験を踏まえ、研究の基本を中心に講義を行う。 宗定:総合病院の卒後教育において、初学者向けの看護研究概論の講師を務めた経験や、自身の研究経験から講義を行う。		
<b>【オフィスアワー】</b>		
渡辺羊子:火～金 12:10～13:00 宗定水奈子:月～木 12:10～13:00		
<b>【教員連絡先】</b>		
渡辺羊子:ywatanabe@g.t-junshin.ac.jp 宗定水奈子:mmunesada@g.t-junshin.ac.jp		
<b>【備考】</b>		
科学的実証研究に基づいた看護実践をするために、看護学研究に関する基本的な知識を学ぶ。科学的な文献を読むためには、基本的な統計学的知識が必須であるため、自己学習をしておくことアドバイスが必要な学生は担当教員まで相談のこと。看護研究ゼミナールや看護研究の実践のベースとなる科目であり、自らの興味・関心がもてる部分から学習を進めていくを期待する。		

授業科目名	看護研究 I	担当教員名	渡辺羊子、専任教員			
コード	19NAD416	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	2年後期から4年次/通年	単位/時間数/形態	4単位/120時間/演習(ゼミ)			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ確かな臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
これまでの講義・演習・実習の学びから、自己の研究疑問(Research Question)に基づいた研究テーマと目的を明確にする。それを真摯に探究することを通じて、研究手法を学修し、研究的思考を養う。所属ゼミの学修方法・ルールに従って自主的、自律的に学修する。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
				ディプロマ・ポリシー		
				①	②	③
1 看護における研究課題とその意義を明確にし、文章化することができる。						○
2 文献検索を行い、研究課題に関する適切な論文をクリティークし、文献検討としてまとめることができる。						○
3 研究を実施するために必要な倫理的配慮について説明できる。						○
4 研究目的を達成するためにふさわしい方法を選択し、実現可能な計画を作成することができる。						○
5 看護研究が人々の健康にもたらす貢献について考察し記述できる。						○
【授業計画】						
授業計画		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
看護研究方法を履修し、看護研究の基礎的な知識、技術を修得したことが前提となる。 次のステップとして、ゼミとして120時間をかけて、研究計画書を作成することがこの科目の学習課題である。 講義・実習などこれまでに学習したことを踏まえ、看護学生の視点から自己のテーマと目的をもち、研究的思考や手法を身につける。4年間の集大成として、看護研究の講義で学んだ研究プロセスを、個々の課題にそって進め、研究計画書までの作成を行う。 学生の興味関心の深い領域での研究を行えるよう、助手を除く全教員が3～4名の学生を担当して指導する。助教は、専門分野の教授もしくは准教授の助言を受けつつ学生指導を行う。 研究領域の決定後、担当教員の下で、研究をすすめる。  【2年次後期】講義・演習 論文の探し方、論文の読み方、4年次生の看護研究 I 発表会への参画等 5コマ 10時間(2022年2年次済) 【3年次前期】講義・演習 論文の読み方、論文のクリティーク、看護研究方法の復習 * 3年次配当時間 5コマ 10時間 【4年次通年】ゼミナール 研究テーマの決定、テーマに関する文献検索、文献を読み、文献レビュー * 4年次配当時間 50コマ 100時間 合計60コマ120時間		3年次 担当渡辺  4年次 担当担当 ゼミ教員	担当の教員から出された課題を次回ゼミまでに行い、進捗状況の報告後にフィードバックを受け、次の課題に取り組む。			
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)		○	4年次、看護研究計画書の発表会を行う。			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○				
③:ディスカッション・ディベート		○				
④:グループワーク		○				
⑤:プレゼンテーション		○				
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
ゼミ形式:課題をした上でゼミに参画し、フィードバックを受けながら研究を進めていく。						
【成績の評価方法】						
ゼミ担当教員が評価表に基づいて評価する。						
【ルーブリック評価の活用(無)】						
【履修申請上の条件】						
看護研究方法の履修						
【教科書】						
・黒田裕子 看護研究 Step by Step 第5版 医学書院 2017						
【参考書】						
・南裕子 看護における研究 日本看護協会出版会 2017 ・D.F.ポーリット/C.T.バック著、近藤潤子監訳 看護研究 原理と方法(第2版)2010 医学書院 ・ナーシンググラフィカ 基礎看護学④看護研究 MCメディカ出版 2023 ・早川和生 JJN SPECIAL 看護研究の進め方論文の書き方 第2版 2014 ・横山美江編著 よくわかる看護研究・まとめ方 第3版 医歯薬出版 2017 ・筒井真優美編著 アクションリサーチ入門 ライフサポート社 2010 ・石井京子・多尾清子 ナースのための質問紙調査とデータ分析 第2版 医学書院 2002 他 適宜紹介						
【オープンな教育リソース】						
特になし						
【担当教員の実務経験】						
研究に精通したゼミ教員が指導にあたる。						
【オフィスアワー】						
演習日						
【教員連絡先】						
担当教員の研究室及びGmailアドレス確認のこと						
【備考】						



授業科目名	看護研究Ⅱ	担当教員名	渡辺羊子 専任教員					
コード	19NAD417	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	4年次/通年	単位/時間数/形態	2単位/60時間/演習(ゼミ)					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
看護研究Ⅰで作成した研究計画書に基づき、研究の実施、論文の作成・発表を通じて、研究の一連のプロセスを経験する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1	倫理的配慮を行いつつ、研究計画書に基づき、厳正な方法論に則ったデータ収集ができる。				○			
2	データの分析方法に則り、データ分析が実施できる。							○
3	結果に基づき考察を行い、卒業論文としてまとめることができる。							○
4	研究の概要をわかりやすく発表することができる。							○
5	看護研究が人々の健康にもたらす貢献について考察し記述できる。							○
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
	この科目の学習課題は、研究計画書に基づき、データ収集、分析、結果、考察を行い、論文としてまとめ、学内で発表することである。	専任教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当の教員から出された課題を次回までに行い、提示する。</li> <li>・自律的な学修活動の進捗状況についても適宜報告をする。</li> </ul>					
	<p>看護研究Ⅰで作成した研究計画書に基づき、実際にデータ収集、分析、結果、考察を行い、看護研究論文としてまとめ、発表までを行うことにより、研究の一連のプロセスを理解する。</p> <p>看護研究Ⅰと同様、助手を除く全教員のうち、学生の研究テーマに応じ、専門分野を活かして1名の教員が学生3～4名程度を担当する。助教は、専門分野の教授もしくは准教授の助言を受けつつ学生指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究計画書の再検討(修正)</li> <li>・看護学部研究倫理審査会における審議・承認</li> <li>・研究計画に基づく実施</li> <li>・データ収集、集計</li> <li>・データ分析、結果、考察</li> <li>・論文作成</li> <li>・研究発表会</li> </ul>							
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫					
①	PBL(課題解決型学習)							
②	反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○						
③	ディスカッション・ディベート	○						
④	グループワーク	○						
⑤	プレゼンテーション	○						
⑥	実習・フィールドワーク	○						
【課題のフィードバック】								
ゼミ形式:課題をした上でゼミに参画し、フィードバックを受けながら研究を進めていく。								
【成績の評価方法】								
担当教員が評価表に基づいて評価する。								
【ルーブリック評価の活用(無)】								
【履修申請上の条件】								
看護研究方法、看護研究Ⅰの履修								
【教科書】								
・黒田裕子 看護研究 Step by Step 第5版 医学書院 2017								
【参考書】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・南裕子 看護における研究 日本看護協会出版会 2017</li> <li>・D.F.ポーリット/C.T.ベック著、近藤潤子監訳 看護研究 原理と方法(第2版)2010 医学書院</li> <li>・ナーシンググラフィカ 基礎看護学④看護研究 MCメディカ出版 2023</li> <li>・早川和生 JJN SPECIAL 看護研究の進め方論文の書き方 第2版 2014</li> <li>・横山美江編著 よくわかる看護研究・まとめ方 第3版 医歯薬出版 2017</li> <li>・筒井真優美編著 アクションリサーチ入門 ライフサポート社 2010</li> <li>・石井京子・多尾清子 ナースのための質問紙調査とデータ分析 第2版 医学書院 2002</li> </ul> 他 適宜紹介								
【オープンな教育リソース】								
特になし								
【担当教員の実務経験】								
研究に精通した教員が指導にあたる。								
【オフィスアワー】								
演習日								
【教員連絡先】								
担当教員の研究室及びgmailアドレス								
【備考】								
特になし								